秋　田　市

下堤D遺跡発掘調査報告書

1982. 3　　秋田市教育委員会

序

御所野周辺一帯は昔から、土器、石器の出土するところとして知られている所で、この度、秋田臨空港新都市開発事業に伴う下提D遺跡発掘調査の結果、旧石器時代から平安時代の人々の生活跡で、多くの貴重な遺物が出土しました。

調査の実施にあたっては、県・関係機関の指導援助をはじめ、地元関係者、土地所有者等多くの方々の積極的なご協力をいただき深く感謝申しあげる次第です。

本報告書が文化財保護のため、さらには研究資料として広く活用されれば幸甚に存じます。

昭和57年３月

秋田市教育委員会 教育長職務代行者
次 長　池 田　　正

例　　言

1．本報告書は、秋田市四ツ小屋小阿地字下堤に所在する下堤Ｄ遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2．本報告書は、安田忠市、田口　都、両補佐員の協力を得て菅原俊行が編集したものである。

3．本報告書の執筆は第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章（旧石器時代）、第Ⅴ章は菅原俊行、第Ⅳ章遺構は田口　都、遺物は安田忠市が担当し、菅原が加筆した。

4．第Ⅱ章遺跡の地形、地質は「小阿地下堤遺跡／坂ノ上遺跡発掘調査報告書」の第Ⅱ章を抜粋し、利用したものである。

5．発掘調査、整理には下記の各氏より助言を賜った。

川井正一　河原純之　加藤邦雄　小林達雄　林　謙作　野尻　侃

秋田県文化課、富樫泰時氏には全面的に指導、助言をいただいた。

6．整理は下記の人々の協力を得た。

佐々木直人、三浦千枝子、伊藤茂子、大友幸子、川井　尚、木村　徹、相場　修

目　　次

序

例言

第Ⅰ章　調査に至る経過・調査体制……1

第Ⅱ章　遺跡の位置・地形・地質……1

第Ⅲ章　調査の方法と経過……6

第Ⅳ章　遺構と遺物……8

(1) 1 地区……8

(2) 2 地区……18

(3) 3 地区……49

(4) 4 地区……56

第Ⅴ章　まとめ……66

下堤D遺跡航空写真

第Ⅰ章　調査に至る経過・調査体制

秋田県商工労働部を通じ、秋田市企画調整課より秋田市御所野地区一帯を内陸工業団地造成地域にしようとする計画がある旨、市教育委員会に昭和55年９月に連絡があり、この地域一帯の埋蔵文化財に関する状況の説明を求められ、計画地域内の周知の遺跡数、範囲等を報告した。この時点では、周知の遺跡は５ヶ所であり、台地のあり方からは他にも遺跡の存在することが予想されていた。その後、造成事業開始に際し、埋蔵文化財の分布状況を把握しておく必要があるとの県、市協議結果に基づき、12月上旬に市教育委員会でほぼ全域にわたり分布調査を実施したところ、前述遺跡の他に30ヶ所の遺物散布地が確認され、その面積は約243,000㎡と推定されたのである。

昭和56年４月、造成事業地区が計画され、この計画地区には分布調査の結果５ヶ所の遺物散布地（面積約18,000㎡）が含まれていることがわかった。造成計画事業の工程から発掘調査については市教育委員会が担当することに決まり、４月８日から現地での作業を始めたのである。

調査体制

調 査 期 間　昭和56年４月８日～11月28日

調査主体者　秋田県商工労働部

調査担当者　秋田市教育委員会

調　査　員　菅原俊行、石郷岡誠一（秋田市社会教育課）

調査補佐員　西谷　隆、安田忠市（秋田城跡発掘調査事務所）、田口　都（秋田考古学協会会員）

調査協力員　武藤康弘（国学院大学）、本間　宏（明治大学）、石川恵美子（筑波大学）、谷口重光（天王郵便局）

調査作業員　鈴木銀一、鈴木長治、鈴木茂治、鈴木　満、三浦武治、三浦　馨、三浦吉男、三浦吉司、岩崎岩五郎、鈴木トミ、鈴木慶子、鈴木キヨ、三浦トミエ、三浦千枝子、堀井ヤス、橋本栄子（四ツ小屋小阿地地区）加藤満子、大友幸子（四ツ小屋中野地区）伊藤茂子（四ツ小屋上町地区）佐々木フミ、佐々木直人、加藤　均（仁井田地区）鈴木徳行、鈴木　浩、鈴木和人、塚田　誠、土崎龍郎、川井　尚、木村　徹、相場　修

第Ⅱ章　遺跡の位置・地形・地質

遺跡の位置

下堤Ｄ遺跡は秋田市四ツ小屋小阿地字下堤に所在する。秋田市街から国道13号線を南下し、仁井田、横山地区を過ぎると三叉路があり、そこを右の道に入り約200m 進んだ西側の台地一帯が遺跡で

上通り
神田新町
水口
登木
新川
泉
八田
大曲
古町
長崎
柳田
寒川
松崎
谷内佐渡
手形
広面
下北手
上北手
小山田
桜
大戸
百崎
福島
猿田
仁井田
大野
新田
横町
中野
柳林
四小屋
寺村
後古野
古野
御所野
横山
宝竜崎
堂前
松本
豊成
石田坂
居使
中島
豊巻
秋
大平山三吉神社
秋田大学
農業試験場

第１図　遺跡の位置

ある。この下堤Ｄ遺跡のさらに西約0.8kmの台地端は下堤Ａ、Ｂ、Ｃ遺跡である。Ｄ遺跡には二つの沢があり、杉林で、湧水地である。この地域はもともと畑地として利用されていたが、現在一部の畑を除き、そのほとんどが荒地、萱場と化している。北西部に延びる細長い舌状台地の先端からは秋田市街が一望できる。Ｄ遺跡は分布調査の結果等で１～４地区に分けて調査をした（第５図）。１地区は南東部。２地区は東部。３地区は北部。４地区は南西、西部である。

遺跡の地形・地質

下堤Ａ～Ｄ遺跡を含む末戸台付近の地形を大別すると和田丘陵と末戸台台地に分けられる。和田丘陵は平坦面をあまり持たない。しかし、定高性を持った標高 60～150m のかなり開析を受けた老年期地形を示し、地質は第３系鮮新統に属する青色砂質シルト岩（笹岡層）と青灰色塊状泥岩（天徳寺層）、それに中新統に属する暗灰色泥岩（船川層）などからなっている。末戸台台地は標高25～50m 強で、その表面は大変平坦である。この台地は和田丘陵と接して、数段の段丘を識別できる。これらは内藤[1]の区分からすると、上位から標高45～50m 強の椿台段丘、標高40m 強の上野台段丘Ⅰ、標高35m 強の上野台段丘Ⅱ、標高25m 強の宝竜崎段丘の４段に分けられる（第２図）。

①椿台段丘

岩見川右岸末戸台台地では45～50m 強の標高をもつ、いわゆる椿台面をその推積面とする椿台層が、厚い礫（最大径10cm前後）、砂、粘土の互層で構成されている。ただ基底高度はわからない。岩相は最上部に１～２ｍの褐色の粘土質火山灰層があり、次に礫・砂・粘土の互層で、砂礫の部分でしばしばクロス・ラミナ（斜交葉理）がみられ、砂土あるいはシルトは水平な細かい層理をなすことが多い。層厚をみると、礫層はうすく、砂・粘土層が厚い。その下部は第３系の泥岩（船川層）や砂質シルト（笹岡層）となっている。

②上野台段丘Ⅰ

末戸台台地で椿台段丘の南側に標高40m 強でついている段丘が、上野台段丘Ⅰと呼ばれている。表層の１～２ｍの粘土質火山灰層を除くと、段丘堆積物は最大径20～30cmの礫を含む礫層であり、厚さは５ｍ程度でその下部は第３系となっている。下堤遺跡は、この上野台段丘Ⅰに位置する（第３図）。

③上野台段丘Ⅱ

末戸台台地では上野台段丘Ⅰとの比高が５ｍ強である。段丘堆積物の岩相は上野台段丘Ⅰとほぼ同様で、層厚は５ｍ前後である。内藤によれば、厚い礫層の下部は椿台層に当たるとしている。

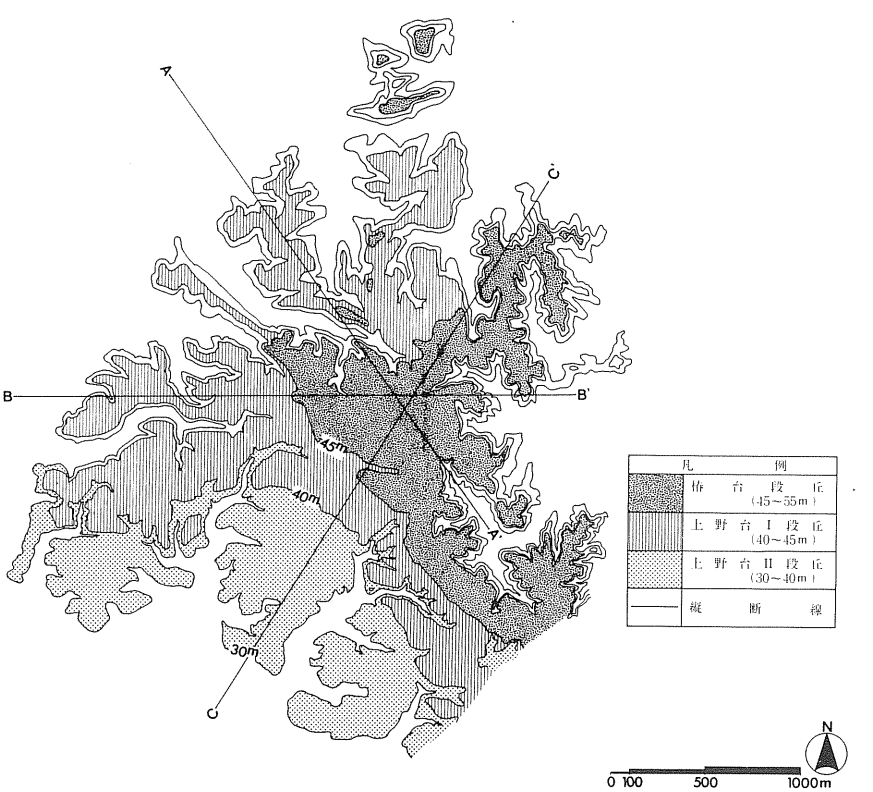
④宝竜崎段丘

末戸台台地の北縁の宝竜崎付近に分布し、他の段丘との関係を判然とさせる。標高20m 前後である。段丘堆積物の厚さは約８ｍで上部１ｍ前後は砂混じりシルト、以下は砂礫層で砂の多い部分と礫の多い部分とが層理をなす。礫は最大径15cm弱で上野台Ⅰ・Ⅱ段丘の段丘礫層に比べて小さい。基底には50cm以下の泥岩の塊が点在する。内藤によれば、基盤は椿台層の砂層であり、不整合面はほ

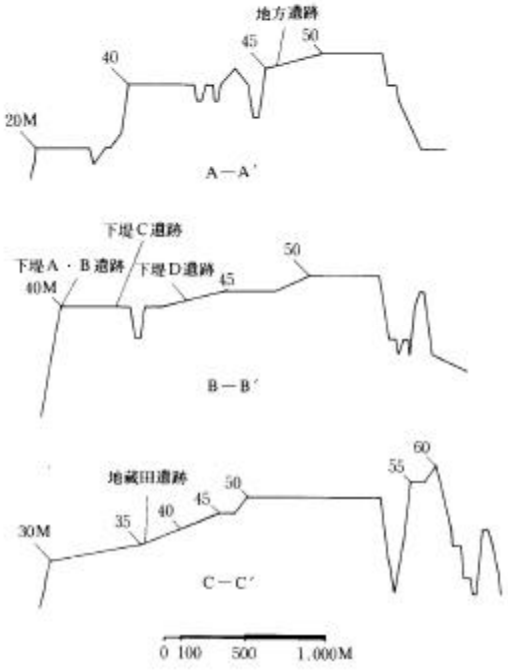
ぼ水平であるとしている。これに対比されうる段丘およびそれより若干低い段丘が雄物川沿いで発達がよい。

段丘堆積物の特徴

前述の４つの段丘のうち、上野台Ⅰ・Ⅱ面では最大径30cm前後の亜円礫を主体とするほぼ一様な礫層をもつ。また、椿台面、宝竜崎面では礫・砂・粘土の互層で比較的細粒であり、垂直、水平方向に変化が大きい。ゆえに、上野台Ⅰ・Ⅱ面は明らかに河川堆積物で、厚さも加味すると、岩見川などによる河成の浸食段丘面と考えられる。これに対し、椿台面と宝竜崎面は上野台Ⅰ・Ⅱ面よりも運搬力の弱い環境下で堆積したことは明らかで、岩相を加味すると、浅海性ないし河口性堆積物と考えられる。また、宝竜崎面を除く椿台、上野台Ⅰ・Ⅱの各面をおおっている層厚１～２ｍのシルト分を含んだ粘土質火山灰層は、経済企画庁の土地分類基本調査[2]秋田県教育委員会の「八郎潟の研究」[3]及び村山[4]、林[5]などの研究調査をもとにすると、男鹿半島の寒風山が起源と一応考えられている。この粘土質火山灰層の表層細粒物質の風化状態をみていくと、椿台面、上野台Ⅰ・Ⅱ面では黒色土の下の細粒物質のうち、上部50～100cmが明褐色を呈し、下部は灰色で、境は漸移する。また、土壌断面をみると、椿台、上野台Ⅰ・Ⅱ画をおおう土壌は、いわゆる高岡２統に属していると考えられ、比較的大きい円礫を混入していて、黒色土層を厚く堆積させている。この層中には火山ガラスを混入しており、火山灰が関係しているものとものと推定される。（第４図）は下提Ｄ遺跡で調査された土質柱状図[6]である。



第２図　段　　丘



第３図　地形断面

参　考　文　献

1)内藤博夫　「秋田県岩見川流域およびその周辺の段丘について」第４紀研究第４巻第１号1965年

2)経済企画庁土地分類企画調査「秋田」1966年

3)秋田県教育委員会「八郎潟の研究」1965年

寒風山噴火史の推定

初　歴・土師時代	…小噴火（？）
縄文・弥生時代	…大噴火降灰・溶岩流出
縄文晩期　後期 中期	…１－２回噴火
前期 早期	…噴火降灰
潟西層 潟西層　以前	…噴火（？） …（？）

八郎潟の研究　S40　（秋田県教育委員会）

4)村山　磐　「火山活動と地形」　大明堂

5)林　　宏　「秋田県男鹿半島一の目潟周辺の火山噴出物について」地質学雑誌第61巻第717号 1955年

6)有限会社　加賀伊ボーリング　「報告書第18号土質調査試験」　1981年

第４図　土質柱状図

第Ⅲ章　調査の方法と経過

方　法

分布調査の結果、計画地区には５ヶ所の遺物散布地が確認されており、その面積は約18,000㎡に及び、縄文時代～平安時代の遺物が見られた。５ヶ所のうち４ヶ所は字名下堤、１ヶ所は字名大杉沢であり、まず下堤から発掘調査を開始することとし、遺跡名は昭和43年～48年まで調査した下堤Ａ、Ｂ、Ｃ遺跡に今回の地区をＤ地区として加え、下堤Ｄ遺跡と呼び、これらを総称して従来どおり「下堤遺跡」とした。

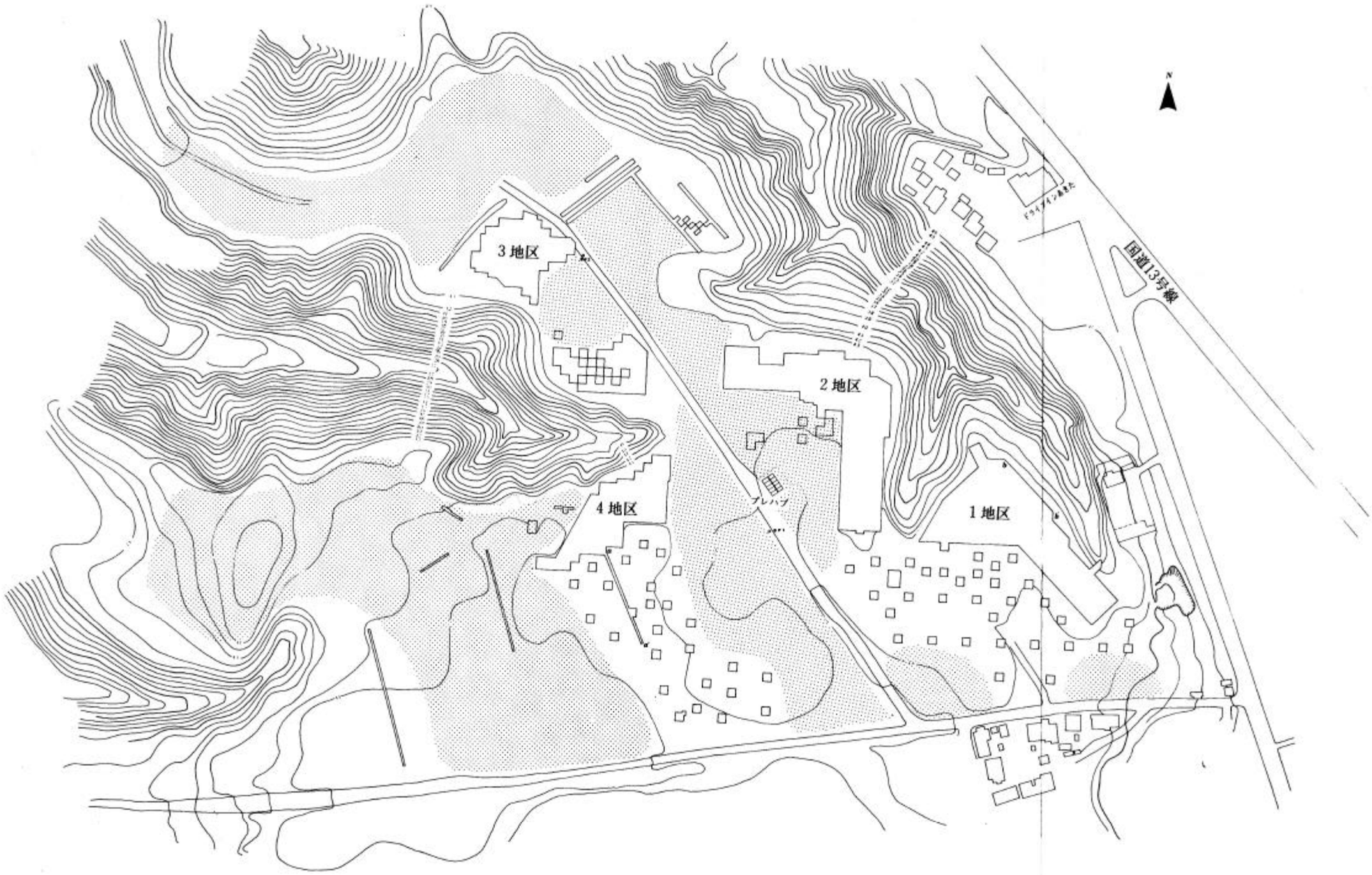
Ｄ遺跡の調査対象面積は約17,000㎡あり、プレハブ（作業小屋）の建つ南西約16m に原点を任意に決め、東西南北（磁北）に基準線を作り、大グリッド（40m ×40m ）を35、その中に小グリッド（４m ×４m ）を設定し、調査を実施することにした。分布調査の結果と発掘作業の関係で４地区に分けて調査することにしたのであるが、この周辺一帯は昔からの畑地であり、良質の黒土（耕作土）が得られるため、業者等による黒土採取がひんぱんに行なわれ、Ｄ遺跡の大部分がローム層までも削平されていた。発掘調査は２、４、３、１地区の順に実施した。

経　過

４月８日、下堤Ｄ遺跡の下見を行ない、調査にあたり、１、４地区は萱が一面に茂り、ブルドーザで表土の一部も含めて排除すること、２地区は廃棄されているゴミを排除すること、３地区は雨水溜りの排水の必要があることなどがわかった。４月14・15日調査区グリッド設定作業。２地区（４月16日～７月４日、発掘調査面積2,871㎡）。廃棄物の多い地区で表土剝ぎ作業で困難。北側、中央部に遺構を確認するが、黒土採取で削平されていた。４地区（６月18日～８月10日、発掘調査面積2,001㎡）。調査区東側、西側はブルドーザーによる黒土採取のためローム層まで削平されていた。全域に遺物の出土は少なく、一部グリッド（４m ×４m ）、トレンチによる調査を実施。３地区（７月31日～９月25日、発掘調査面積2,247㎡）調査区は北側の雑木林（一部ブルドーザによる削平）、東側の杉苗畑、中央部の水溜りを除く範囲で、一部トレンチ、グリッドによる調査を実施。１地区（９月21日～11月25日、発掘調査面積3,136㎡）。この調査区は、元々畑地であり（２ヶ所の畑が耕作中であり、畑作の取り入れを終了後発掘調査を実施する承諾を得た）、ローム層までの攪乱が著しく、本遺跡では初めて確認された旧石器時代の遺物まで影響があった。大杉沢地区についての発掘調査は造成計画から除外されたこと、時間的余裕がないこと等で調査を実施しなかった。

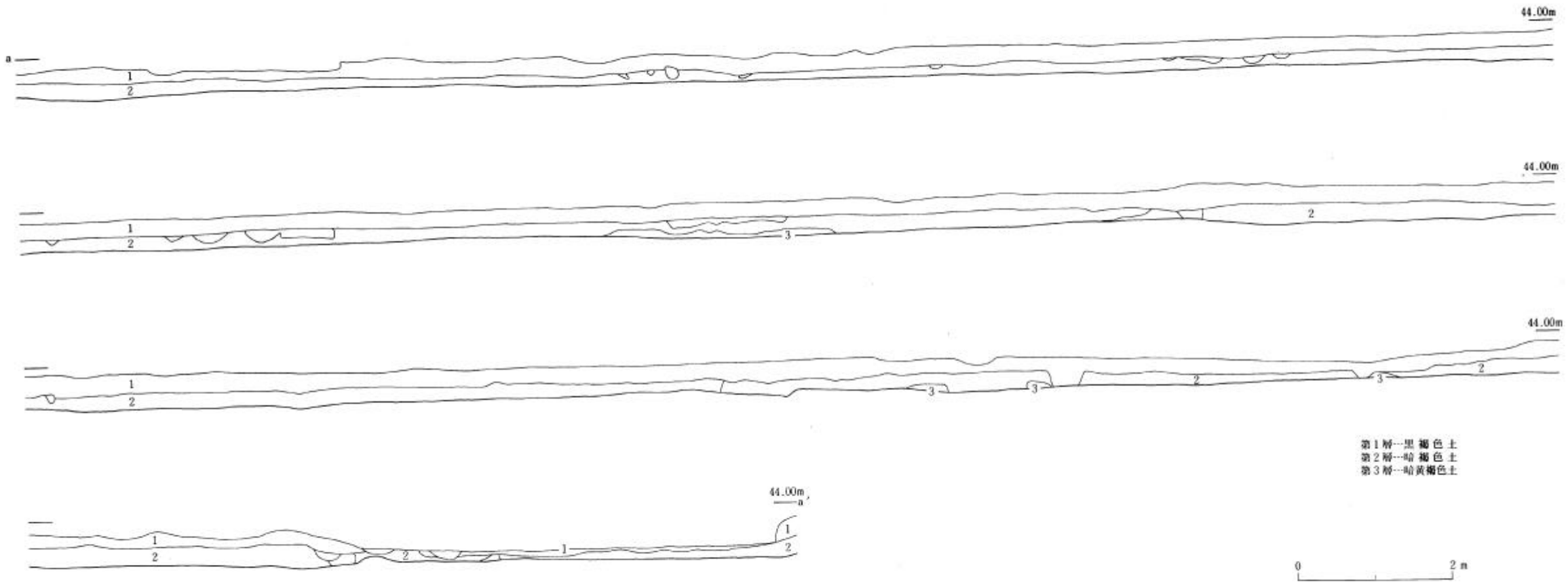
調査期間中来跡者（敬称略）河原純之（文化庁）、林　謙作（北大助教授）、小林達雄（国学院大助教授）、岩見誠夫、富樫泰時、畠山憲司、紫田陽一郎、高橋忠彦（秋田県文化課）、庄内昭男（秋田県立博物館）庄内公子（県税事務所）、斎藤章子（秋田大学）、仁井田小学校有志

調査面積 10,255㎡

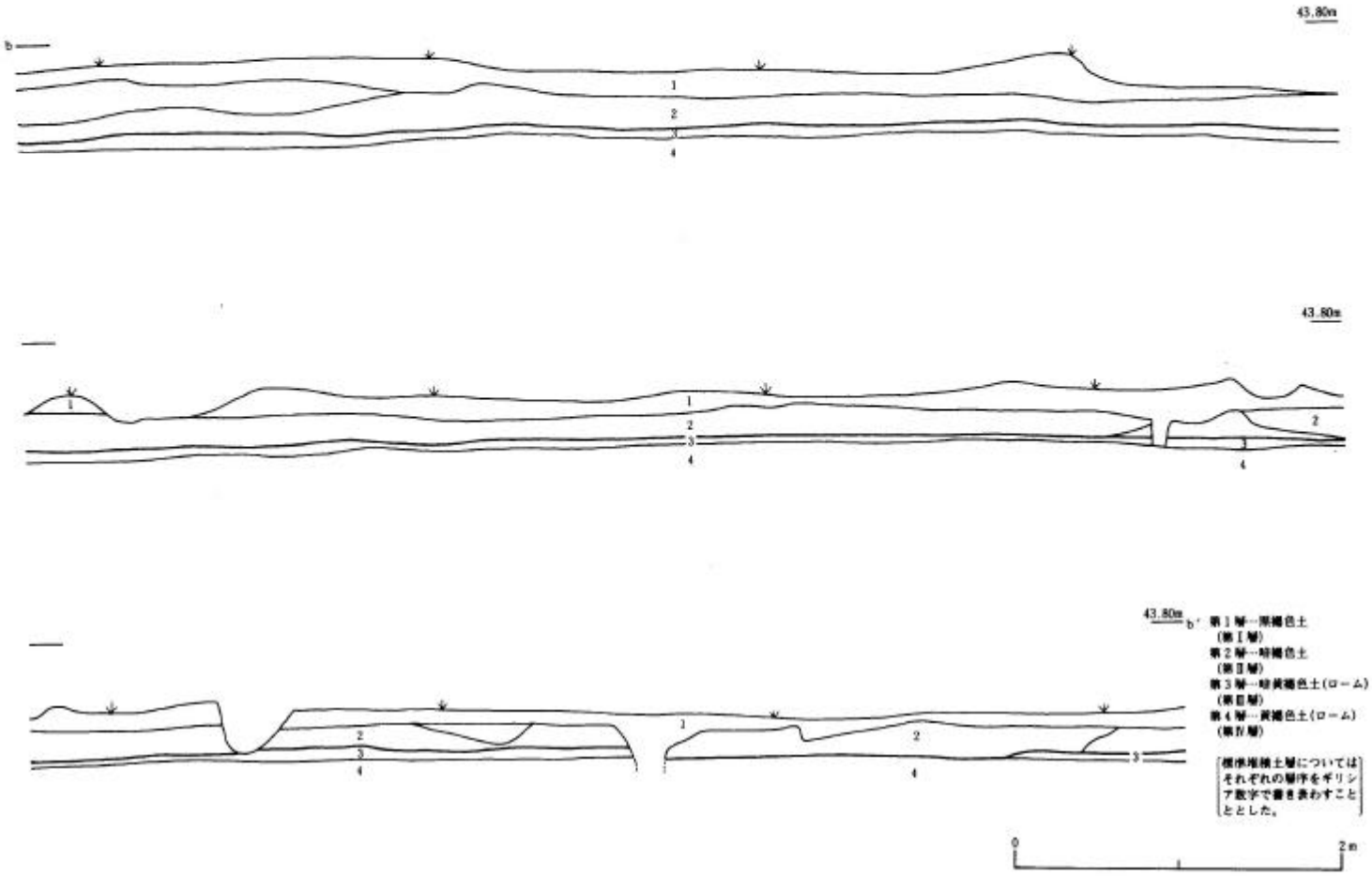


第５図　遺跡の地形図、調査区

削平及び攪乱地域



第6図　4地区土層断面図



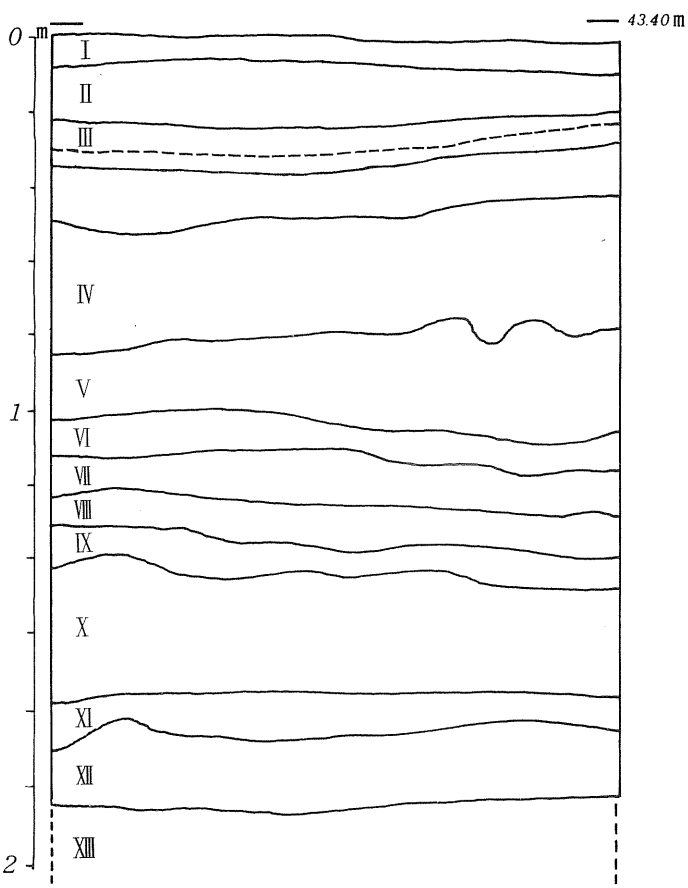
第7図　1地区土層断面図

第Ⅳ章　遺構と遺物

(1)　1地区

旧石器時代の遺物

旧石器時代と思われる遺物総数は約250点ほどあるが、畑耕作（長芋栽培）により、プライマリーな状態で出土した遺物は少なく、攪乱層などから出土したものも含め、形態等から石器として認定出来るものは26点ほどであり、剝片、チップが多い。遺物は第2層（暗褐色土、縄文期包含層）、第3層（ローム層、上部は暗黄褐色土で第2層との漸移層）から出土し、第8図の波線を中心とした第3層中部までであるが、旧石器時代の遺構等は確認出来なかった。石器の器種はナイフ形石器（2）、細石刃（5）、石刃（14）、彫刻刀形石器（2）、削器（1）、両面調整石器（2）である。石質は全て硬質頁岩である。



第8図　1地区土層断面図

Ⅰ層…黒褐色土、表土であり耕作土である。腐植土を含む。

Ⅱ層…暗褐色土、炭化物を含む耕作土。

Ⅲ層…暗黄褐色土、粘質シルトで、上部は炭化物混入で、Ⅱ層の耕作土が入り込んでいる。下部は粘質シルトでやや黄色味を帯び、硬い。

Ⅳ層…黄灰色土、粘質シルト、青白色粘土を下部に含み、白色系を帯びる。比較的しまりがよく、部分的に剝離する所がある、下層に若干波状層がみられる。

Ⅴ層…青灰色土、よくしまった粘質シルト層。部分的に若干の黄色粘土粒を含む。

Ⅵ層…青灰色土、Ⅴ層より黄色、白緑色を帯びた粘質シルト。

Ⅶ層…黄灰色土、黄色粘土粒子を多量に含み、全体に黄色系の粘質シルト。

Ⅷ層…黄灰色土、Ⅶ層より白色系が強い。粘質シルト。

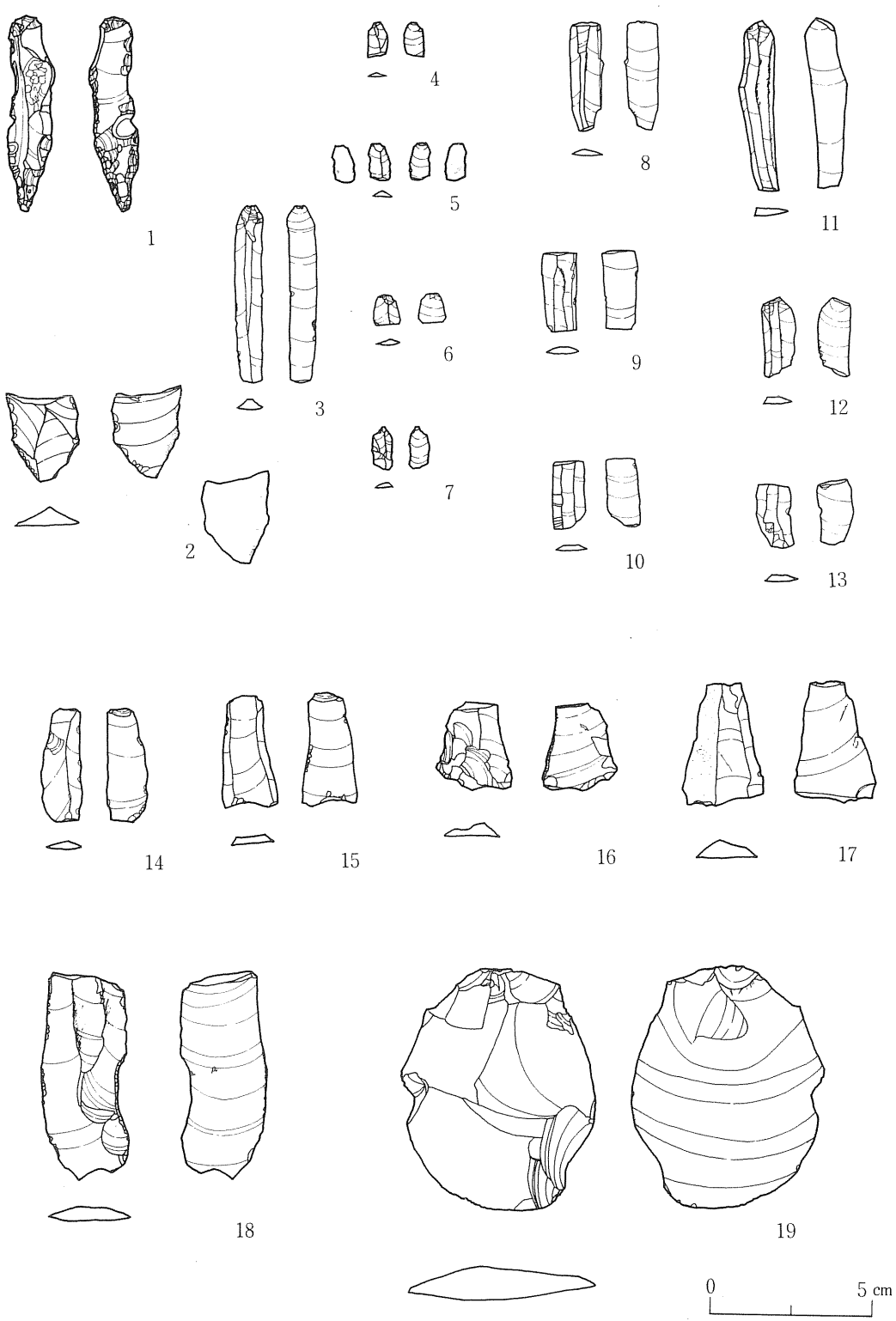
Ⅸ層…緑灰色土、白色味を帯びる粘質シルト。

Ⅹ層…緑白色土、白色味を帯びる粘質シルト。部分的に黄色粘土粒を含む。

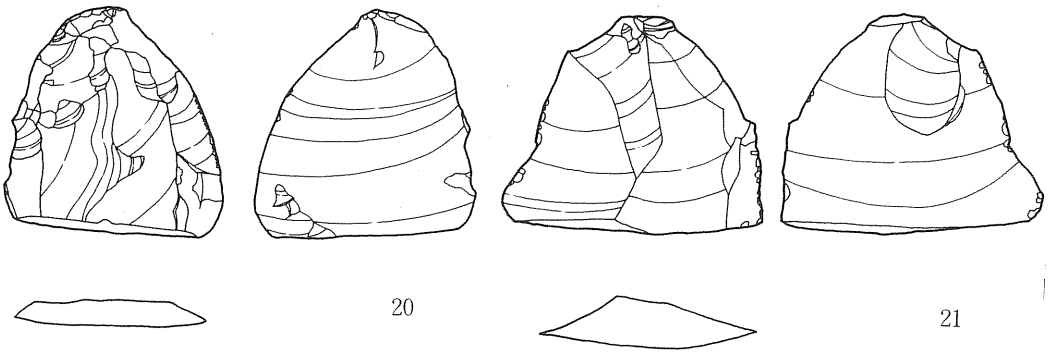
Ⅺ層…青灰色砂礫層、2～3㎜前後の小礫を含む砂層で粘質性が多少ある。

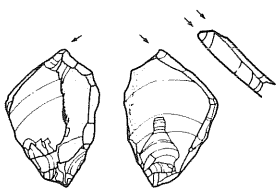
Ⅻ層…青白色粘土、ⅨとXIII層以下と思われる砂礫層の中間にある粘土層。

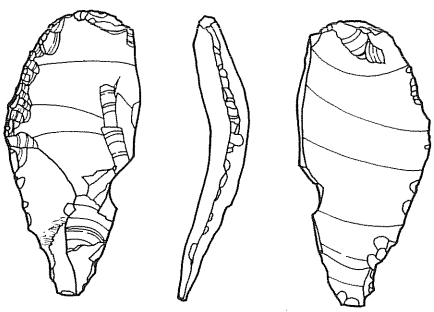
XIII層…青灰色砂礫層、5㎜前後の小礫を多く含む、全体に緑白青色を呈している。

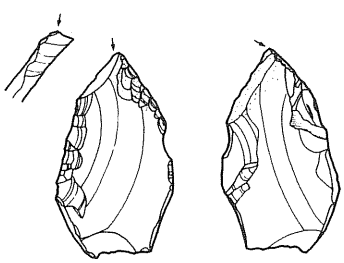


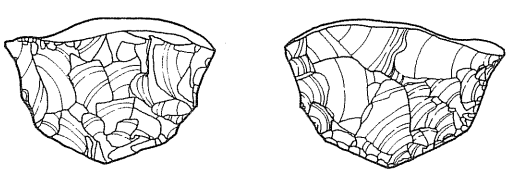
第９図　１地区旧石器時代の遺物

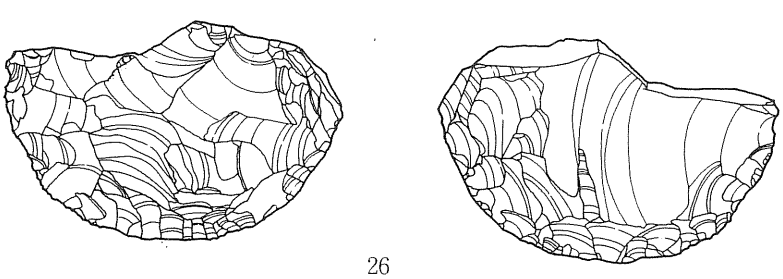












0 5 cm

第10図　1地区旧石器時代の遺物

ナイフ形石器（第９図１、２）

いずれも完形ではないが、１は細身の柳葉形で、基部両面と主要剝離面の片側縁に刃潰し調整がなされている。２は折損し、全体形は不明であるが、背面基部に刃潰し調整がみられる。主要剝離面の剝離は刃潰し調整として明確ではない。主要剝離面側縁に、わずかにアスファルト状の付着が認められる。

細石刃（第９図３～７）

細石刃の数が少ないことと、細石核と断定できる資料もないが、二つのタイプに分けられそうである。（３、６）と（４、５、７）である。それぞれ共通の特徴は、打面が薄く小さく残る。断面は内湾し、刃こぼれが見られることで、（３、６）は途中で折れており、（４、５、７）は完形で、長さは1～1.3cm程度であり、厚さは1.5mm前後で薄い。５の細石刃の両面にアスファルト状の付着物が認められる。

石刃（第９図８～19、第10図20、21）

石刃は三つのタイプに分けられる。巾が１cm前後で、厚さの薄いものＡ（８～14）、巾が２cm前後で、比較的厚いものＢ（15～18）、巾が６cm前後で、大形のものＣ（19～21）で、Ａ、Ｂタイプについては背面の全剝離面の加撃方向が主要剝離面と同方向のもの、背面の剝離面の中に逆方向の剝離面があるものがある。打面が残っているのは11、12である。17は自然面が残っている。Ｃタイプは打面をもち側縁に刃こぼれの見られるものである。

彫刻刀形石器（第10図22、23）

22は基部裏面調整がなされ、背面右側縁（自然面）に調整剝離で打面が作られ背面右肩からの打撃で彫刻刀面が作られている。23は横長剝片を素材としたもので、両側縁を調整剝離し、右肩からの打撃で彫刻刀面を作っている。

削器（第10図24）

打面が大きく残る縦長剝片を素材とし、背面一側縁に細部調整剝離を施し、刃部を作っている。

両面調整石器（第10図25、26）

両面調整素材とすべきものであるかもしれない。

まとめ

ユニットとして把握されるほど石器の出土状態は良くない。ナイフ形石器は、杉久保型と米ケ森型ナイフ形石器に近い。彫刻刀形石器はいわゆる荒屋型である。細石刃については、細石核が確認されていないので作出技法はわからないが、４、５、７の細石刃は完形であり、小形の細石核から剝取されたものと思われる。石刃は大形のものを除くと途中で折れているものが多い。石器の出土層位での時間差は明確ではないが、石器の組成からは杉久保型文化のカテゴリーの中に位置づけられるものである。

旧石器時代遺物一覧表

	器種	レベル(m)	石質	層位(出土状態)	備考
1	細石刃	43.199	頁岩	ローム上面	第9図3
2	彫刻刀形石器	43.205	頁岩	ローム上面	第10図22
3	剥片	43.176	頁岩	ローム上面	
4	剥片	43.140	頁岩	ローム上面	
5	ナイフ形石器	42.879	頁岩	Ⅱ層の攪乱	第9図1
6	チップ	43.362	頁岩	ローム上面	
7	剥片	43.506	頁岩	Ⅱ層	
8	剥片	43.476	頁岩	Ⅱ層	
9	石刃	43.363	頁岩	ローム上面の攪乱	第9図16
10	ナイフ形石器	43.373	頁岩	ローム上面の攪乱	第9図2
11	剥片	43.502	頁岩	Ⅱ層上面	
12	剥片	43.533	頁岩	Ⅱ層上面	
13	剥片	43.597	頁岩	Ⅱ層上面	
14	剥片	43.577	頁岩	Ⅱ層上面	
15	剥片	43.548	頁岩	Ⅱ層	
16	剥片	43.405	頁岩	Ⅱ層下	
17	剥片	43.522	頁岩	Ⅱ層	
18	剥片	43.576	頁岩	Ⅱ層	
19	剥片	43.479	頁岩	攪乱	
20	剥片	43.493	頁岩	Ⅱ層	
21	剥片	43.664	頁岩	攪乱	
22	剥片	43.636	頁岩	攪乱	
23	剥片	43.350	頁岩	攪乱	
24	剥片	43.213	頁岩	ローム上面の攪乱	
25	細石刃	43.110	頁岩	ローム上面	第9図13
26	剥片	43.033	頁岩	ローム	
27	両面調整石器	43.050	頁岩	ローム	第10図25
28	チップ	43.089	頁岩	ローム	
29	剥片	43.135	頁岩	ローム	
30	チップ	43.135	頁岩	ローム	
31	剥片	43.059	頁岩	ローム	
32	細石刃	43.179	頁岩	ローム上層(Ⅲ層)	第9図10
33	細石刃	43.050	頁岩	暗褐色土	第9図8
34	細石刃	43.054	頁岩	ローム	第9図4
35	剥片	43.056	頁岩	攪乱	
36	石刃	43.165	頁岩	ローム上面、暗褐色土	第9図18
37	細石刃	43.075	頁岩	ローム	第9図5
38	剥片	43.131	頁岩	ローム上面、暗褐色土	
39	剥片	43.084	頁岩	ローム	
40	剥片	43.171	頁岩	ローム上面	
41	剥片	43.167	頁岩	ローム上面	
42	チップ	43.089	頁岩	ローム	
43	剥片	43.064	頁岩	ローム	
44	剥片	43.117	頁岩	ローム	
45	剥片	43.129	頁岩	ローム	
46	チップ	43.140	頁岩	ローム	
47	剥片	43.059	頁岩	ローム	
48	剥片	43.088	頁岩	ローム上面の攪乱	
49	細石刃	43.067	頁岩	ローム	第9図12
50	剥片	43.151	頁岩	ローム上面	

	器　種	レベル(m)	石　質	層位(出土状態)	備　考
51	剝　片	43.125	頁岩	ローム上面	
52	剝　片	43.077	頁岩	ローム	
53	チップ	43.084	頁岩	ローム	
54	チップ	43.159	頁岩	ローム	
55	剝　片	43.137	頁岩	ローム	
56	剝　片	43.092	頁岩	ローム	
57	剝　片	43.229	頁岩	攪　乱	
58	剝　片	43.200	黒耀石	攪　乱	
59	チップ	43.254	頁岩	ローム	
60	チップ	43.288	頁岩	ローム	
61	チップ	43.316	頁岩	暗褐色土	
62	チップ	43.152	頁岩	暗褐色土	
63	剝　片	43.170	頁岩	暗褐色土	
64	剝　片	43.198	頁岩	ローム上面	
65	剝　片	43.168	頁岩	攪　乱	
66	剝　片	42.767	頁岩	暗褐色土	
67	剝　片	43.151	頁岩	攪　乱	
68	剝　片	43.431	頁岩	Ⅱ層の攪乱	
69	剝　片	43.307	頁岩	攪　乱	
70	剝　片	43.349	頁岩	攪　乱	
71	剝　片	43.051	頁岩	ローム	
72	剝　片	43.034	頁岩	ローム	
73	剝　片	43.162	頁岩	ローム	
74	剝　片	43.182	頁岩	ローム	
75	剝　片	43.172	頁岩	ローム	
76	剝　片	43.163	頁岩	ローム	
77	チップ	43.177	頁岩	ローム	
78	剝　片	43.191	頁岩	ローム	
79	剝　片	43.137	頁岩	ローム	
70	剝　片	43.132	頁岩	攪　乱	
81	チップ	43.082	頁岩	ローム	
82	細石刃		頁岩		第9図6
83	剝　片	43.157	頁岩	ローム	
84	剝　片	43.130	頁岩	ローム	
85	細石刃	43.151	頁岩	ローム	第9図7
86	剝　片	43.146	頁岩	ローム	
87	剝　片	43.131	頁岩	ローム	
88	剝　片	43.114	頁岩	ローム	
89	剝　片	43.487	頁岩	攪　乱	
90	剝　片	43.163	頁岩	攪　乱	
91	剝　片	43.115	頁岩	攪　乱	
92	剝　片	43.183	頁岩	ローム	
93	石　刃	42.999	頁岩	1号住居跡の床直下	第9図14
94	剝　片	43.107	頁岩	攪　乱	
95	剝　片	43.097	頁岩	攪　乱	
96	剝　片	43.072	頁岩	攪　乱	
97	剝　片	43.072	頁岩	ローム	

(注)
暗褐色土は、根または耕作土の下部と思われる。

遺　構

1地区の検出遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑6基、焼土遺構16ヶ所である。

1号住居跡（第11図）

竪穴住居跡で、北面する沢部の緩斜面に確認された。プランは長方形を呈し、大きさは7.8m×3mで、壁はしっかりして、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で、よくしまっており、特に南壁付近、中央部柱穴の南、西壁付近は硬くしまっていた。ピットは13ヶ所検出されているが、中央部南壁隅のものは深く、他は比較的浅いが、規則的な位置からすると柱穴（3×5本）と考えられる。東壁中央の柱穴は壁に斜めに掘り込まれていた。住居跡内に炉は検出されなかったが、北側に6号土坑が確認され、本住居跡より新しい。また、中央部に焼土（径約100cm、厚さ15cm）が住居跡確認面の上部から検出されている。

土坑（第12図）

2号、4号、5号土坑の確認面、上部から焼土がみられ、土坑に意識的に廃棄された可能性がある。なお、5号土坑は底の方がややふくらむ形を呈し、1地区土坑中では1番しっかりした土坑である。埋土上面、焼土の下からは個体の異なる土器片がまとまって出土し、土坑内にも焼土を含んだ土とともに入り込んでいた。

焼土遺構については、そのほとんどが畑耕作のため残存状態が悪かった。その他、調査区東側の沢頭部に焼土、炭化物を廃棄した場所が発見された（図版5）が湧水や杉林のため一部調査するにとどまった。また、旧石器時代の遺構は確認されなかった。

縄文時代の遺物

D遺跡縄文時代の出土遺物は、土器、石器、土製品、石製品であり、土器については地区ごとに記述し、石器についてはまとめて記述する。土器はⅠ群（縄文前期）、Ⅱ群（縄文中期）、Ⅲ群（縄文後期）、Ⅳ群（縄文晩期）、平安時代の土器に分け、類別した。

遺　物

Ⅰ群土器（第13図20、21）

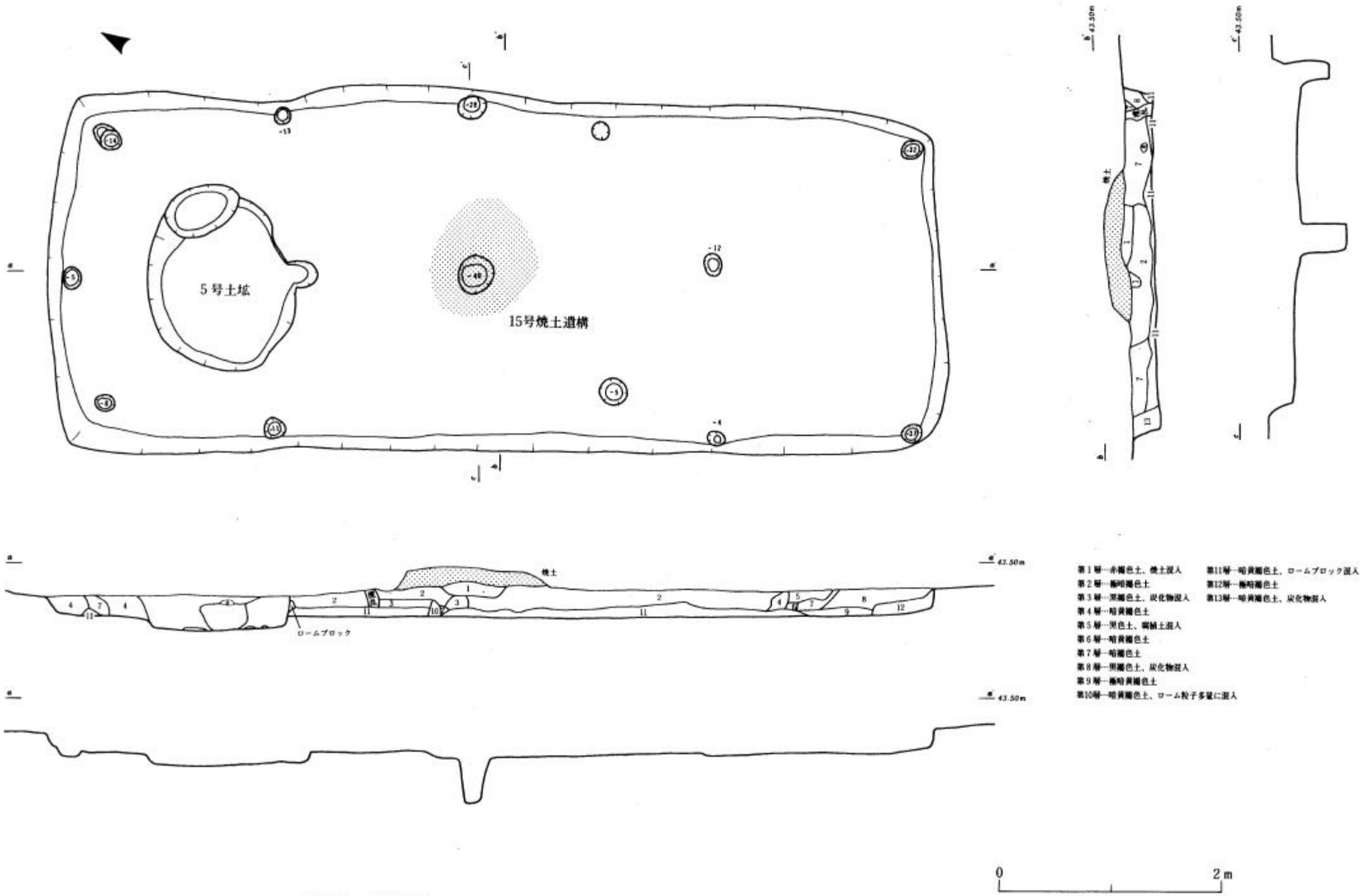
細い粘土紐を貼り付け、幾何学的文様を作るもの、21は右傾の粘土紐上にさらに粘土紐を重ね、格子目文を作り出している。

Ⅲ群土器（第13図5～13、15～18、22～24、第14図25～28、35、第15図36）

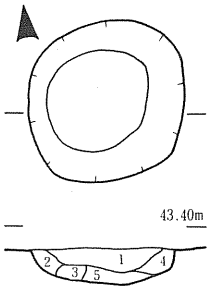
沈線による文様構成を主とし、地文は撚糸文、単節斜縄文、無文で、口縁部から胴部に幾何学的施文のあるもの（12）、3～4個の山形口縁を持ち、その下部にS字状連鎖文、鉤形文が施文されるもの（23、36）がある。

Ⅳ群土器（第14図29～34）

平行沈線文、工字文、変形工字文の施文で、口唇部に刻目、沈線のめぐるものがみられる。器形は鉢形、壺形と考えられる。29、33、34はヘラ状工具でよく研磨されており、29、34は特に著しく、

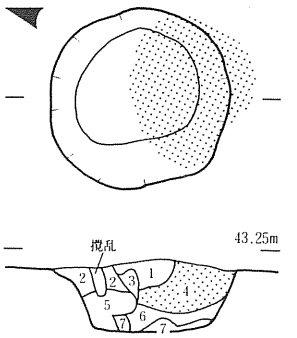

5号土坑
15号焼土遺構
焼土
ロームブロック
43.50m
第1層…赤褐色土、焼土混入
第2層…極暗褐色土
第3層…黒褐色土、炭化物混入
第4層…暗黄褐色土
第5層…黒色土、褐植土混入
第6層…暗黄褐色土
第7層…暗褐色土
第8層…黒褐色土、炭化物混入
第9層…極暗黄褐色土
第10層…暗黄褐色土、ローム粒子多量に混入
第11層…暗黄褐色土、ロームブロック混入
第12層…極暗褐色土
第13層…暗黄褐色土、炭化物混入
0
2m

第11図　1号住居跡



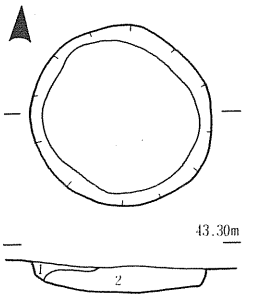
第1層…暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第2層…暗茶褐色土
第3層…暗茶褐色土、ローム粒子混入
第4層…暗褐色土
第5層…黒色土、ローム粒子混入

1号土坑



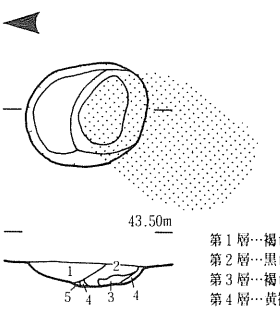
第1層……暗褐色土、焼土・炭化物混入 しまっている
第2層…暗黄褐色土、ローム粒子・炭化物混入
第3層…暗赤褐色土、焼土・炭化物混入
第4層…赤褐色土（焼土）
第5層…暗褐色土、灰白色粘土のブロック・炭化物混入
第6層…黄褐色土、焼土礫混入
第7層…黄褐色土、かたくしまっている

2号土坑



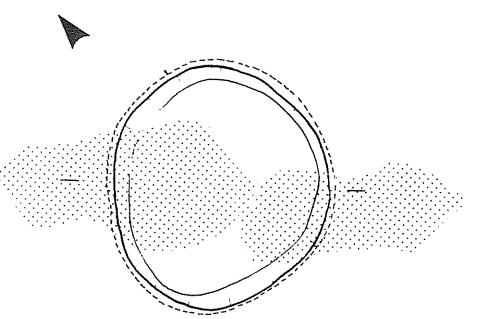
第1層…黒褐色土
第2層…暗褐色土、ローム粒子・炭化物混入

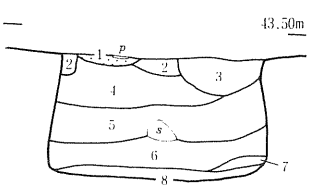
3号土坑



第1層…褐色土、ローム粒子混入
第2層…黒色土
第3層…褐色土
第4層…黄褐色土
第5層…黒褐色土

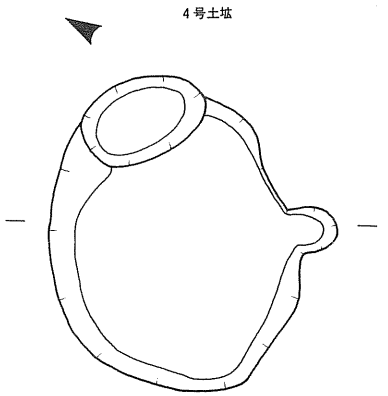
4号土坑





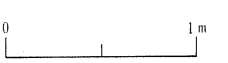
第1層…赤褐色土（焼土）
第2層…暗黄褐色土、炭化物混入
第3層…暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第4層…黄褐色土、焼土・炭化物・ローム粒子混入
第5層…暗黄褐色土、焼土・炭化物・ローム粒子混入
第6層…暗黄褐色土、焼土礫・炭化物・ローム粒子混入
第7層…暗黄褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第8層…暗褐色土、炭化物混入、かたくしまっている

5号土坑

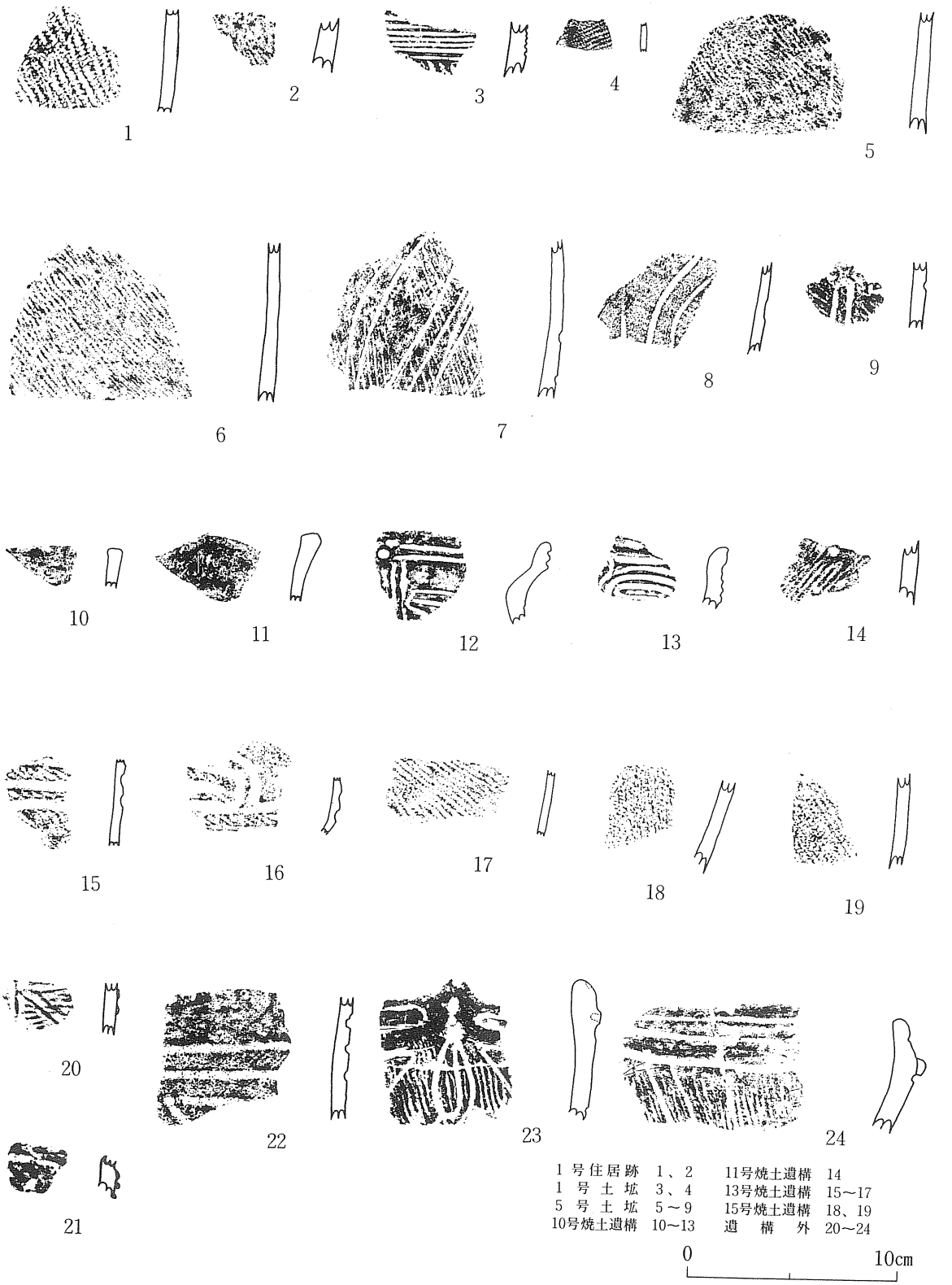


第1層…暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第2層…暗褐色土、焼土・炭化物・ローム粒子混入
第3層…茶褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第4層…黄褐色土

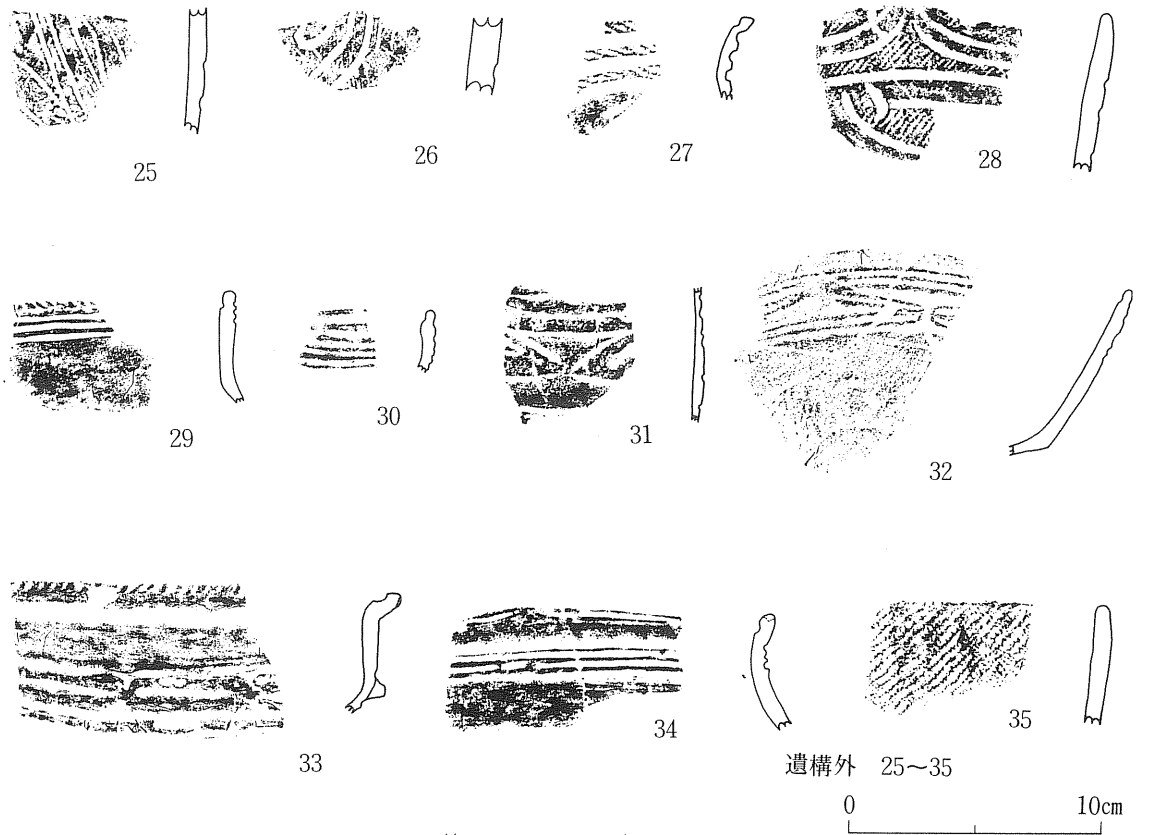
6号土坑



第12図　1地区土坑

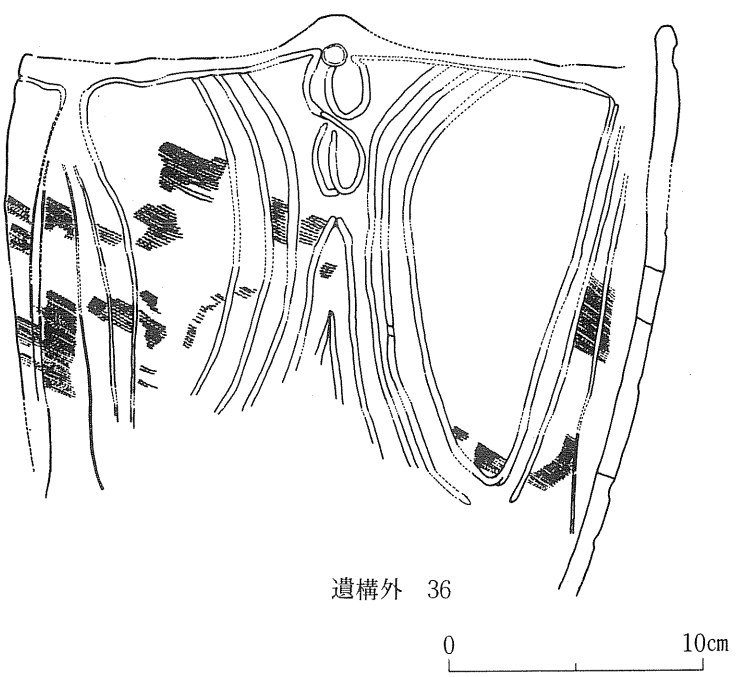


第13図　1地区出土土器



第14図　1地区出土土器

胎土、焼成共に良好である。30は外面にベニガラ、内外面に煤状炭化物の付着が認められる。



第15図　1地区出土土器

(2) 2地区

遺構

2地区の検出遺構は、竪穴住居跡4軒、土坑61基、溝状土坑2基、焼土遺構8ヶ所である。焼土遺構のなかには住居跡の炉と考えられるものもある。

1号住居跡（第16図）

北側の沢に面した竪穴住居跡で、3号住居跡の東壁を切り、49号土坑を内包している。プランは不整円形を呈し、直径は約4mを測る。壁高は10cm程度で緩やかに立ち上がる。床はしっかりとしておりほぼ平坦であるが、一部長芋の攪乱が及んでいる。ピットは、中央部と壁にそって検出されており、明確な主柱穴としては不明だが、おそらく配列としては壁に沿った形になると考えられる。炉としての焼土は確認できなかったが、埋土中に焼土や炭化物が集中して検出された。遺物は埋土から前期土器片が若干出土したのみである。

2号住居跡（第17図）

2地区北東部に位置し、4.4m×3.6mの不整楕円形を呈する竪穴住居跡である。この付近は、ローム上面にまで攪乱が及んでいるため、壁はあまりしっかりしていなかったが、床は比較的しまっており、ピットが内外部にわたり集中的に多数検出されている。埋土において確認された焼土は住居跡床面にまで及んでおらず、炉は検出できなかった。遺物は埋土から晩期の土器片、ピットからはそれぞれ前期と晩期の土器片が出土している。

3号住居跡（第16図）

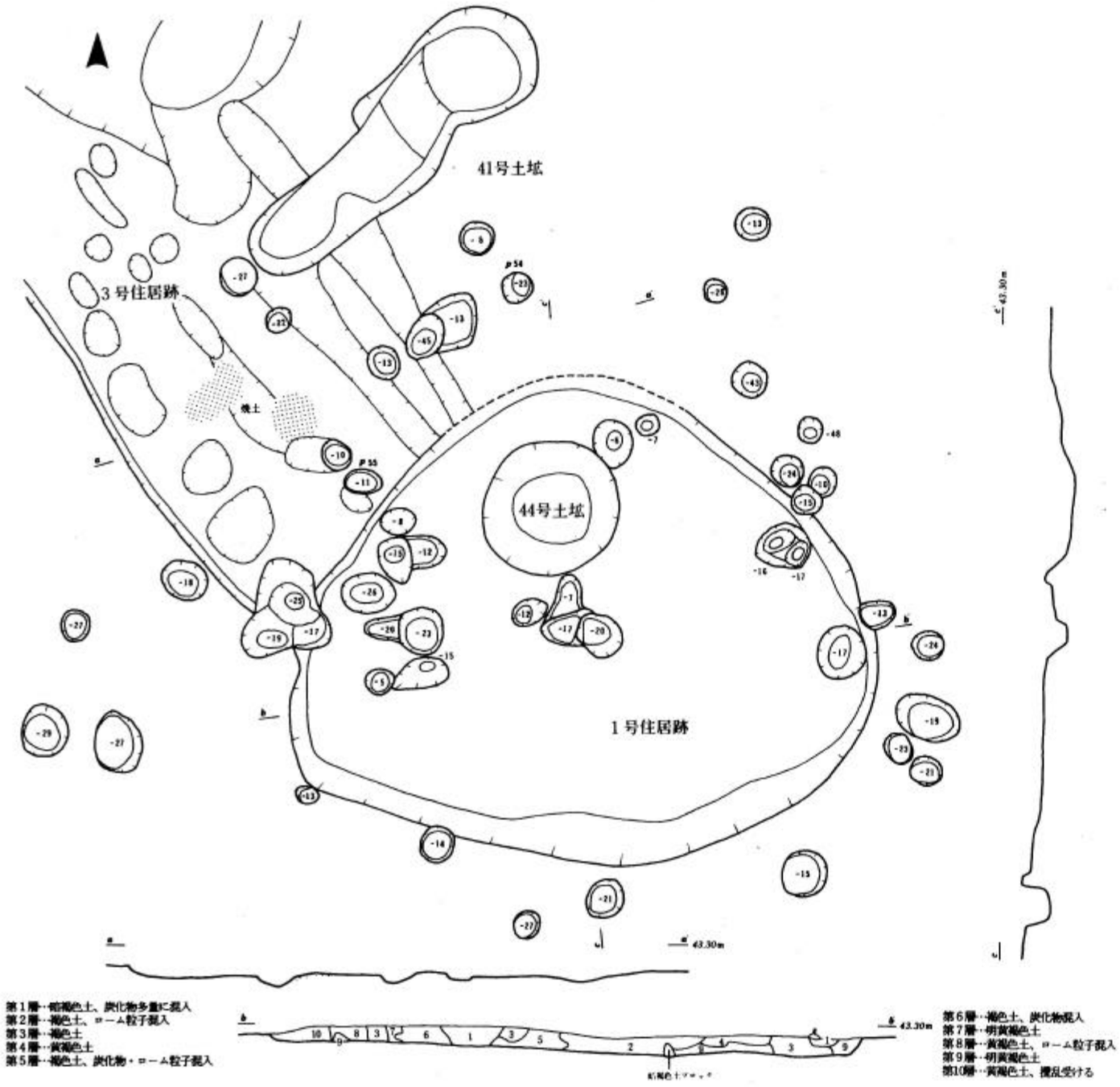
北側の沢に面し、1号住居跡によって東壁を切られている竪穴住居跡である。また、長芋による攪乱が著しく、わずかな焼土が2ヶ所検出されているものの、壁は南西部分が一部残るだけである。検出されたピットのうちのひとつから前期の土器片が出土している。

4号住居跡（第18図）

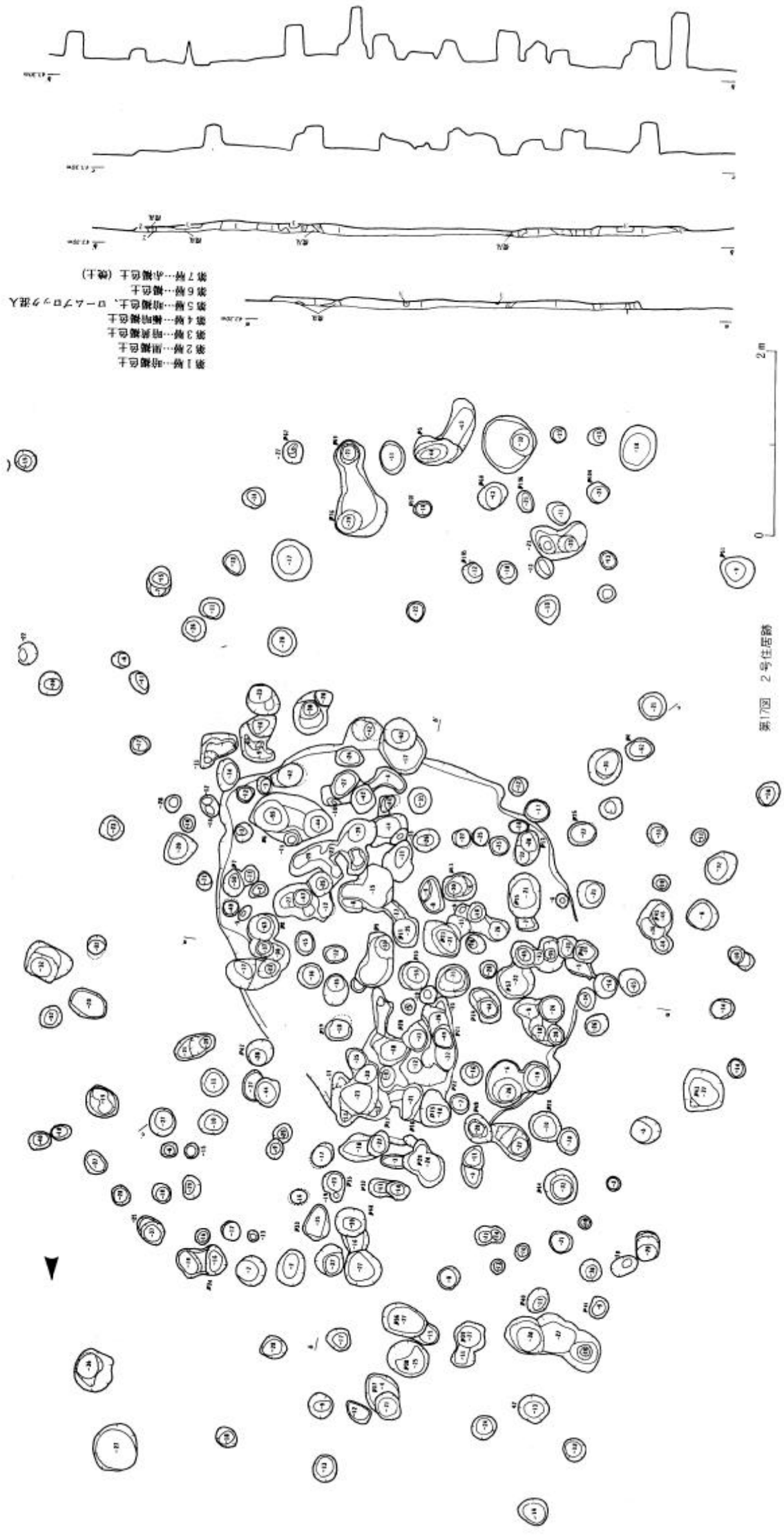
2地区南東に位置する竪穴住居跡で、45号土坑及び46号土坑を内包する。南半分が攪乱を受けているため壁が検出できなかったが、北東壁は比較的しっかりしており、おそらく円を基本としたプランになるものと思われる。床は全体的に平坦でよくしまっているが、45号土坑と46号土坑の中間から東側は特にかたくしまっている。柱穴は北半部の壁に沿って形よくならんで検出された。焼土は、いわゆる床が焼けた形態のものは確認されておらず、45号土坑と46号土坑の埋土に流れ込む形で入っているが、46号土坑の焼土については、焼土のあり方等から本住居跡の炉の可能性も考えられる。遺物は出土していない。

焼土遺構

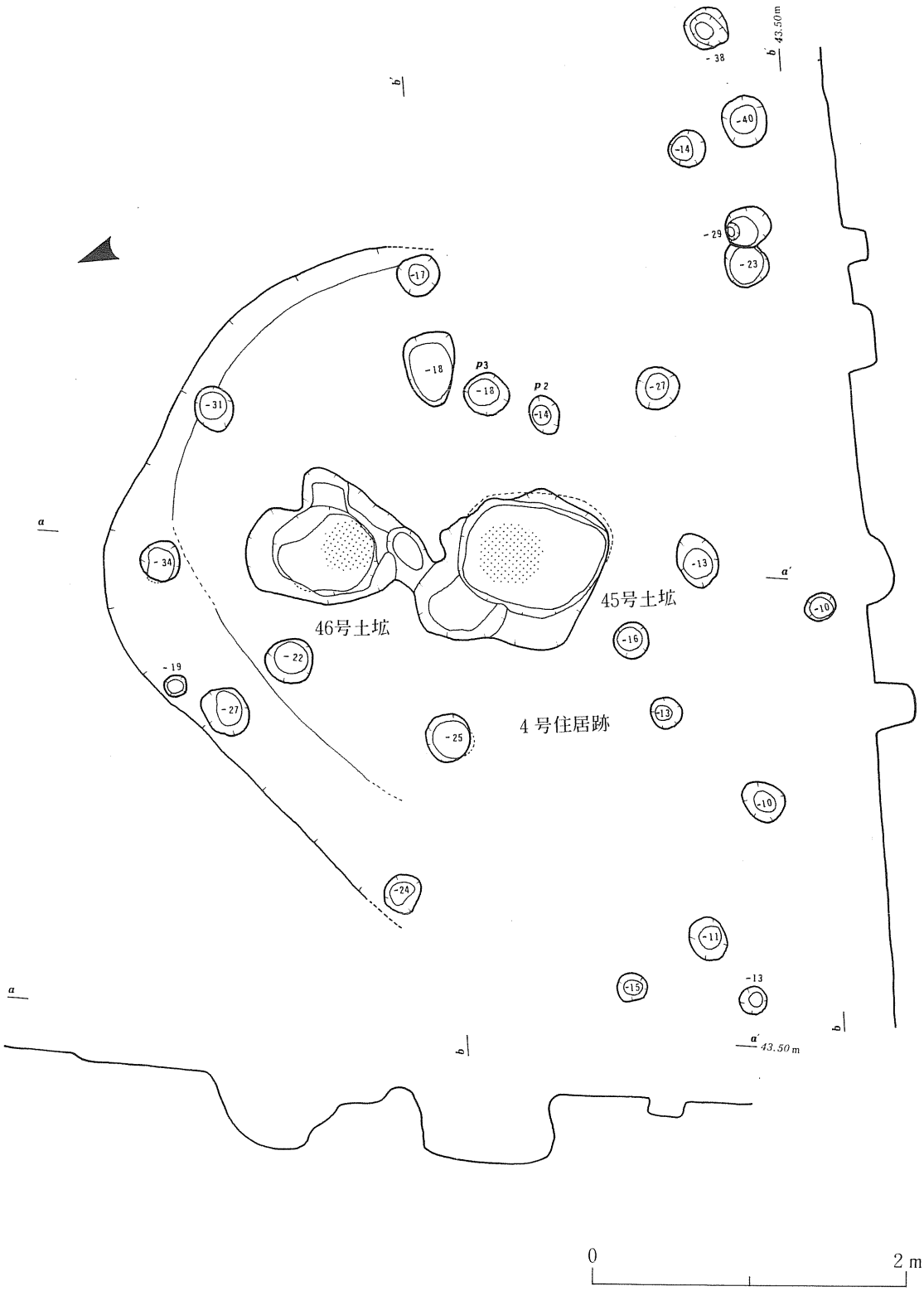
焼土遺構としては、北東端の沢に面した一角と、中央部39号土坑北側の2ヶ所に集中してみられた。これら焼土遺構のうち北東部の3号、4号と中央部7号、8号の4基がローム直上でよく焼けている。北東部では、ピットが重複して多数検出され、これらのピット及びロームを覆う層からは、


41号土坑
3号住居跡
焼土
44号土坑
1号住居跡
43.30m
第1層…暗褐色土、炭化物多量に混入
第2層…褐色土、ローム粒子混入
第3層…褐色土
第4層…黄褐色土
第5層…褐色土、炭化物＋ローム粒子混入
第6層…褐色土、炭化物混入
第7層…明黄褐色土
第8層…黄褐色土、ローム粒子混入
第9層…明黄褐色土
第10層…黄褐色土、攪乱受ける
0
2m

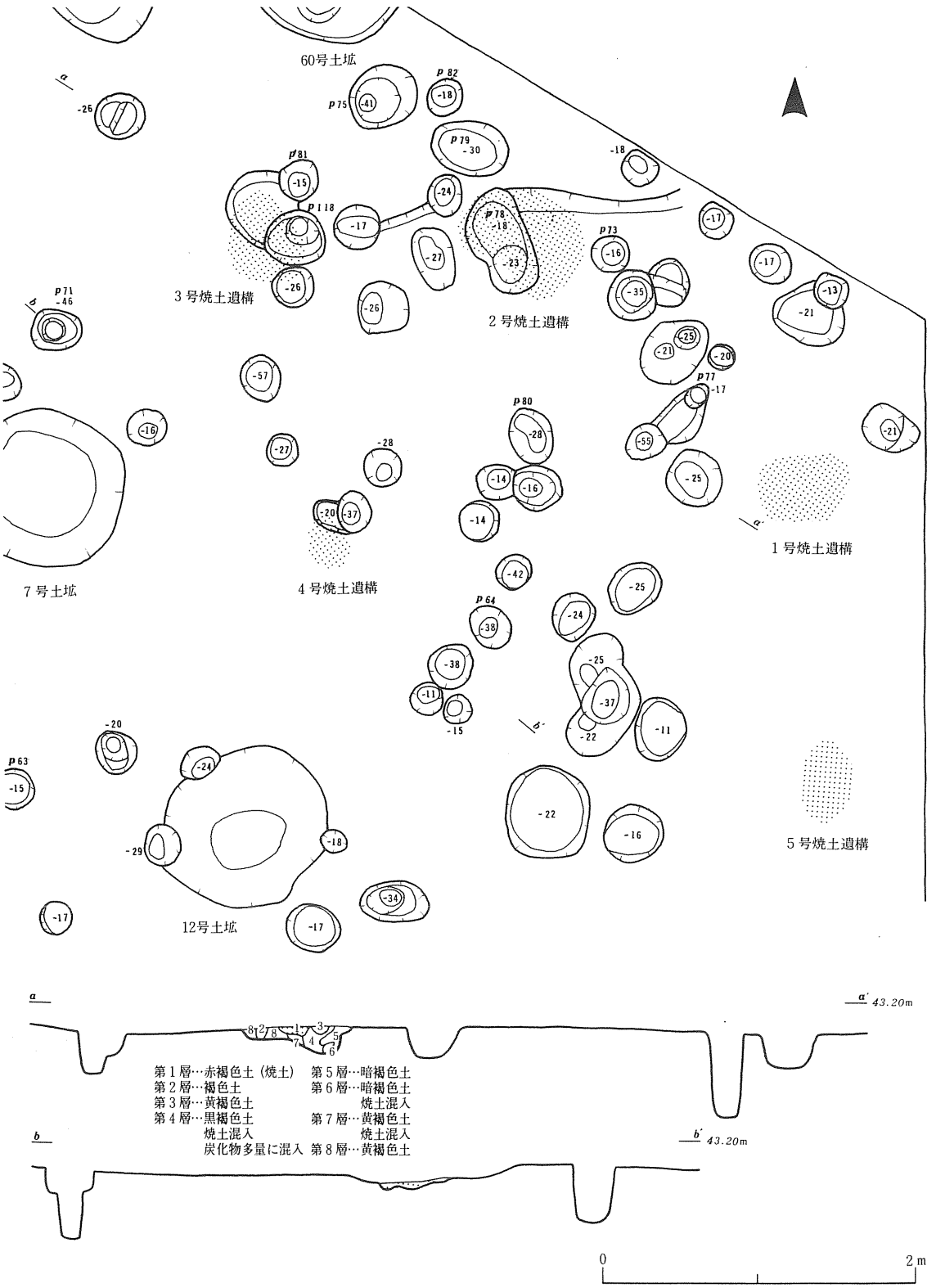
第16図　1・3号住居跡


第1層…暗褐色土
第2層…黒褐色土
第3層…暗黄褐色土
第4層…褐暗褐色土
第5層…暗褐色土、ローム7ロック混入
第6層…褐色土
第7層…赤褐色土（硬土）
0
2m

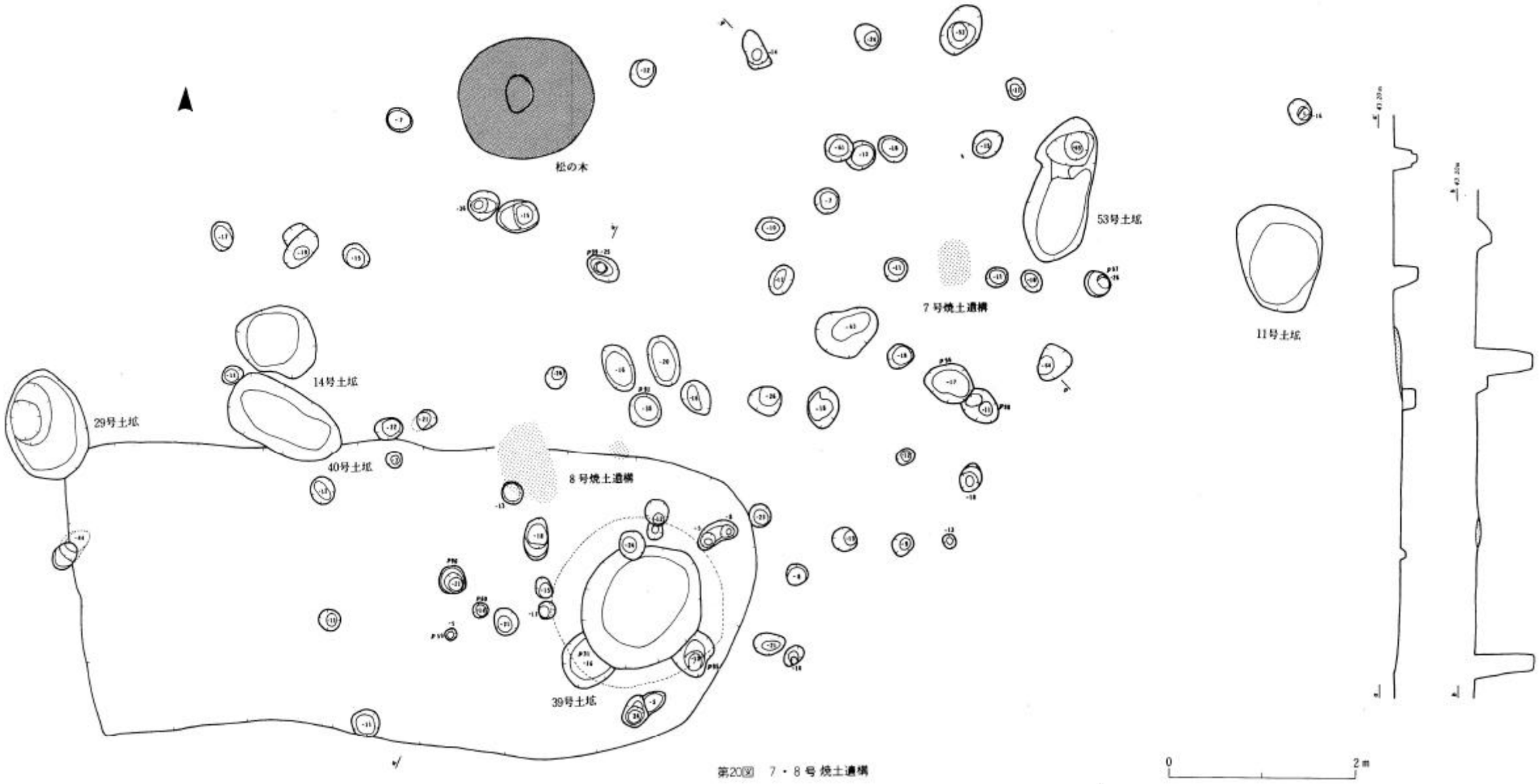
第17図　2号住居跡



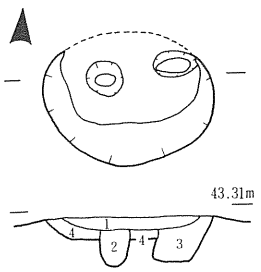
第18図　4 号住居跡



第19図　1～5号焼土遺構

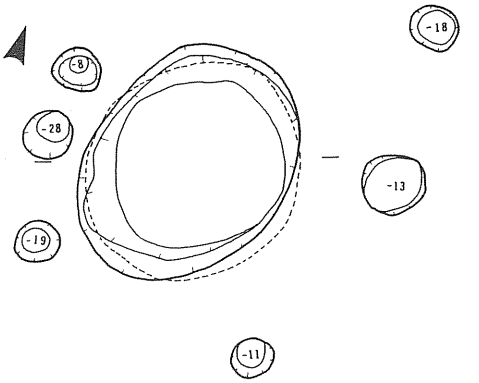


第20図　7・8号焼土遺構



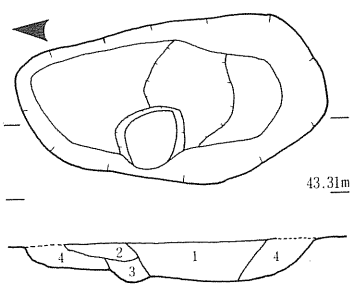
第1層…黒褐色土
第2層…暗褐色土、ローム粒子多量に混入
第3層…暗褐色土、ローム粒子混入
第4層…黄褐色土

1号土坑



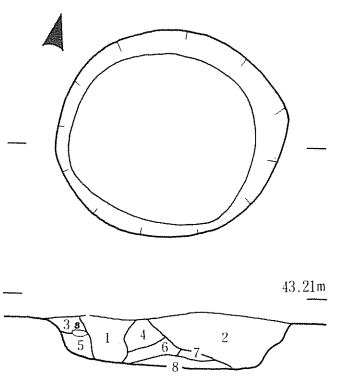
第1層…黒褐色土
第2層…暗褐色土
第3層…暗茶褐色土
第4層…暗黄褐色土
第5層…極暗褐色土
第6層…極暗褐色土、ローム粒子混入
第7層…暗褐色土、黄白色ローム・炭化物混入
第8層…暗褐色土、黄白色ローム・炭化物多量に混入

2号土坑



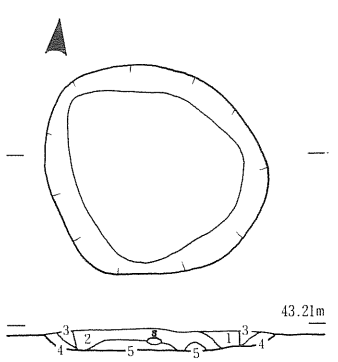
第1層…極暗褐色土
第2層…暗褐色土
第3層…黄褐色土
第4層…暗黄褐色土

3号土坑



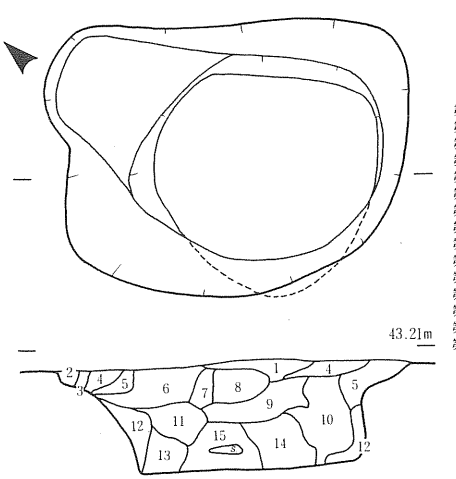
第1層…暗褐色土、炭化物混入
第2層…暗黄褐色土
第3層…明黄褐色土
第4層…褐色土
第5層…暗黄褐色土
第6層…暗褐色土
第7層…暗黄褐色土、ローム粒子混入
第8層…暗黄褐色土

4号土坑



第1層…極暗褐色土、炭化物混入
第2層…黒褐色土
第3層…極暗褐色土、炭化物混入・かたくしまっている
第4層…暗黄褐色土
第5層…極暗褐色土、ロームブロック混入

5号土坑

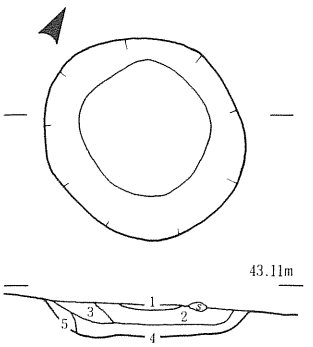


第1層…暗褐色土、焼土・炭化物混入
第2層…黄褐色土
第3層…暗褐色土
第4層…褐色土
第5層…暗黄褐色土
第6層…褐色土、炭化物混入
第7層…暗黄褐色土
第8層…暗褐色土、焼土・炭化物混入
第9層…暗黄褐色土、炭化物混入
第10層…暗褐色土
第11層…暗褐色土
第12層…黄褐色土
第13層…褐色土、炭化物・ロームブロック混入
第14層…褐色土、焼土・炭化物混入
第15層…暗褐色土、炭化物混入

6号土坑

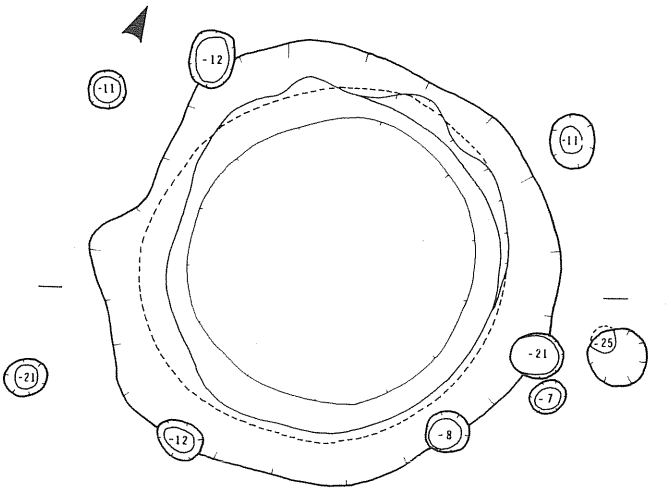
0　1m

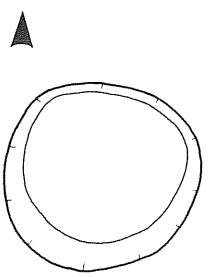
第21図　2地区土坑



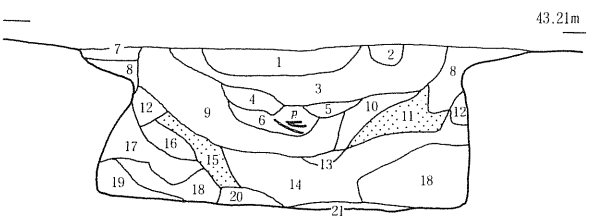
第１層…黒色土、焼土混入
第２層…暗褐色土、炭化物混入
第３層…暗褐色土、焼土・炭化物混入
第４層…暗褐色土
第５層…暗褐色土、ローム粒子混入

7号土坑



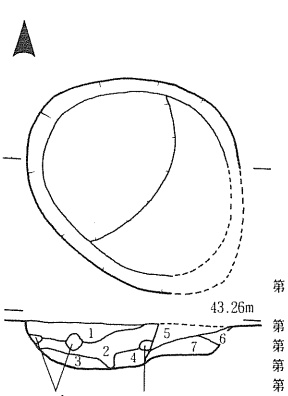


9号土坑



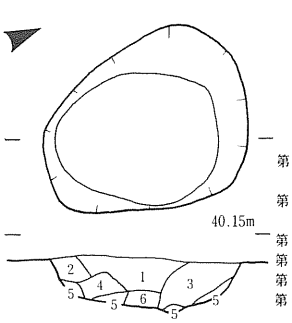
第１層…暗黄赤褐色土
第２層…褐色土
第３層…褐色土、炭化物混入
第４層…暗黄赤褐色土、炭化物混入
第５層…暗褐色土
第６層…黒色土、焼土・炭化物混入
第７層…明褐色土
第８層…暗黄褐色土
第９層…褐色土、焼土・炭化物混入
第10層…暗褐色土、焼土・炭化物混入
第11層…赤褐色土(焼土)
第12層…暗黄褐色土
第13層…暗褐色土
第14層…褐色土、焼土・炭化物混入
第15層…赤褐色土(焼土)
第16層…暗褐色土、焼土混入
第17層…褐色土、ロームブロック混入
第18層…黄褐色土、粘性小さい
第19層…褐色土、炭化物・ロームブロック混入
第20層…暗赤褐色土
第21層…暗褐色土、炭化物混入

8号土坑



第１層…明黄褐色土
　　暗褐色土がブロック状に混入
第２層…暗褐色土、粘性小さい
第３層…黄褐色土、かたくしまっている
第４層…暗褐色土、しまっている
第５層…暗褐色土
　　いわゆるⅡ層に当たる
第６層…黒色土
第７層…黄褐色土

10号土坑

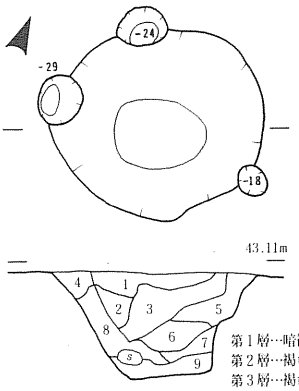


第１層…暗褐色土
　　炭化物多量に混入
第２層…暗褐色土
　　炭化物・ローム粒子混入
第３層…極暗褐色土
第４層…暗黄褐色土
第５層…黄褐色土
第６層…暗黄褐色土
　　炭化物混入

11号土坑

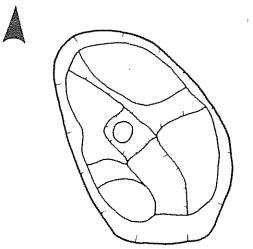
0　　1m

第22図　２地区土坑

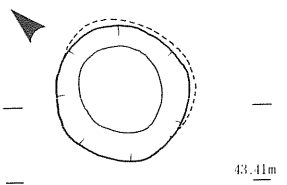


第1層…暗褐色土、炭化物混入
第2層…褐色土、ロームブロック混入
第3層…褐色土、炭化物混入
第4層…暗褐色土、ロームブロック混入
第5層…暗黄褐色土
第6層…暗褐色土、炭化物混入
第7層…暗褐色土、ローム粒子混入
第8層…暗黄褐色土
第9層…黒色土

12号土坑

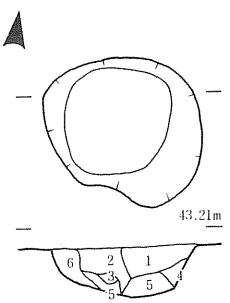


13号土坑



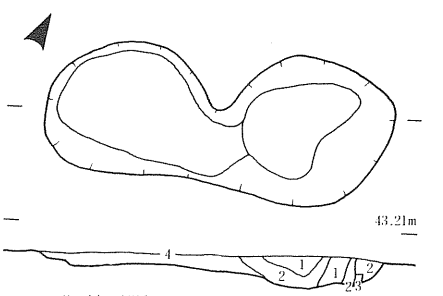
15号土坑

第1層…黒色土
第2層…暗褐色土、ロームブロック混入
第3層…暗褐色土
第4層…暗褐色土
第5層…暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第6層…暗黄褐色土、ロームブロック混入
第7層…黄褐色土、炭化物混入



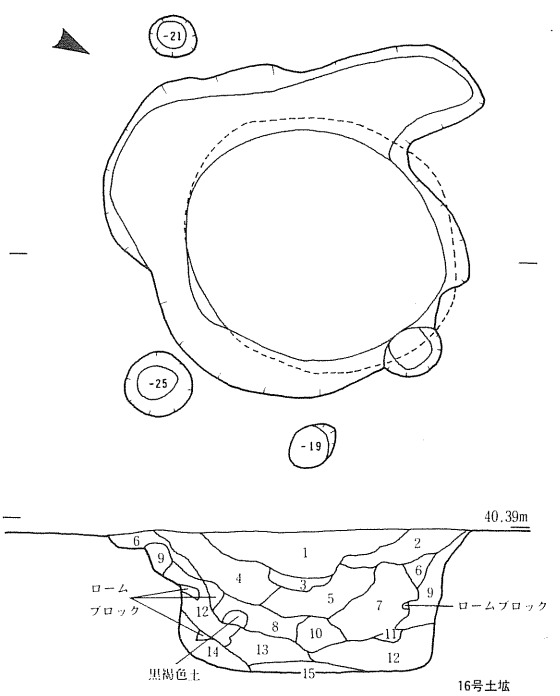
第1層…暗褐色土
第2層…黒褐色土
第3層…黒色土
第4層…暗褐色土、ローム粒子混入
第5層…暗褐色土、ローム粒子・ブロック混入
第6層…暗褐色土

14号土坑



第1層…暗褐色土
第2層…暗黄褐色土、あまりしまっていない
第3層…黒褐色土
第4層…暗褐色土、粘性小さい

17号土坑

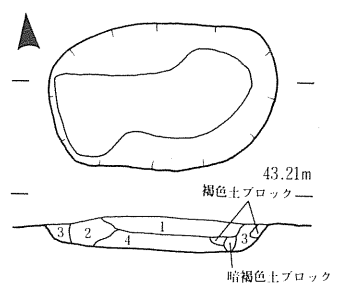


16号土坑

第1層…極暗褐色土、炭化物混入
第2層…暗茶褐色土、炭化物混入
第3層…暗黄褐色土、炭化物混入
第4層…極暗褐色土、炭化物混入
第5層…褐色土、炭化物混入
第6層…暗黄褐色土、炭化物混入
第7層…暗褐色土、焼土・炭化物・ロームブロック混入
第8層…暗褐色土、炭化物混入
第9層…黄褐色土
第10層…暗黄褐色土、炭化物混入
第11層…暗褐色土、焼土多量に混入・炭化物混入
第12層…暗黄褐色土、炭化物混入、粘性大きい
第13層…黒褐色土、炭化物混入
第14層…暗褐色土、粘性大きい
第15層…黄褐色土、粘性大きい

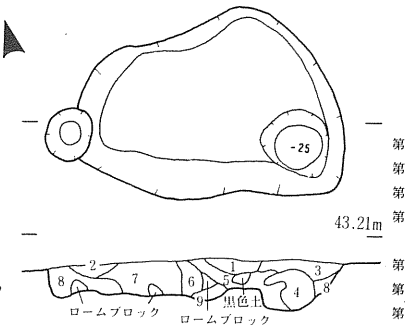
0　1m

第23図　2地区土坑



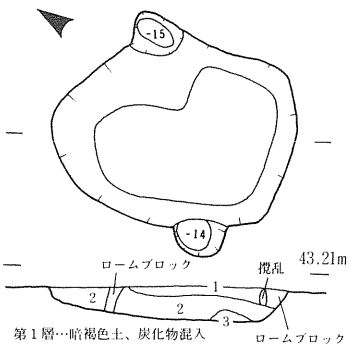
第1層…暗褐色土
第2層…暗黄褐色土
炭化物混入
第3層…暗黄褐色土
第4層…黄褐色土
撹乱受けている

18号土坑



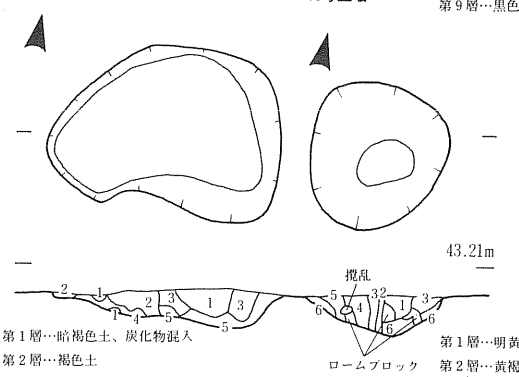
第1層…極暗褐色土
第2層…暗黄褐色土、かたくしまっている
第3層…褐色土
第4層…暗黄褐色土
粘性小さい
第5層…黒色土
第6層…暗褐色土
第7層…ローム粒子混入
第8層…黄褐色土
第9層…黒色土

19号土坑



第1層…暗褐色土、炭化物混入
第2層…暗黄褐色土、炭化物混入
第3層…黄褐色土

20号土坑

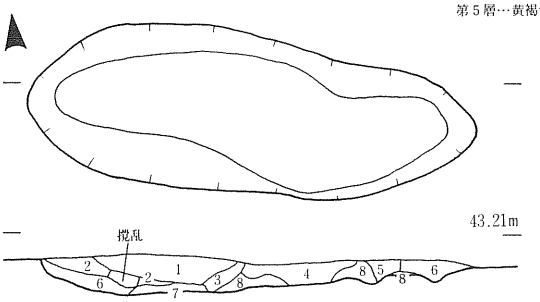


第1層…暗褐色土、炭化物混入
第2層…褐色土
第3層…明褐色土
第4層…黄褐色土、褐色土混入
第5層…黄褐色土

21号土坑

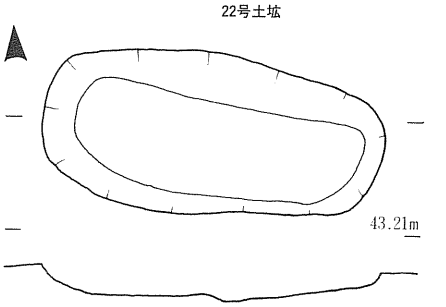
第1層…明黄褐色土
第2層…黄褐色土
第3層…暗黄褐色土
第4層…褐色土
第5層…暗褐色土
第6層…黄褐色土

22号土坑

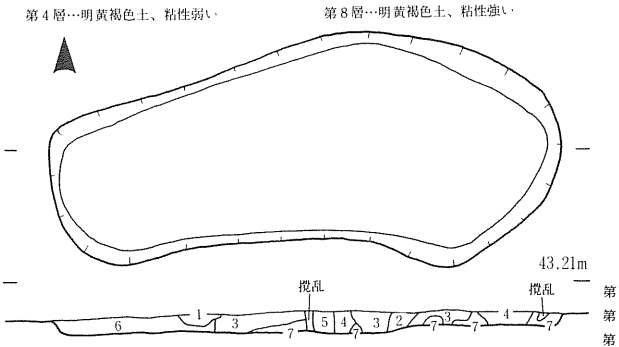


第1層…黒褐色土
第2層…暗褐色土
第3層…褐色土、ロームブロック混入
第4層…明黄褐色土、粘性弱い
第5層…明褐色土
第6層…褐色土
第7層…暗黄褐色土
第8層…明黄褐色土、粘性強い

23号土坑

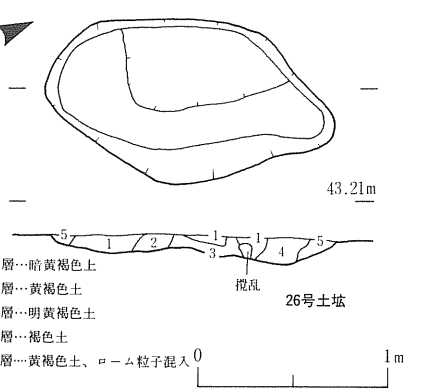


25号土坑



第1層…暗褐色土、かたくしまっている
第2層…黄褐色土
第3層…褐色土
第4層…暗褐色土
第5層…明黄褐色土
第6層…暗黄褐色土
第7層…黄褐色土

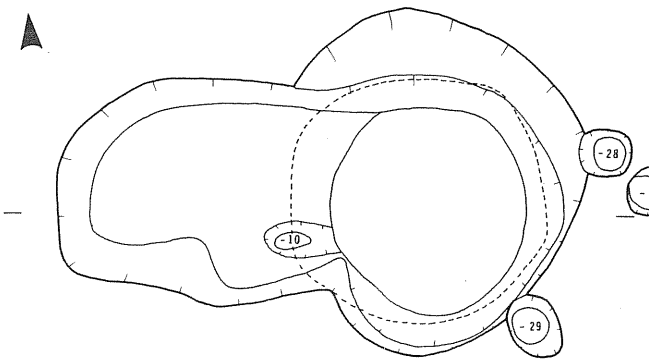
24号土坑

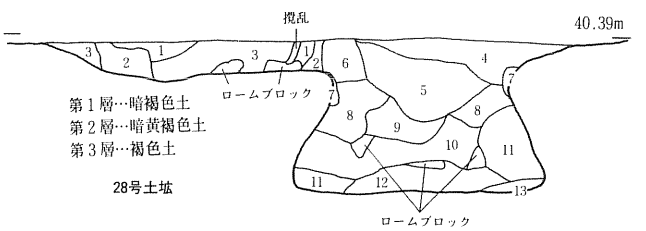


第1層…暗黄褐色上
第2層…黄褐色土
第3層…明黄褐色土
第4層…褐色土
第5層…黄褐色土、ローム粒子混入

26号土坑

第24図　2地区土坑

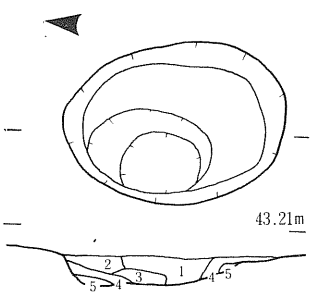




第1層…暗褐色土
第2層…暗黄褐色土
第3層…褐色土

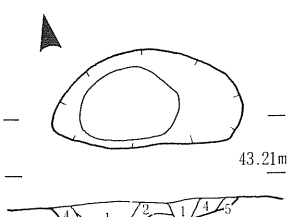
28号土坑

第4層…暗褐色土
第5層…暗褐色土、焼土・炭化物混入
第6層…褐色土、炭化物混入
第7層…明黄褐色土、粘性大きい
第8層…暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第9層…暗茶褐色土
第10層…褐色土、ローム粒子多量に混入
第11層…黄褐色土、暗褐色土混入
第12層…暗褐色土
第13層…黄褐色土、粘性小さい



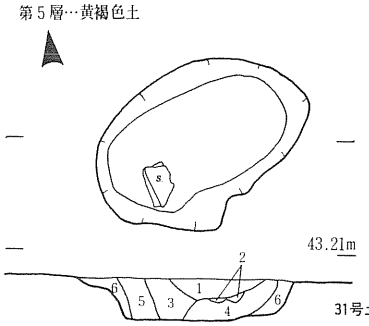
第1層…黒褐色土、ローム粒子混入
第2層…黒褐色土、ローム粒子多量に混入
第3層…茶褐色土
第4層…暗黄褐色土
第5層…黄褐色土

29号土坑



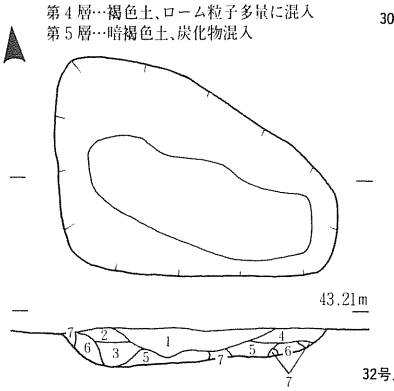
第1層…暗褐色土
第2層…暗褐色土、ローム粒子多量に混入
第3層…暗黄褐色土
第4層…褐色土、ローム粒子多量に混入
第5層…暗褐色土、炭化物混入

30号土坑



第1層…黒褐色土、炭化物混入
第2層…極暗褐色土、炭化物・ローム粒子・ロームブロック混入
第3層…暗褐色土、炭化物・ローム粒子・ロームブムブロック混入
第4層…極暗褐色土
第5層…黒色土、炭化物混入
第6層…暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入

31号土坑

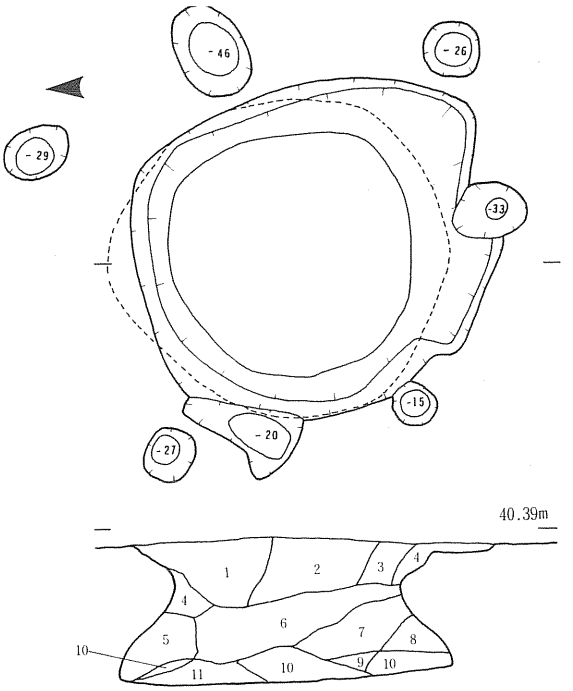


第1層…暗褐色土
第2層…黒色土
第3層…暗褐色土
第4層…褐色土
第5層…暗黄褐色土
第6層…褐色土、ローム粒子混入
第7層…黄褐色土

32号土坑

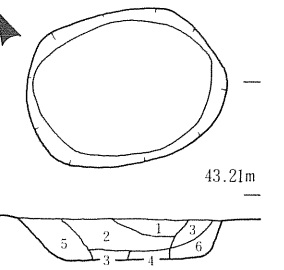
0　1m

第25図　2地区土坑



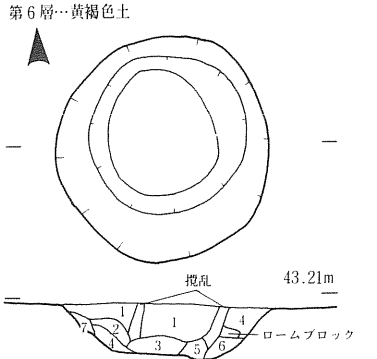
第１層…明褐色土
第２層…暗褐色土
第３層…暗黄褐色土
第４層…暗黄褐色土、炭化物混入
第５層…暗褐色土、ローム粒子多量に混入
第６層…極暗褐色土、炭化物多量に混入
第７層…極暗褐色土、炭化物混入、しまっていない
第８層…黒褐色土
第９層…暗褐色土
第10層…黄褐色土、粘性大きい
第11層…暗褐色土、粘性小さい

33号土坑



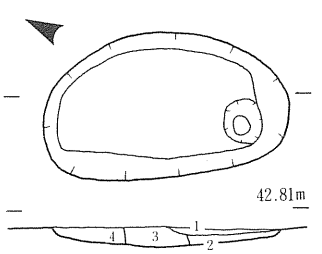
第１層…暗黄褐色土
第２層…黄褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第３層…黄褐色土
第４層…褐色土
第５層…褐色土、炭化物混入
第６層…黄褐色土

34号土坑



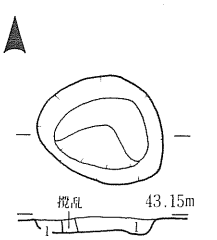
第１層…黒褐色土
第２層…明黒褐色土
第３層…茶褐色土
第４層…極暗褐色土
第５層…暗褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第６層…暗褐色土、炭化物・ロームブロック混入
第７層…暗黄褐色土

35号土坑



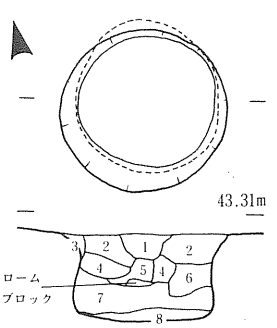
第１層…暗黄褐色土
第２層…黄褐色土
第３層…暗褐色土
第４層…暗褐色土、ローム粒子混入

36号土坑



第１層…暗褐色土

37号土坑

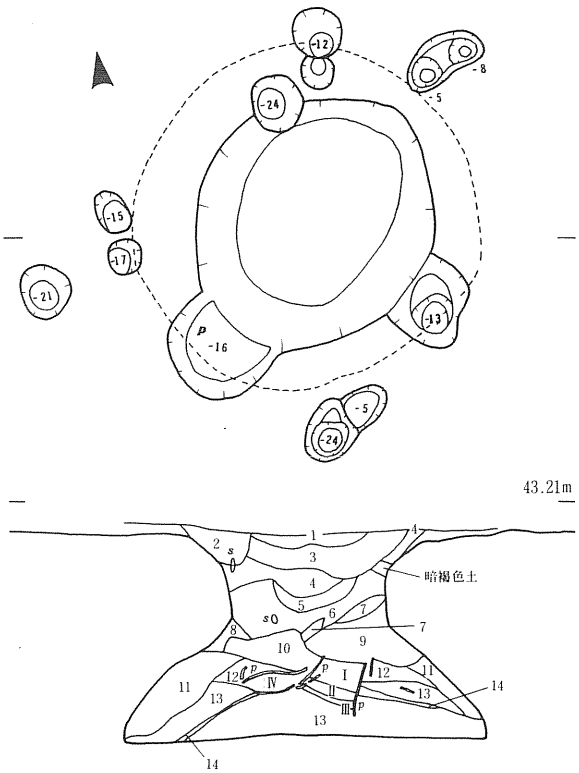


第１層…極暗褐色土
第２層…暗褐色土
第３層…暗黄色土
第４層…暗茶褐色土
第５層…暗黄褐色土
第６層…暗黄褐色土、粘性小さい
第７層…暗黄褐色土、粘性大きい
第８層…黄褐色土、粘性大きい

38号土坑

0　1m

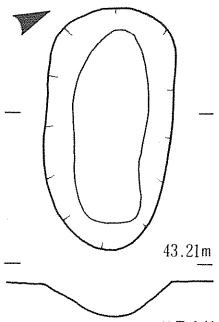
第26図　２地区土坑



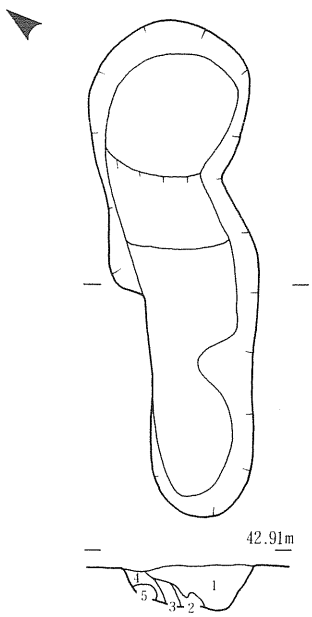
第１層…暗茶褐色土、かたくしまっている
第２層…暗褐色土、かたくしまっている
第３層…極暗褐色土
第４層…暗褐色土
第５層…黒褐色土
第６層…極暗褐色土
第７層…黄褐色土
第８層…暗黄褐色土
第９層…極暗褐色土、ローム粒子混入
第10層…暗黄褐色土、ロームブロック混入
第11層…暗黄褐色土、炭化物多量に混入
第12層…黄褐色土、粘性大きい
第13層…黒褐色土、炭化物多量に混入
第14層…黄褐色土、粘性大きい

Ⅰ…極暗褐色土、炭化物混入
Ⅱ…黒色土、ほとんど炭化物
Ⅲ…黒褐色土、炭化物多量に混入
　ローム粒子混入
Ⅳ…灰白色粘土

39号土坑

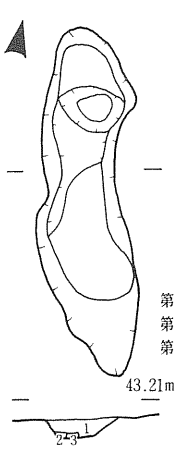


40号土坑



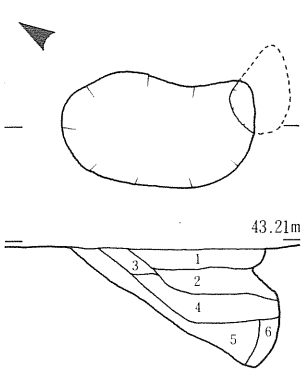
第１層…極暗褐色土
第２層…黄褐色土、暗褐色土混入
第３層…暗褐色土
第４層…黄褐色土
第５層…明褐色土

41号土坑



第１層…暗褐色土
第２層…黄橙色土
第３層…暗赤褐色土

42号土坑

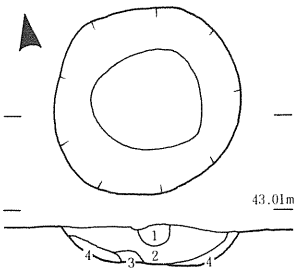


第１層…暗褐色土
第２層…暗赤褐色土
第３層…黒色土
第４層…暗赤褐色土、炭化物混入
第５層…暗褐色土、しまっていない
第６層…暗褐色土、ロームブロック混入

43号土坑

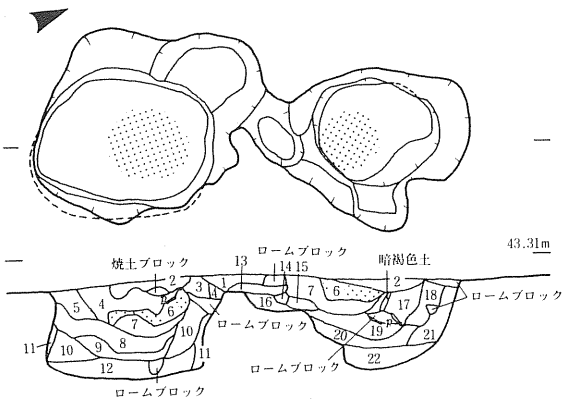
0　1m

第27図　２地区土坑



第1層…暗黄褐色土
第2層…褐色土、ローム粒子混入
第3層…暗黄褐色土
第4層…明黄橙色土

44号土坑

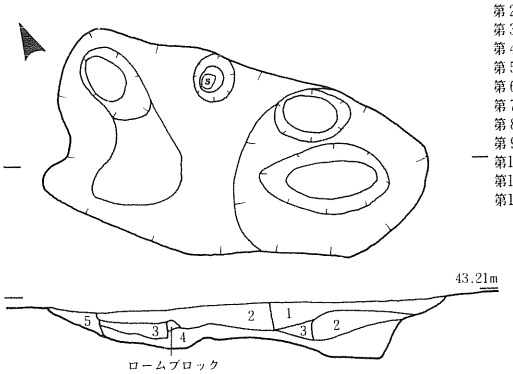


第1層…暗黄褐色土、たいへんかたくしまっている
第2層…暗褐色土、かたくしまっている
第3層…黄褐色土、ロームブロック多量に混入
第4層…黒褐色土
第5層…暗黄褐色土、あまりしまっていない
第6層…赤褐色土（焼土）
第7層…暗赤褐色土
第8層…暗褐色土、炭化物のかたまり混入
第9層…暗黄褐色土、炭化物のかたまり混入
第10層…暗黄褐色土
第11層…黄褐色土
第12層…暗黄褐色土、たいへんかたくしまっている

45号土坑

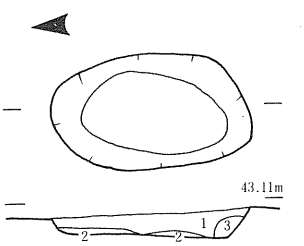
第13層…黒褐色土
第14層…暗褐色土、ローム粒子多量に混入
第15層…暗褐色土、たいへんかたくしまっている
第16層…黄褐色土
第17層…黄褐色土、たいへんかたくしまっている
第18層…暗褐色土、たいへんかたくしまっている
第19層…暗褐色土、焼土のかたまり多量に混入
第20層…暗褐色土
第21層…黄褐色土、かたくしまっている
第22層…黄褐焼土、焼土・炭化物混入
たいへんかたくしまっている

46号土坑



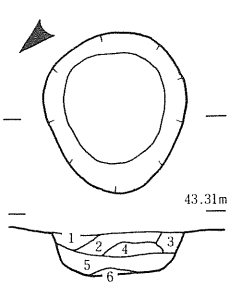
第1層…暗褐色土、焼土若干混入
第2層…暗褐色土、ロームブロック混入
第3層…黒色土
第4層…黄褐色土
第5層…明黄褐色土

47号土坑



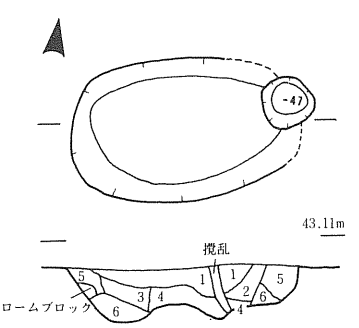
第1層…暗褐色土、焼土・炭化物混入
第2層…黄褐色土
第3層…暗黄褐色土

48号土坑



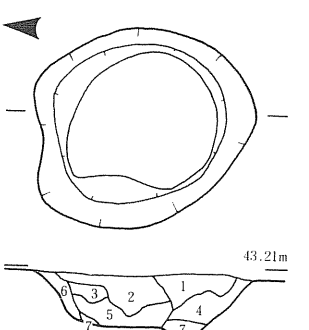
第1層…暗茶褐色土
第2層…暗褐色土、炭化物混入
第3層…暗黄褐色土
第4層…暗褐色土
第5層…褐色土
第6層…褐色土、ロームブロック混入

49号土坑



第1層…暗褐色土
第2層…暗黄褐色土
第3層…褐色土
第4層…黄褐色土
第5層…褐色土
第6層…暗黄褐色土

50号土坑

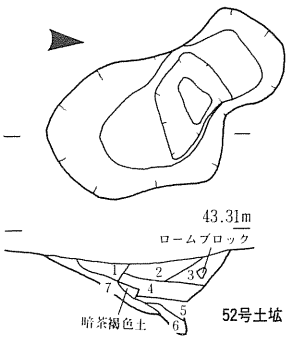


第1層…暗黄褐色土
第2層…暗褐色土、炭化物混入
第3層…明茶褐色土
第4層…暗黄橙色土
第5層…暗褐色土、ロームブロック混入
第6層…暗茶褐色土
第7層…暗黄褐色土

51号土坑

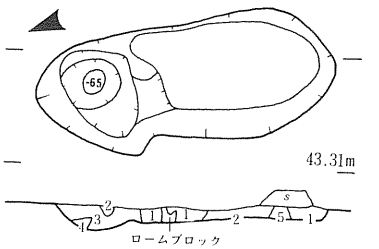
0　1m

第28図　2地区土坑



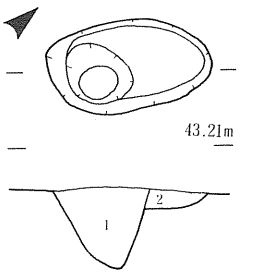
52号土坑

第1層…暗茶褐色土
第2層…暗褐色土、ロームブロック混入
第3層…暗黄褐色土
第4層…暗褐色土、ロームブロック混入
第5層…暗灰色土
第6層…黒色土
第7層…暗褐色土、ロームブロック混入



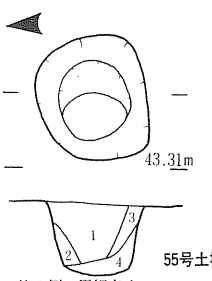
第1層…暗褐色土
第2層…暗茶褐色土
第3層…暗黄褐色土
第4層…暗褐色土、焼土混入
第5層…暗黄褐色土

53号土坑



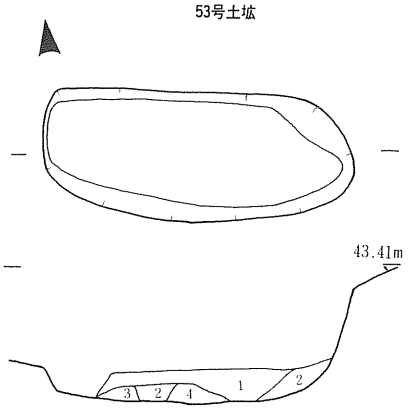
第1層…黒褐色土
第2層…黄褐色土、粘性大きい

54号土坑



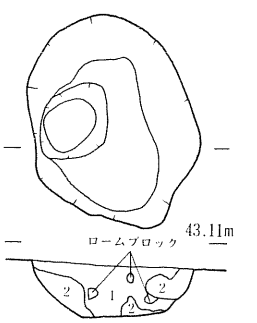
55号土坑

第1層…黒褐色土
第2層…暗黄褐色土
第3層…暗褐色土
第4層…黄褐色土



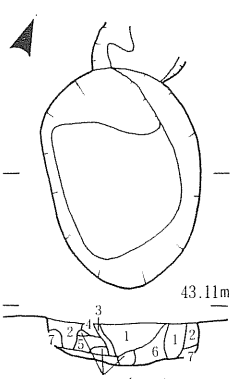
第1層…明黒褐色土
第2層…褐色土
第3層…黄褐色土
第4層…暗黄褐色土

56号土坑



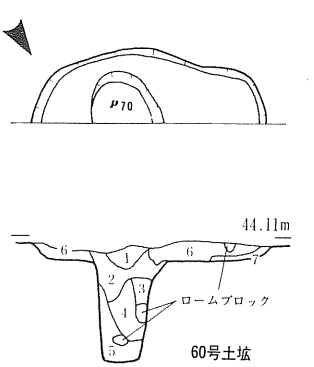
第1層…暗黄褐色土
第2層…黄褐色土

57号土坑



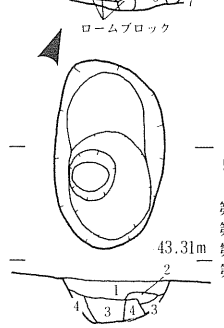
第1層…暗褐色土、粘性大きい
第2層…暗黄褐色土
第3層…暗黄褐色土
第4層…暗褐色土、炭化物混入
第5層…黄褐色土、ローム粒子混入
第6層…黄褐色土、暗褐色土混入
第7層…黄褐色土、粘性大きい

58号土坑



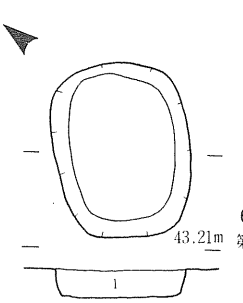
60号土坑

第1層…暗茶褐色土
第2層…明黒褐色土
第3層…暗灰褐色土
第4層…暗黄褐色土
第5層…黒褐色土
第6層…黄褐色土
第7層…明黄褐色土



59号土坑

第1層…暗褐色土
第2層…暗黄褐色土
第3層…黄褐色土
第4層…暗褐色土、しまっていない

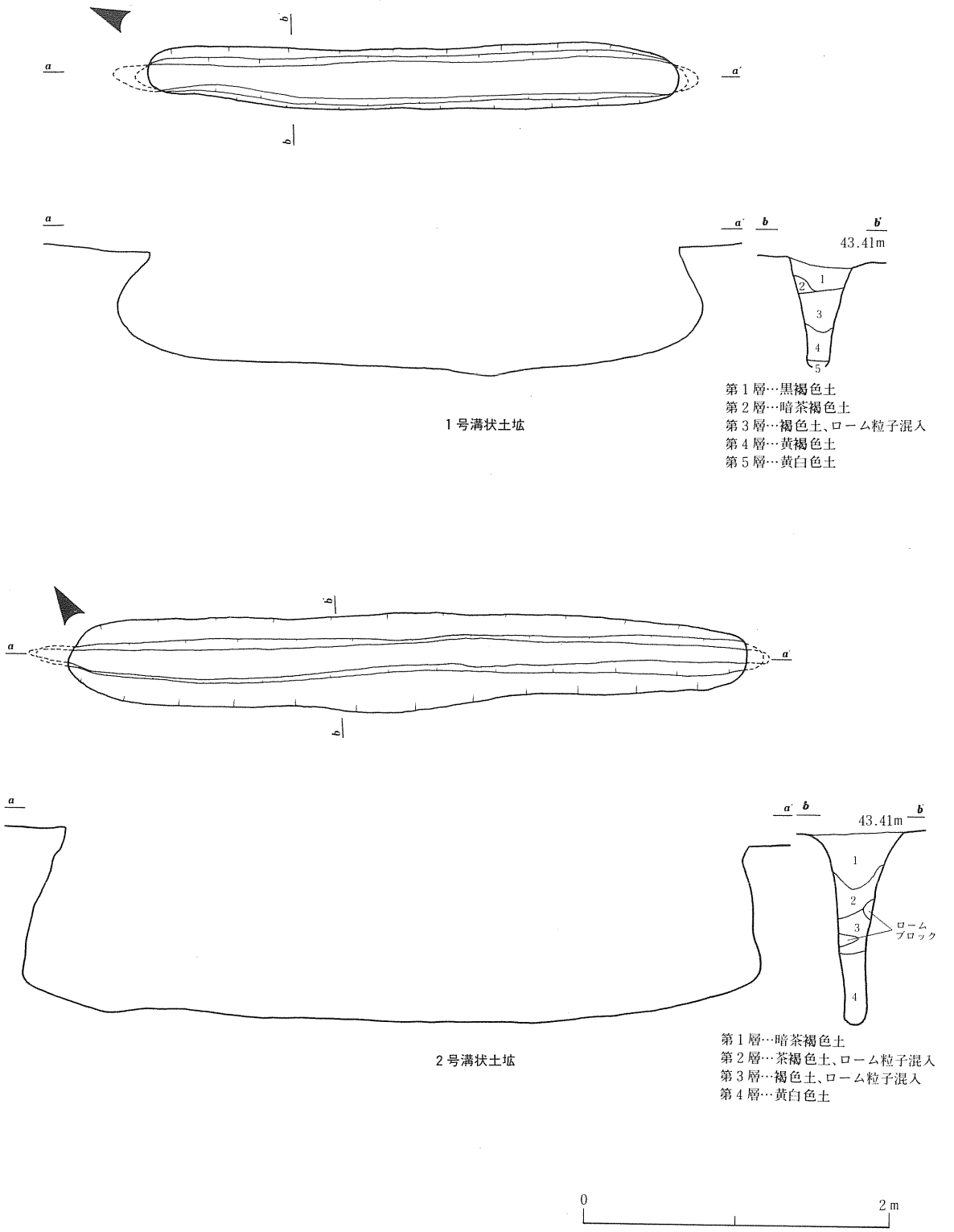


61号土坑

第1層…暗褐色土

0　1m

第29図　2地区土坑


a
a'
b
b'
43.41m
1
2
3
4
5
1号溝状土坑
第1層…黒褐色土
第2層…暗茶褐色土
第3層…褐色土、ローム粒子混入
第4層…黄褐色土
第5層…黄白色土
ローム
ブロック
2号溝状土坑
第1層…暗茶褐色土
第2層…茶褐色土、ローム粒子混入
第3層…褐色土、ローム粒子混入
第4層…黄白色土
0
2m

第30図　溝状土坑

土　坑　一　覧　表（1）

土坑番号	平面形	坑口部(cm)	長軸方向	出土遺物	備考
1	円形	86× 82		土器(晩期)	
2	円形	95× 95		土器	上部に焼土遺構
3	円形	96× 96			
4	楕円形	64× 54	N 4° W		上部に焼土遺構
5	楕円形	129×114	N 140° W	土器(後期)、石器(石皿)	ビーカー状、上部に焼土遺構
6	楕円形	172×125	N 130° W		
2	地	区			
1	楕円形	91× 71	N 93° W	土器(晩期)	Ⅱ層上面にて確認
2	楕円形	135×102	N 158° W	土器(前期)、剝片	袋状
3	不整長形	163× 86	N 10° W		
4	楕円形	111×105	N 110° W	土器	
5	楕円形	123×111	N 50° W	土器(晩期)、石器(凹石、磨石)	
6	不整形	194×157	N 25° W	土器(晩期)、石器(磨石)、剝片	
7	楕円形	111× 98	N 68° W	土器	
8	楕円形	229×223		土器(前期)、石器(石鏃、ヘラ状石器)、剝片	袋状、多量の焼土検出
9	円形	106×103		土器	
10	楕円形	133×104	N 55° W	土器	
11	楕円形	109× 97	N 156° W	土器(前期)、剝片	
12	楕円形	113×102	N 117° W	土器、剝片	
13	長楕円形	128× 79	N 36° W		
14	楕円形	90× 75	N 68° W	土器(前期)	
15	円形	74× 72		土器(晩期)、石器(石匙)	袋状、炭化物出土(クルミ?)
16	不整円形	201×188	N 10° W	土器(前期)、剝片	袋状、炭化物出土(クルミ?)
17	不整長形	183× 42	N 110° W		
18	長楕円形	120× 78	N 95° W		
19	不整形	136× 90	N 71° W		
20	楕円形	128×104	N 28° W		
21	不整形	124× 85	N 101° W		
22	楕円形	78× 70	N 50° W		
23	不整長形	237× 83	N 80° W	土器	
24	不整長形	270×107	N 93° W		
25	隅丸長方形	179× 87	N 78° W		
26	不整形	155× 89	N 148° W		
27	楕円形	184×164		土器(前期)	袋状、第28号土坑と重複
28	隅丸長方形	270×120	N 83° W		第27号土坑と重複
29	楕円形	117× 85	N 5° W	土器、剝片	
30	長楕円形	101× 51	N 86° W		
31	長楕円形	119× 74	N 110° W	石器(石皿)	
32	不整形	158×110	N 70° W		
33	楕円形	197×180		土器(前期)、剝片	袋状
34	楕円形	104× 82	N 81° W		
35	楕円形	120×110	N 177° W	土器、石器(石皿)、剝片	
36	長楕円形	129× 76	N 27° W		
37	楕円形	70× 56	N 63° W		
38	円形	88× 85		土器	袋状
39	不整円形	144×123	N 131° W	土器(前期)、剝片	袋状

土　坑　一　覧　表（2）

土坑番号	平　面　形	坑口部(cm)	長軸方向	出　土　遺　物	備　　考
40	小　判　形	130× 67	N　65° W	剝片	
41	不整長形	246× 60	N 133° W	土器	
42	不整長形	185× 49	N　19° W	土器	
43	不　整　形	102× 54	N　34° W		
44	円　　形	98× 97		土器(前期)	
45	不　整　形	101× 95	N 156° W	土器	袋状
46	不　整　形	99× 85	N 154° W	土器	袋状
47	不　整　形	200×104	N　47° W	土器、剝片	
48	長楕円形	106× 63	N 165° W	土器、剝片	
49	楕　円　形	85× 75	N　46° W		
50	小　判　形	120× 75	N 100° W	土器	
51	楕　円　形	122×103	N　30° W	土器、剝片	
52	不　整　形	135× 72	N　45° W		
53	不整長形	159× 63	N 163° W		
54	長楕円形	88× 47	N 137° W		
55	楕　円　形	67× 58	N 100° W		
56	長楕円形	165× 69	N　78° W		
57	楕　円　形	116× 84	N 162° W	土器(晩期)	
58	長楕円形	118× 69	N　40° W	土器、剝片	
59	長楕円形	100× 58	N　26° W	土器(晩期)	
60	長楕円形	124× 70	N　65° W	土器	
61	隅丸長方形	93× 72	N 136° W		
		3	地	区	
1	楕　円　形	127×103	N　53° W	土器	
2	円　　形	59× 55			
3	円　　形	113×111			袋状
4	楕　円　形	109×106	N　89° W	土器、剝片	ビーカー状
5	楕　円　形	88× 72	N　99° W		ビーカー状
6	円　　形	97× 95			
7	長楕円形	85× 59	N　39° W		
8	不　整　形	73× 43	N　47° W		
9	不　整　形	83× 53	N　40° W		
		4	地	区	
1	小　判　形	290×151	N　12° W		
2	楕　円　形	99× 79	N 135° W		
3	小　判　形	125× 61	N　13° W		
4	小　判　形	136× 85	N　30° W		
5	楕　円　形	100× 98			Ⅱ層上面にて確認
6	不整長形	164× 60	N　4° W		
7	楕　円　形	100× 62	N　98° W		
8	隅丸長方形	91× 58	N　31° W		
9	楕　円　形	66× 52	N　93° W		
10	楕　円　形	64× 50	N　17° W		
11	楕　円　形	50× 44	N　10° W		
12	楕　円　形	67× 62	N　53° W		埋土上面に石
13	楕　円　形	61× 58	N 120° W		埋土上面に石
14	楕　円　形	45× 45			埋土上面に石

クルミの炭化物や同一個体になると思われる土器片の出土が顕著である。また中央部においてもピットが集中しており、７号焼土遺構周辺のピットからは前期の土器片が出土し、８号焼土遺構周辺では特に深いピットが検出されている。これらの焼土遺構が検出された場所はローム層にまで攪乱が及んでいるため、壁こそ検出できなかったものの住居跡である可能性が強いと考えられる。

遺　物

Ⅰ群土器（第31～44図）

ａ類（18、19、52、53、73～75、82、83、123、127、145、170、171、203）

細い粘土紐を貼り、直線、鋸歯状文など幾何学的文様を構成するもので、平行する隆線の間を半截竹管状工具（外面）でなでているものがある。地文は無文、縄文で鉢形の土器が多い。203は４個の山形口縁をもつ鉢形の土器で、口径約24.5cm、器高約22cmを測る。地文はＬＲ単節斜縄文（横位回転）である。

ｂ類（１、２、15、16、43～49、61、62、69、70、84、85、101、135、156、172～175、177、200、201、204）

ａ類同様、細い粘土紐を貼り付け、幾何学的文様を作り、細隆線文に半截竹管状工具の内面側を刺し引いて爪形文を施文するもので、平行しない鋸歯状文に爪形文を施文するものはほとんどない（135、一点に見られるがモチーフの相違であろうか)。地文は単節斜縄文が多く、深鉢、鉢形土器である。43は薄手の鉢形土器で、折り返し口縁の内面に一条、口縁部に二条の円形細隆線文をめぐらしている。47は半截竹管状工具を刺突した爪形文である。202は深鉢形土器の口縁部であり、４個の中空で手のこんだ把手をもつと思われる。外面に６つ内面に３つの三角形透しが作られ、爪形文施文の隆線で幾何学的（対称形）文様構成がなされる。把手を上から見るとこわい顔つきの動物相を観察できる(イ)。口唇部は「く」の字に極端に内湾し、２つの連続する山形突起を４個もつ(ロ)と思われる。地文ＲＬ単節斜縄文（横位回転）の土器である。204は202と同器形の土器で、口がやや大きく開く。口唇部は「く」の字状に内湾する。地文はＬＲ単節斜縄文（横位回転）である。

ｃ類（50、87、179～181）

半截竹管状工具内面による平行沈線文施文の土器である。

ｄ類（71、92、183、198）

口唇部に刻目文、口縁部に撚糸、単軸絡条体圧痕の施文されるもので、隆帯のめぐるものとそうでないもの（92）があり、器形は円筒深鉢形である。198は口径35cm、器高48cm（推定）を測り、口唇部、隆帯上に半截竹管状工具による連続刺突文が施され、口縁部は単軸絡条体圧痕の施文で、胴部は原体の一方に結節のあるＬＲ原体の横位回転で綾絡文が認められる。

ｅ類（55～57、86）

半截竹管状工具内面を押し引いて施文し、隆起線を表現する（半隆起線）グループで、半隆起線

文は口縁部、胴部に施文される。86は蓮華文の施文がみられる。

f類（194、195、197、199）

a～e類以外の土器で、194は口径15cm、器高16.5cmの深鉢形土器で、4個の突起をもち、折り返し口縁で、外反する。山形口縁下に隆帯が垂下し、口頸部隆帯に重なる。折り返し口縁には二条の連続刺突文、口縁部は単軸絡条体圧痕文、口頸部隆帯は単節斜縄文の圧痕文がめぐる。胴部は羽状縄文（横位回転）である。195は口径16cm、器高20cm（推定）の深鉢形土器で、口縁は外反する。口唇部、口頸部半隆帯及び口縁部三角形隆帯に半截竹管状工具による連続刺突文（爪形文）が施文され、その間を縦位に半截竹管状工具内面で沈線を施し、次に横位に三条の平行沈線をめぐらしている。施文に用いた半截竹管状工具は同一のものである。胴部はＬＲ単節斜縄文（横位回転）で、末端は結節し綾絡文がみられる。197は口径33.5cm、器高40.5cmの深鉢形土器で、口縁はやや外反する。口縁部はＬＲ単節斜縄文（横位回転）を施し、半截竹管状工具内面による縦位、横位の半隆起線文を施文し、横位半隆起線文（二条）に半截竹管状工具で爪形文を施す。縦位に貼り付けられた4個の隆帯（三日月状隆帯を付す）は、頸部の隆帯と接する。胴部は木目状撚糸文の施文で、左右交互に施文するものである。199は口径10.5cm、器高14.5cmの小形の深鉢形土器である。4個の山形口縁をもち、隆帯が垂下する。ＬＲ単節斜縄文（縦位回転）を施し、口縁部に単節斜縄文を圧痕している。

Ⅱ群土器（第36図 112）

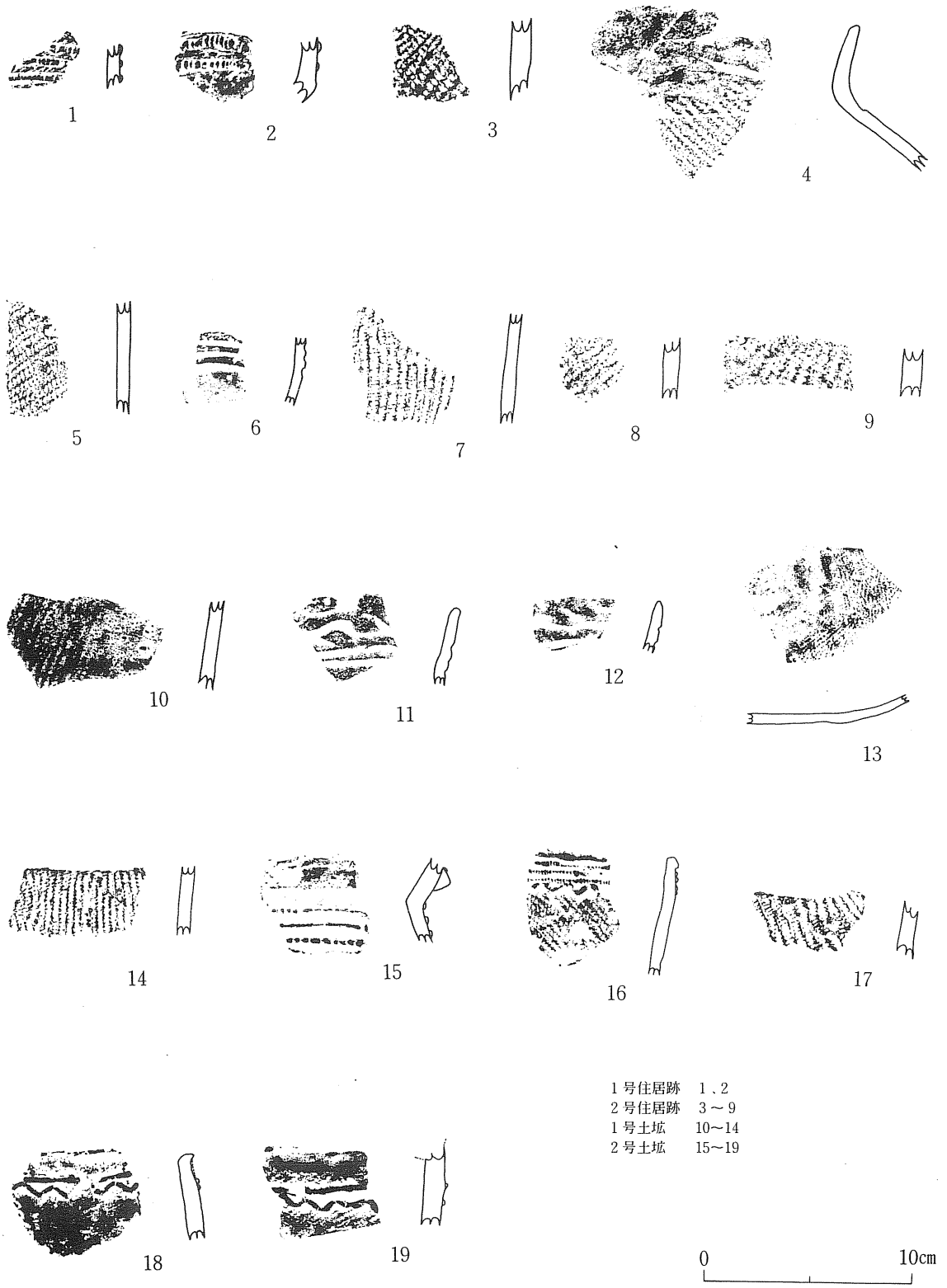
1号溝状土坑埋土上部からの出土で、ＲＬ単節斜縄文（縦位回転）で、平行沈線の間は磨消である。

Ⅲ群土器（第38図 163～165）

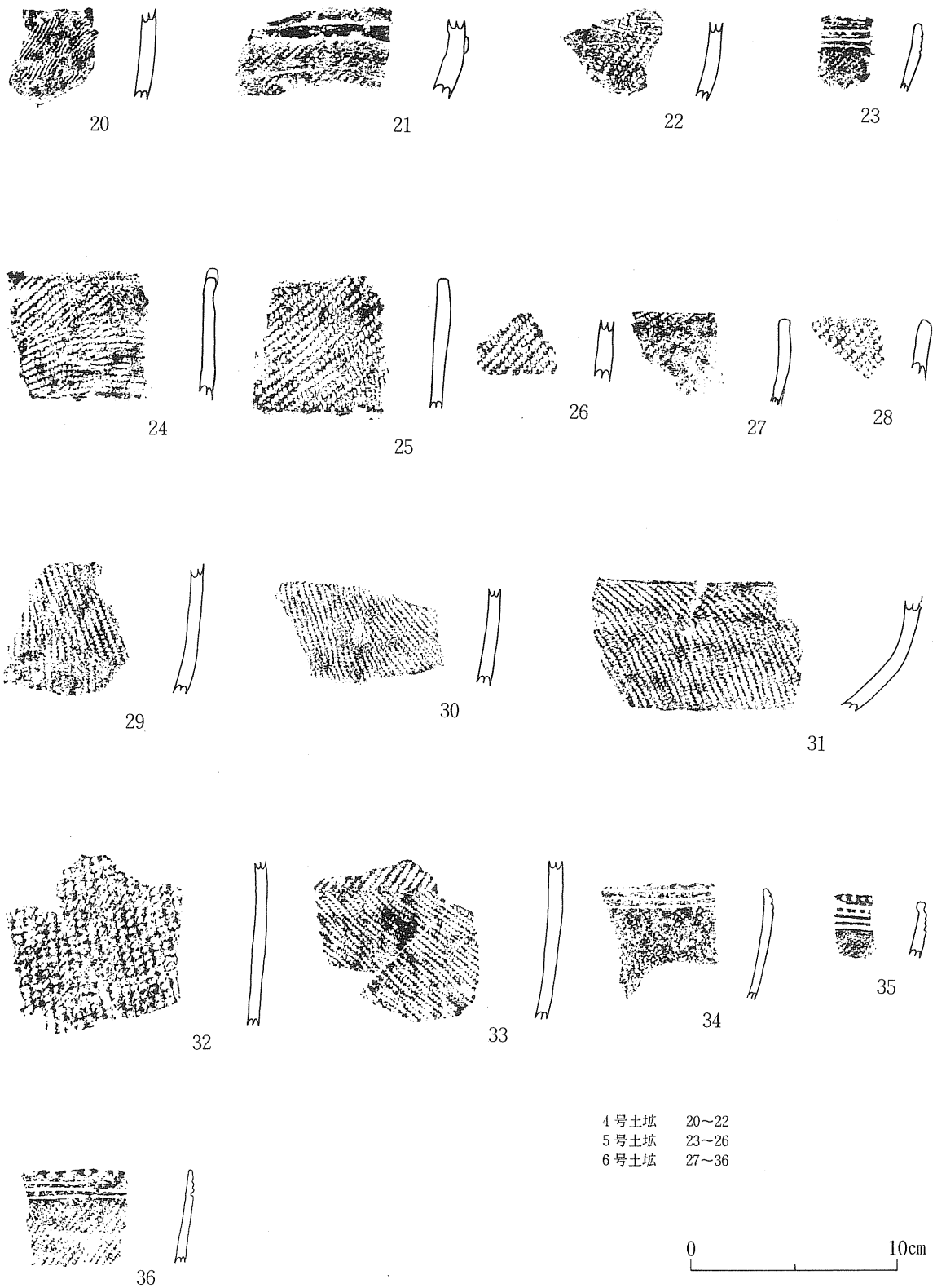
沈線による幾何学的文様構成を作るもので165の地文は撚糸文である。

Ⅳ群土器（第31図6、11～13、第32図23、34～36、第33図37、38、40、41、第34図68、第36図109、116、118、第37図126、129、132、143、第38図149、第39図185～187）

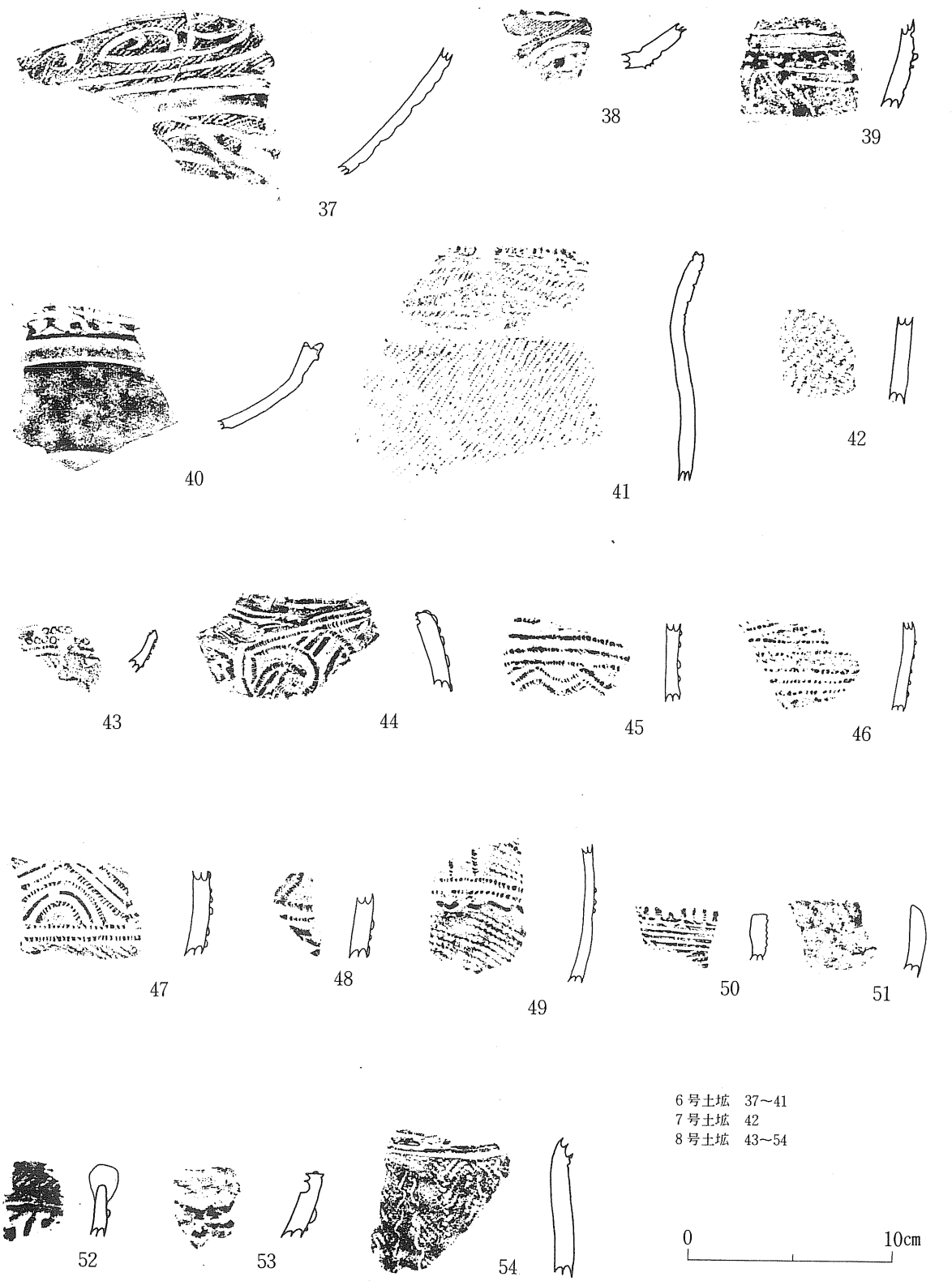
口唇部に刻目文、沈線をめぐらすもの、突起をもつものがある。口縁部は三叉状文、刻目文、平行沈線文、沈線文、磨消手法などにより文様を作り出す。地文は単節斜縄文が多く、ヘラ状工具により研磨され、光沢のみられるものがある。



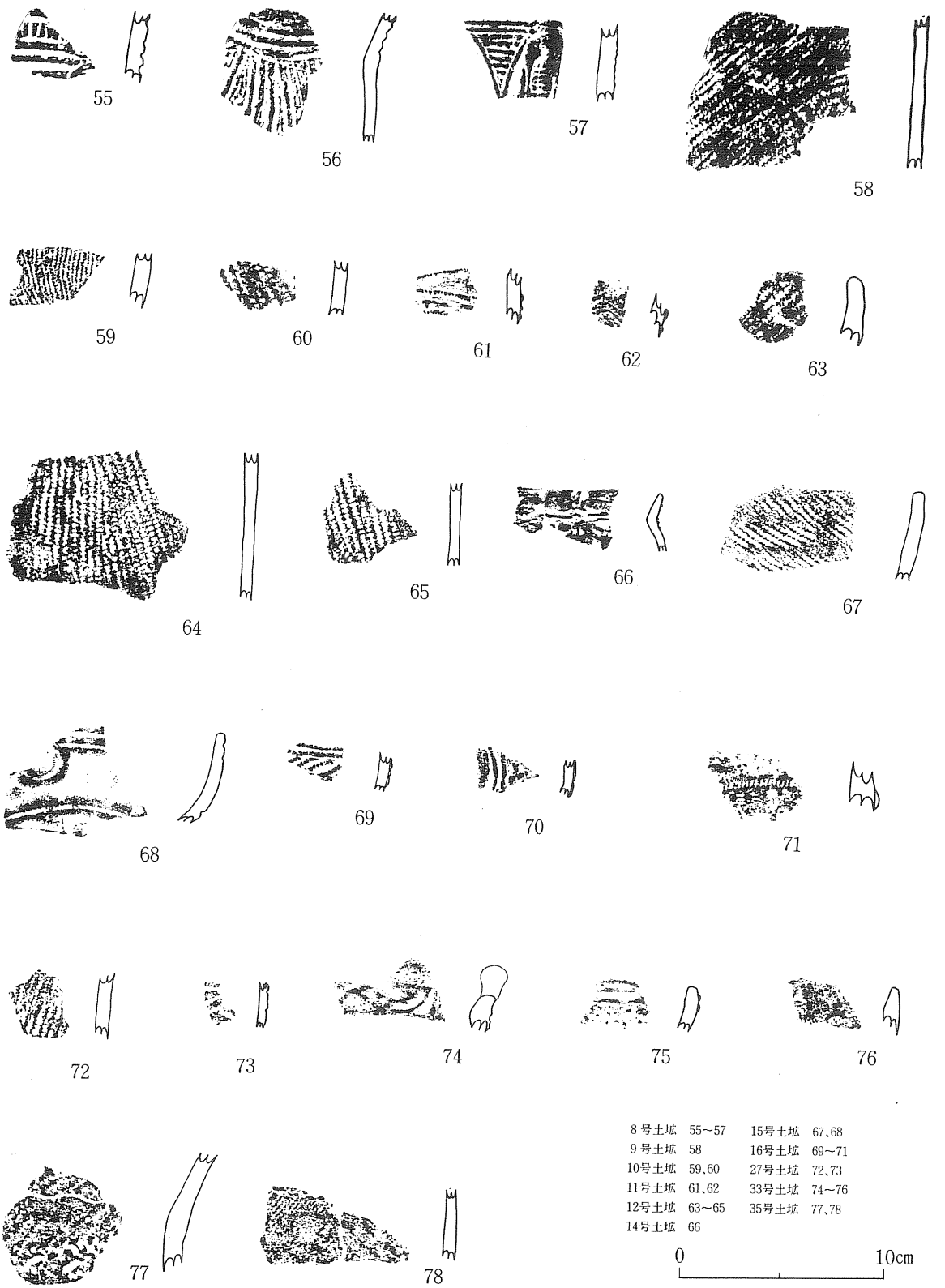
第31図　2地区出土土器



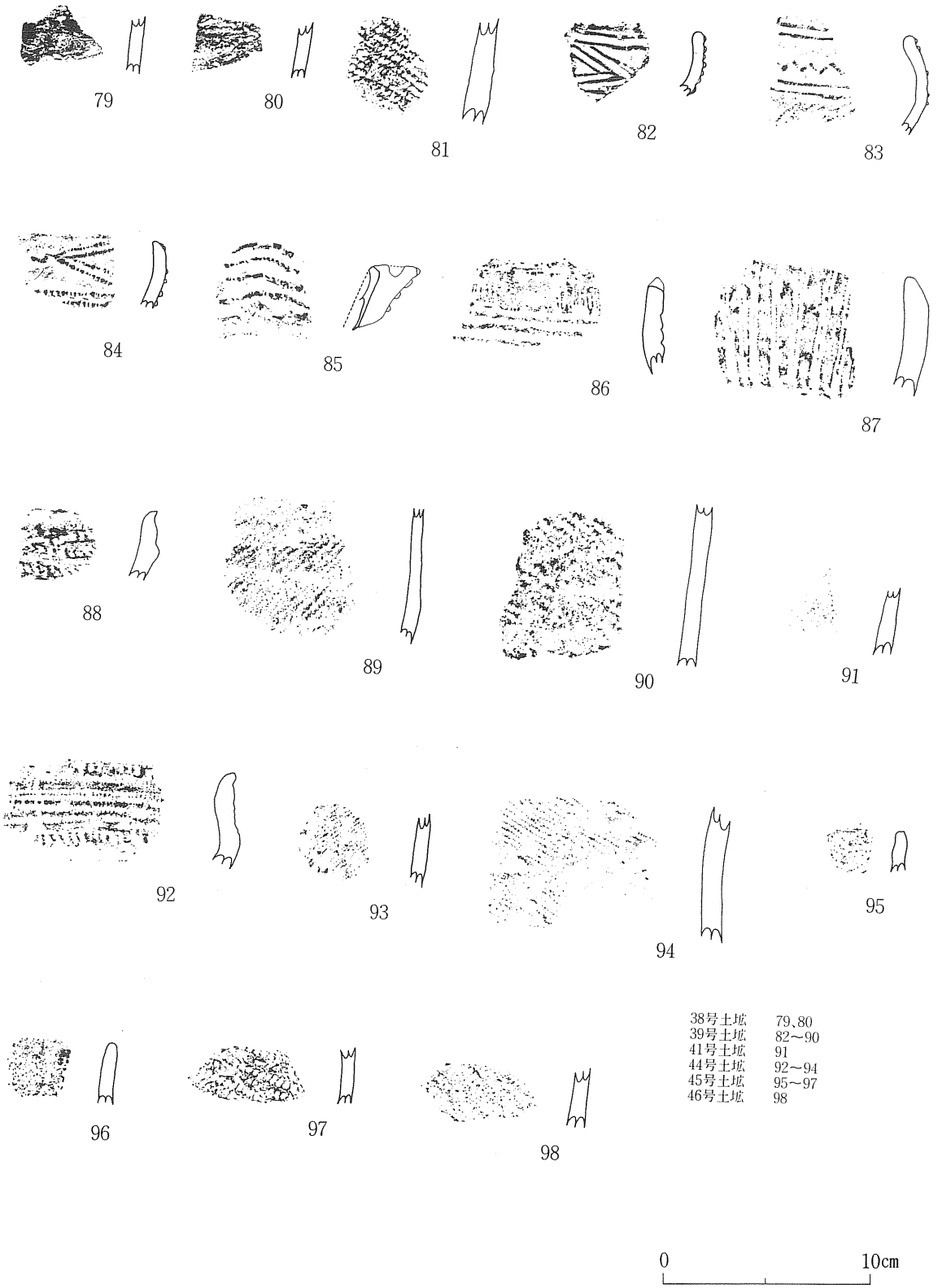
第32図　2地区出土土器



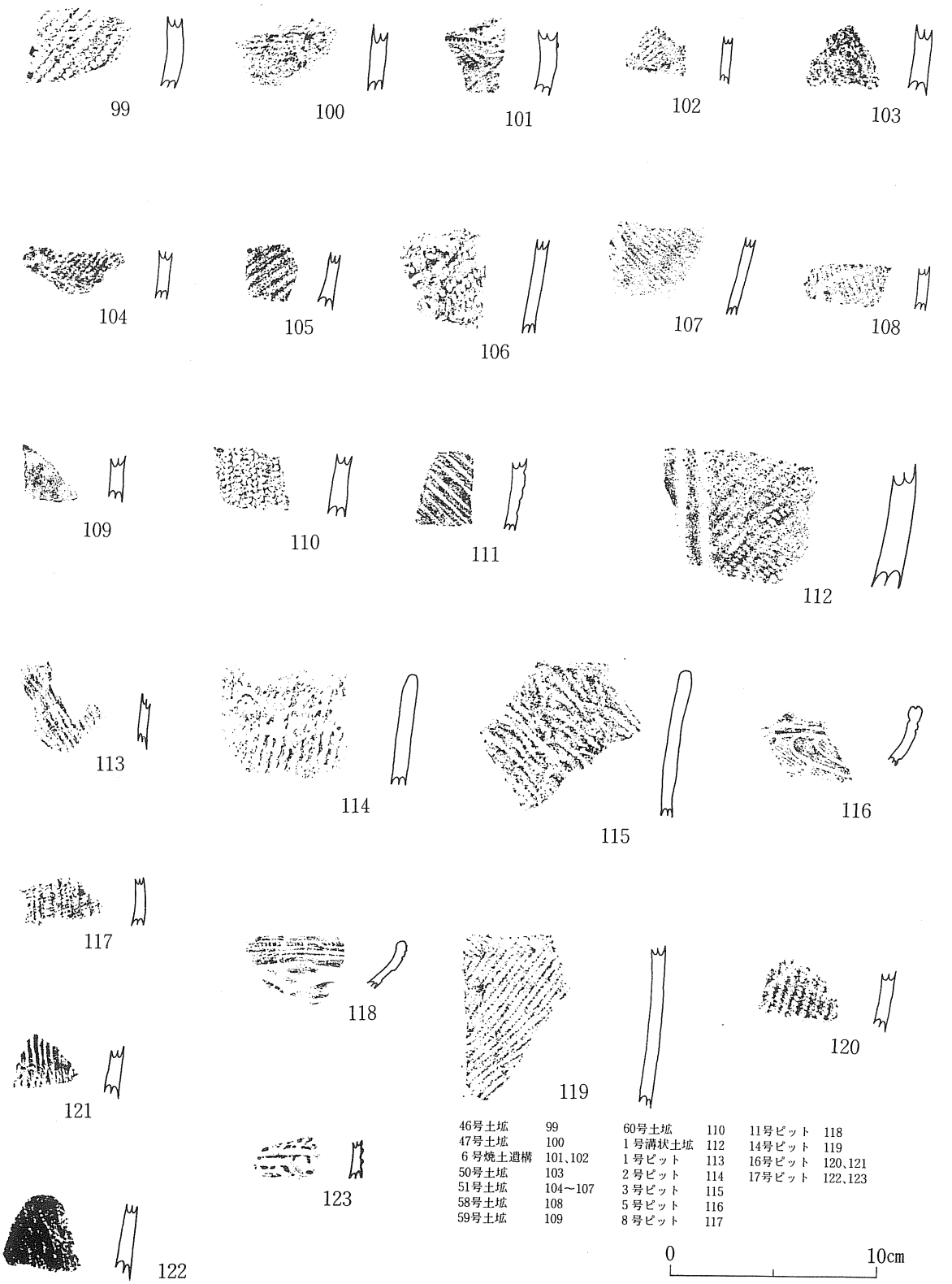
第33図　2地区出土土器



第34図　2地区出土土器

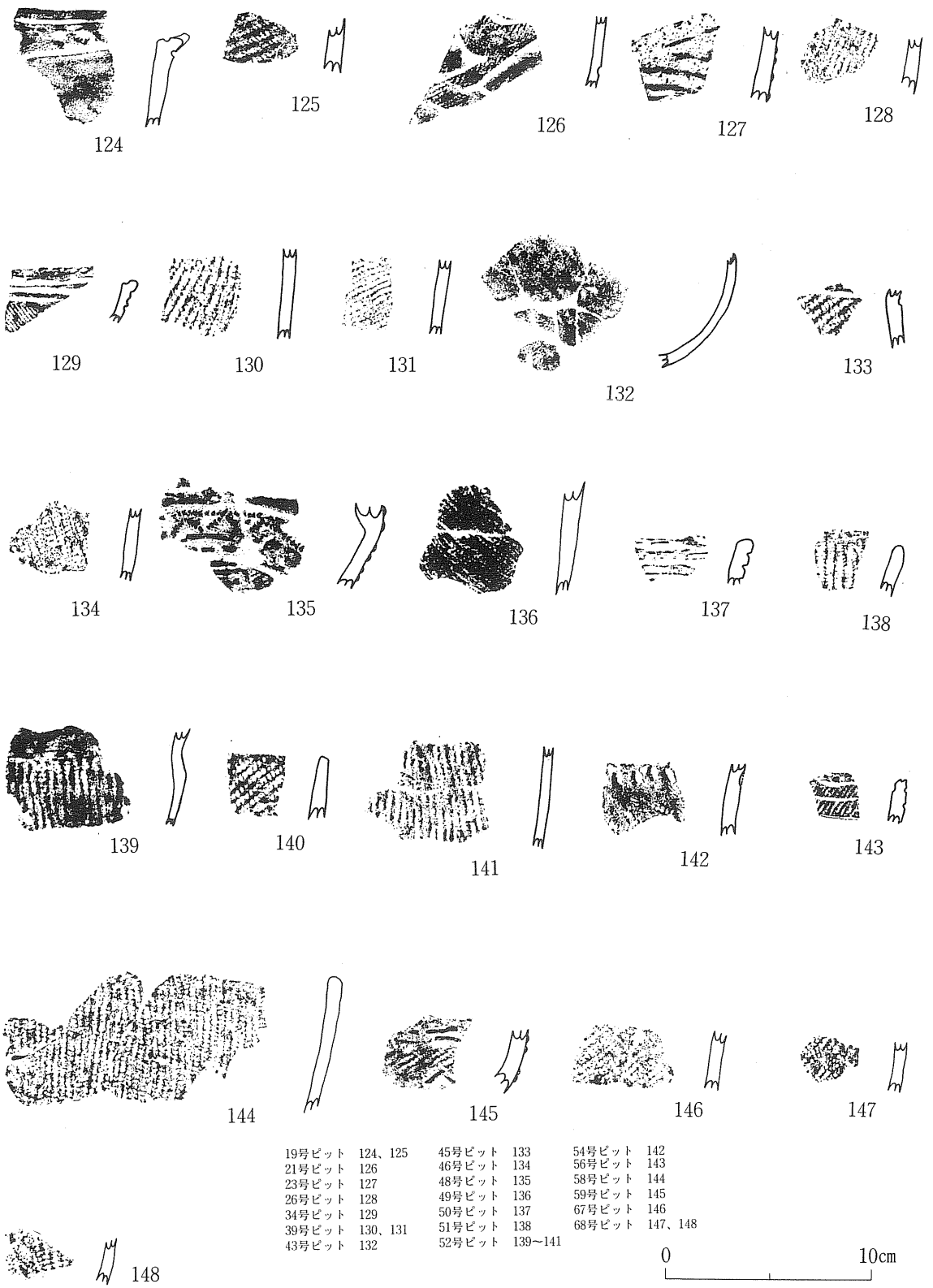


第35図　２地区出土土器



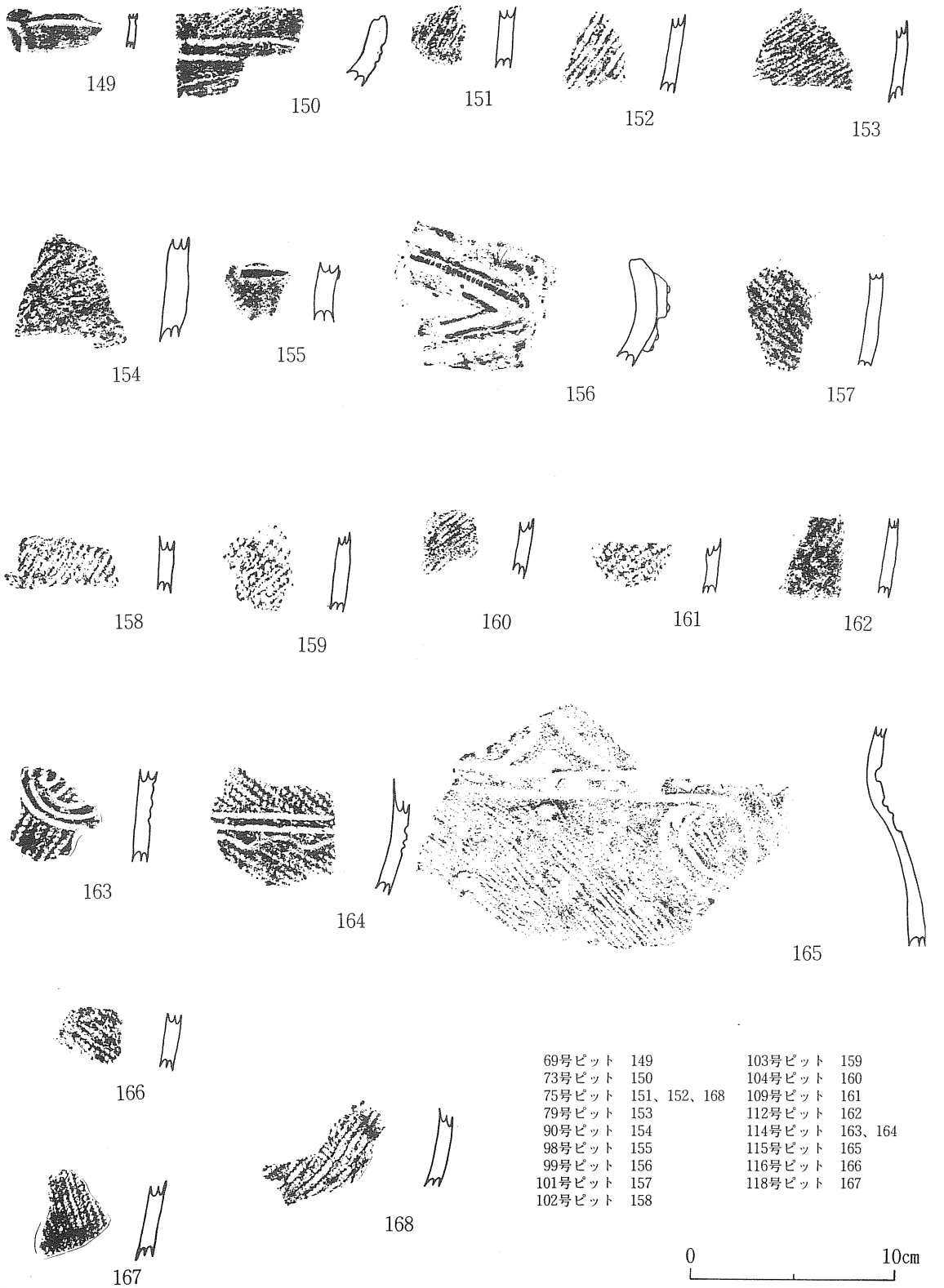
46号土坑	99	60号土坑	110	11号ピット	118
47号土坑	100	1号溝状土坑	112	14号ピット	119
6号焼土遺構	101、102	1号ピット	113	16号ピット	120、121
50号土坑	103	2号ピット	114	17号ピット	122、123
51号土坑	104～107	3号ピット	115		
58号土坑	108	5号ピット	116		
59号土坑	109	8号ピット	117		

第36図　2地区出土土器



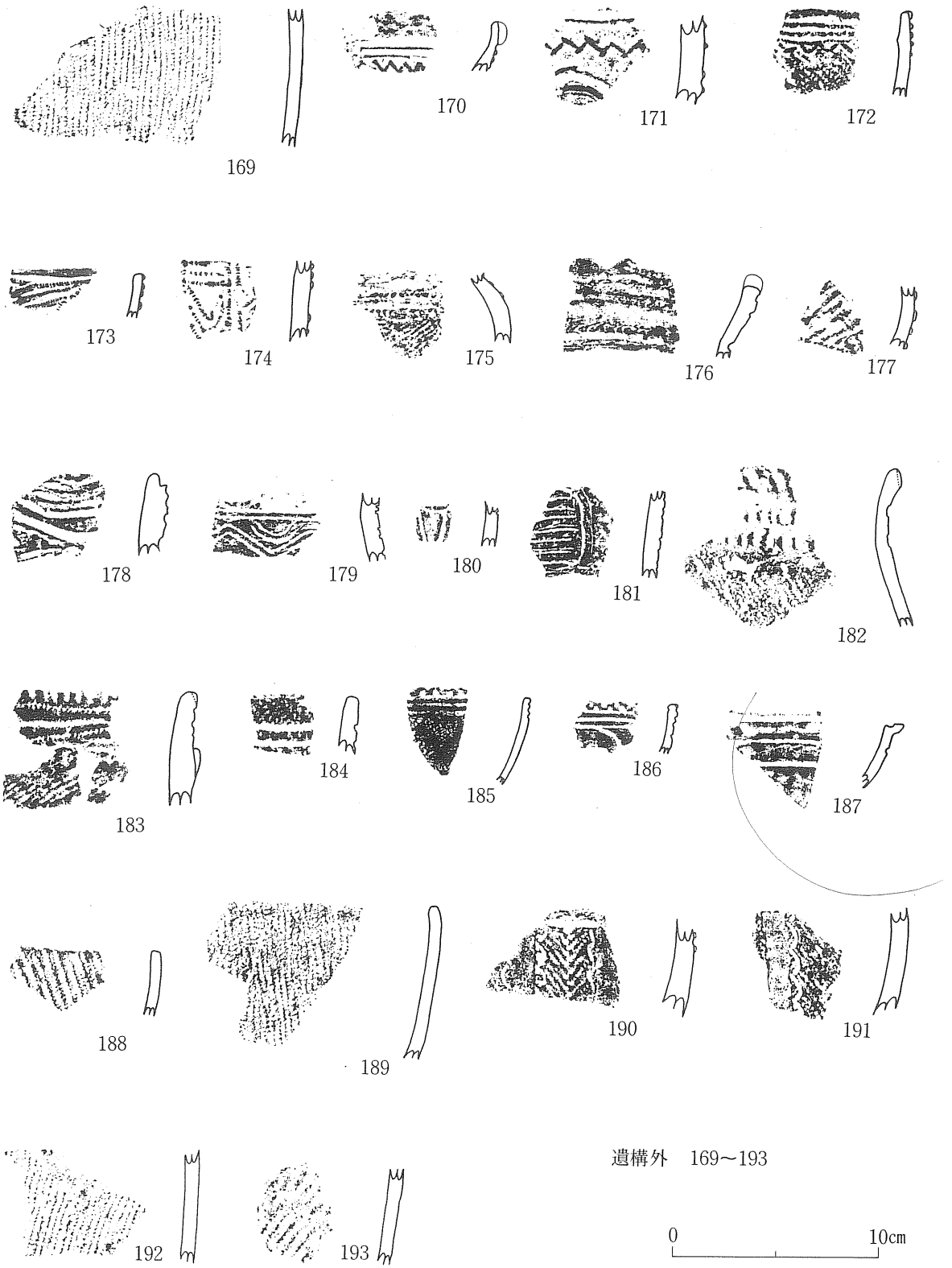
19号ピット	124、125	45号ピット	133	54号ピット	142
21号ピット	126	46号ピット	134	56号ピット	143
23号ピット	127	48号ピット	135	58号ピット	144
26号ピット	128	49号ピット	136	59号ピット	145
34号ピット	129	50号ピット	137	67号ピット	146
39号ピット	130、131	51号ピット	138	68号ピット	147、148
43号ピット	132	52号ピット	139～141		

第37図　2地区出土土器

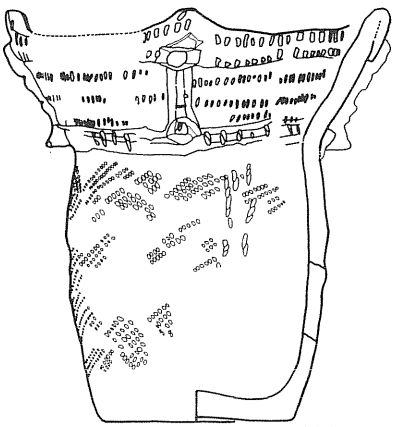


69号ピット	149	103号ピット	159
73号ピット	150	104号ピット	160
75号ピット	151、152、168	109号ピット	161
79号ピット	153	112号ピット	162
90号ピット	154	114号ピット	163、164
98号ピット	155	115号ピット	165
99号ピット	156	116号ピット	166
101号ピット	157	118号ピット	167
102号ピット	158		

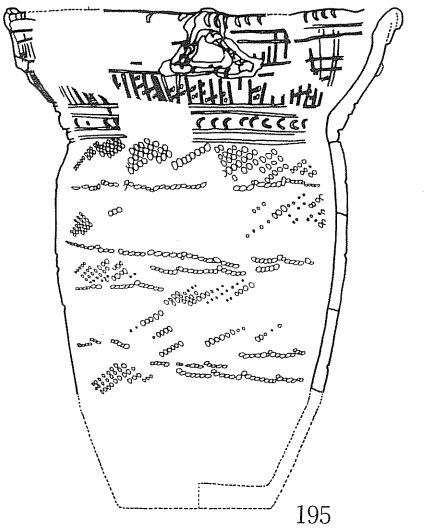
第38図　2地区出土土器



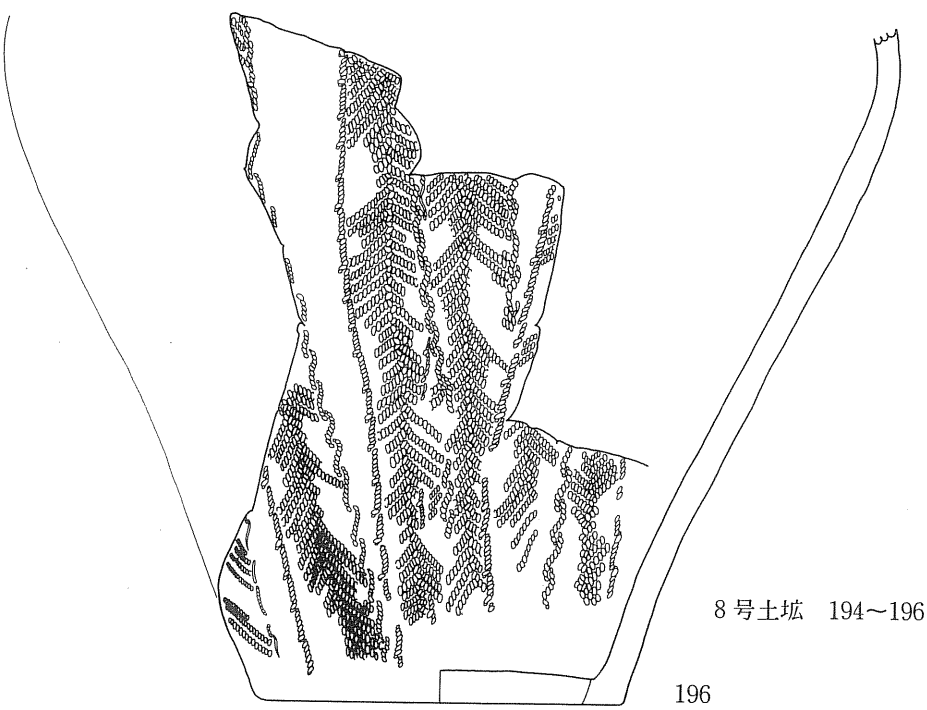
第39図　2地区出土土器



194



195

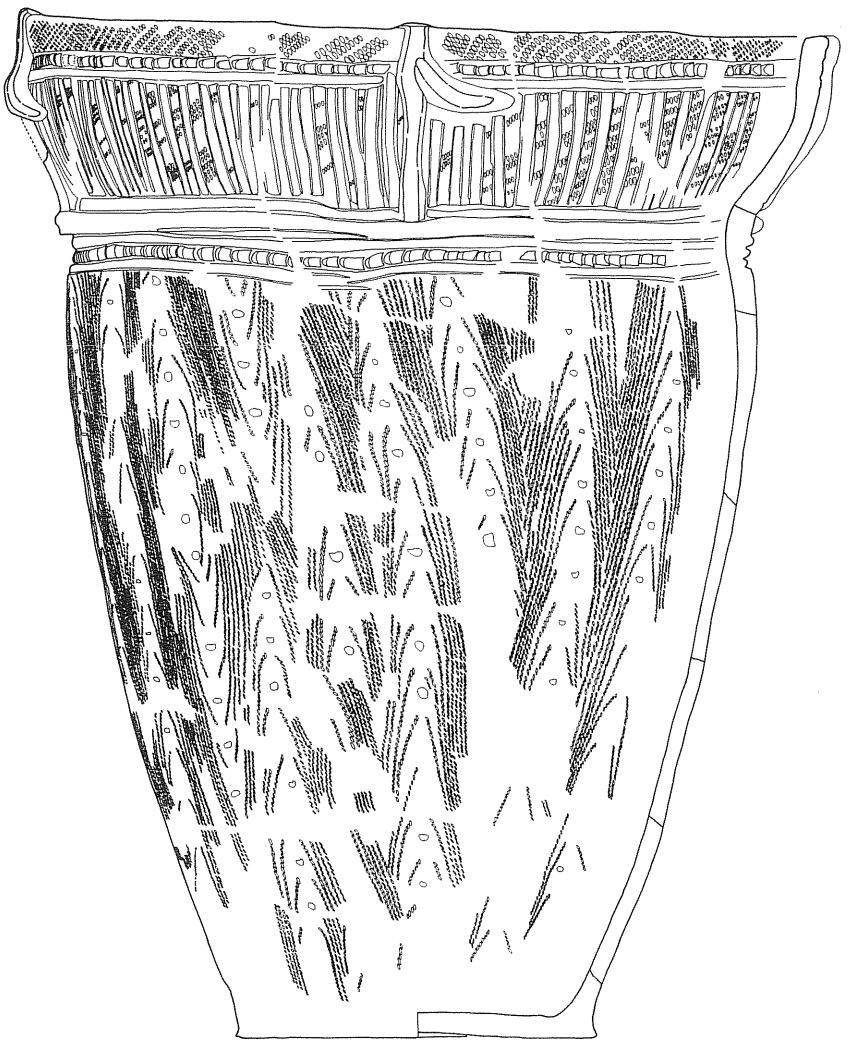


8号土坑　194～196

196

0　10cm

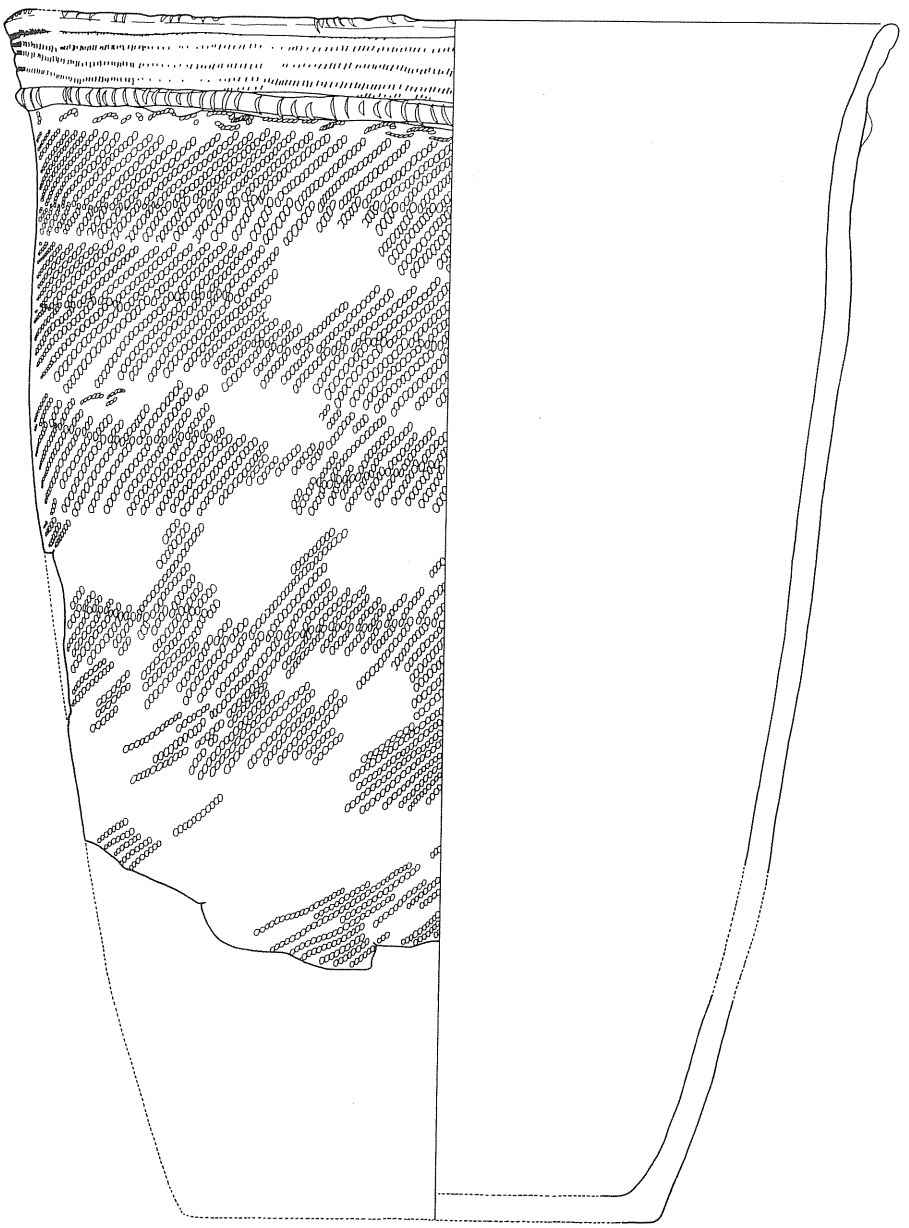
第40図　2地区出土土器



39号土坑　197

0　　10cm

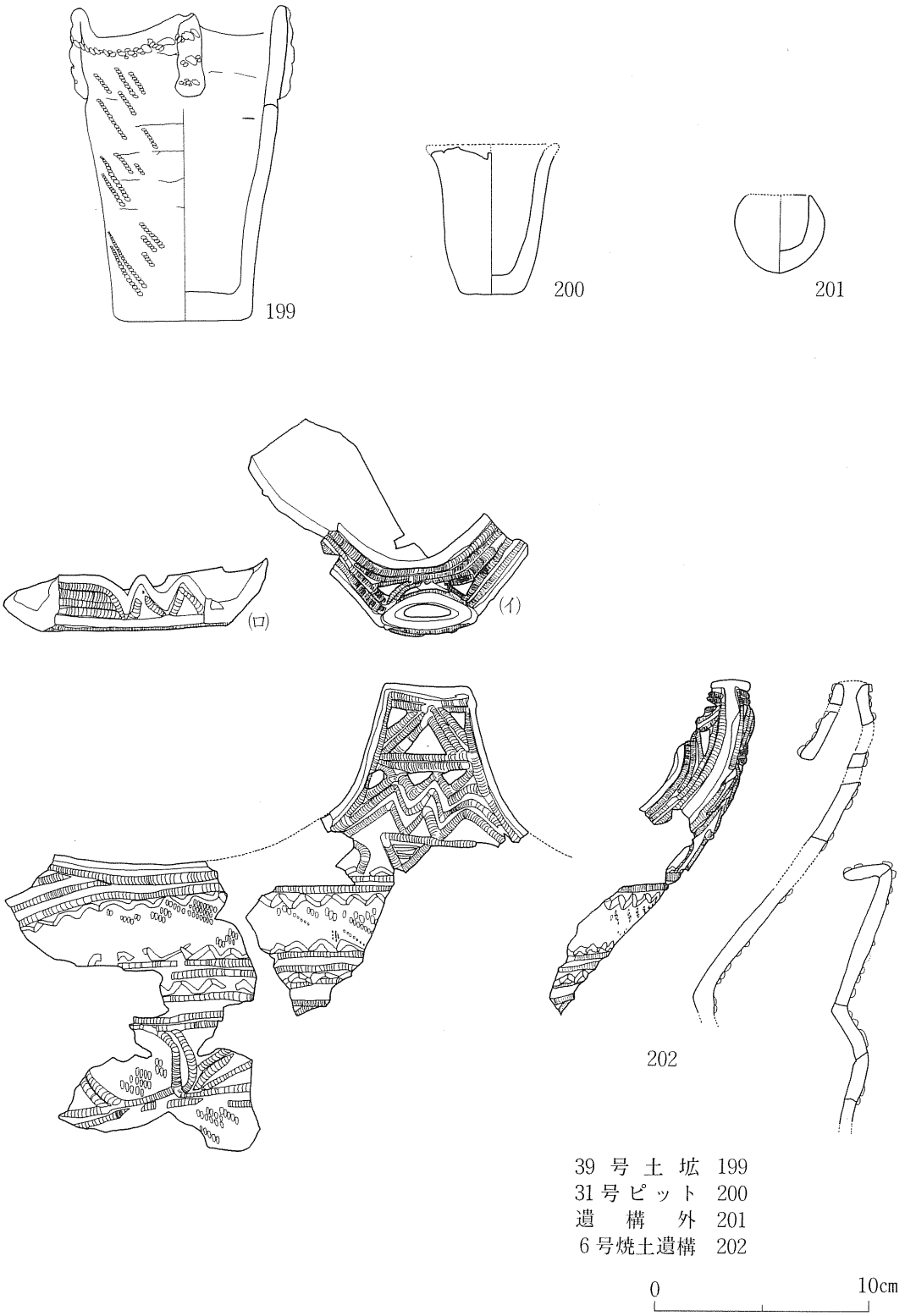
第41図　2地区出土土器



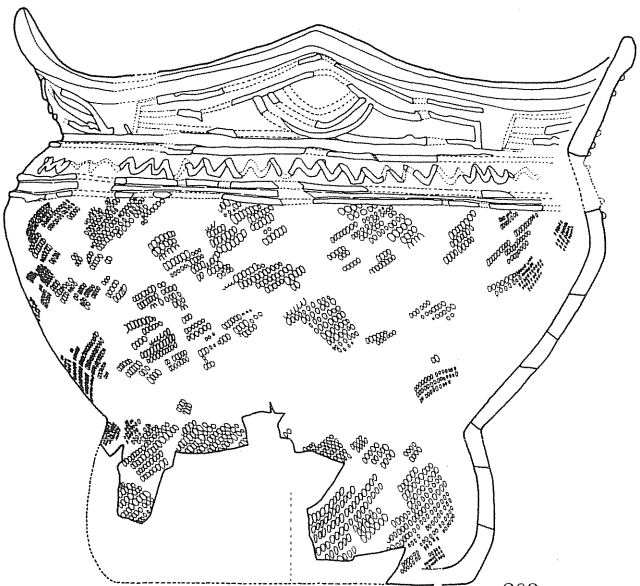
39号土坑　198

0　10cm

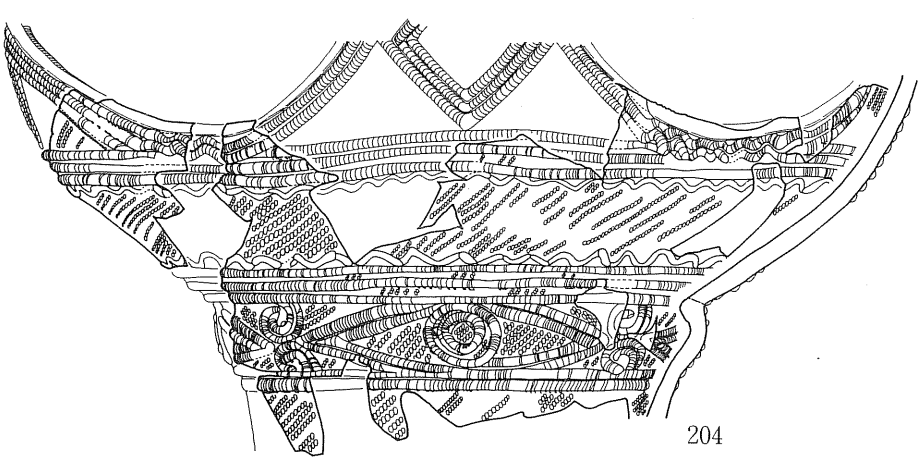
第42図　2地区出土土器



第43図　2地区出土土器



203



204

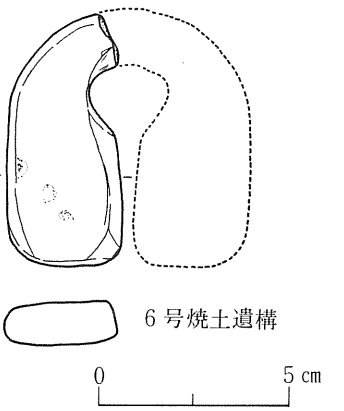
6号焼土遺構　203、204

0　10cm

第44図　2地区出土土器

土製品　土製玦状耳飾（第45図）

６号焼土遺構から出土したもので、半欠品で、焼成は良く、第Ⅰ群土器と伴出していることから、縄文前期のものである。



第45図　２地区出土土製品

(3)　３地区

遺　　構

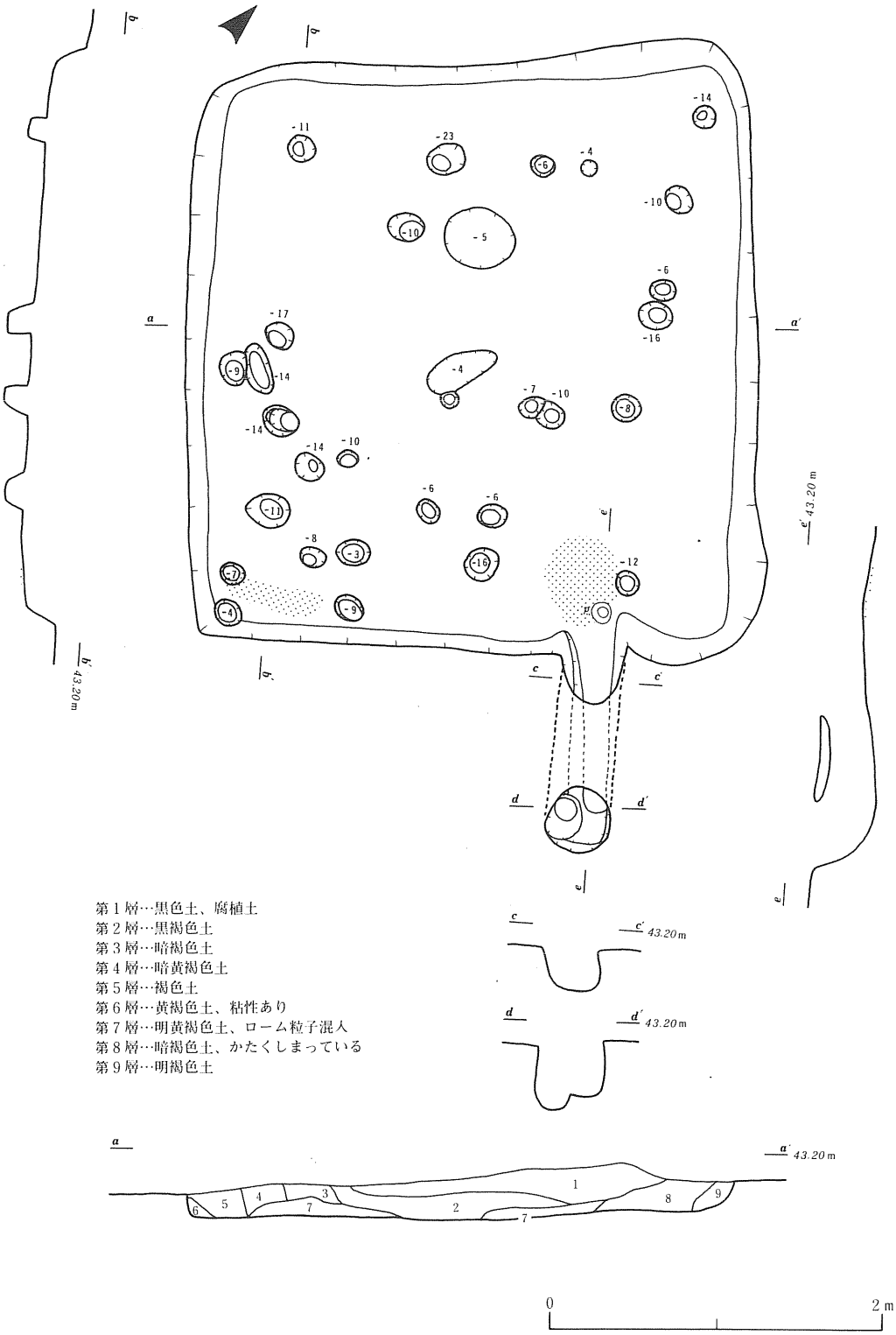
３地区の検出遺構は、竪穴住居跡３軒、土坑９基、溝状土坑２基で、土坑からの出土遺物はなく時期は不明である。３地区の北、北西の台地端に広がりをもつと思われる住居跡については、杉林、雑木林等の問題で調査は出来なかった。

１号住居跡（第46図）

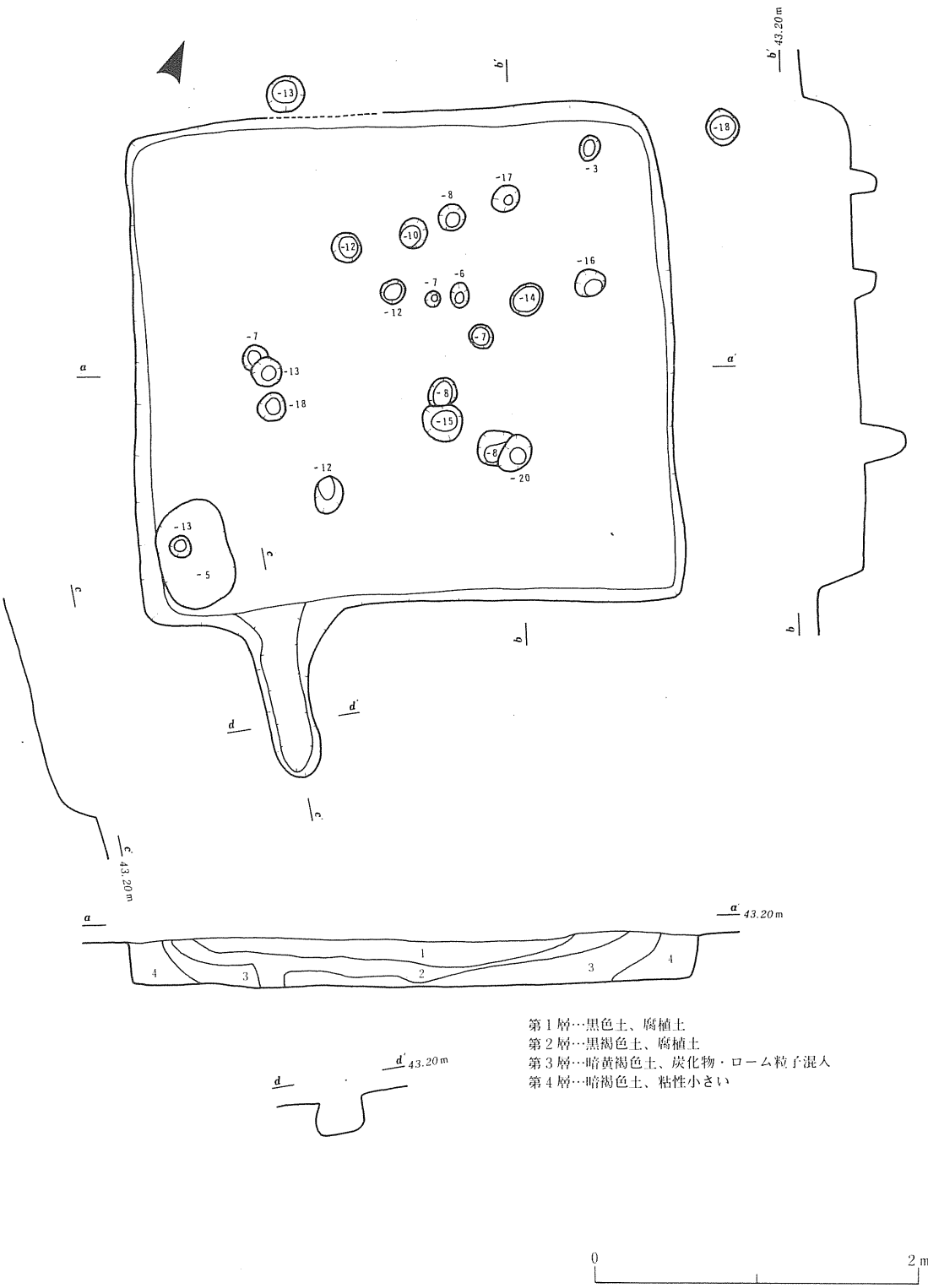
西側の最も沢寄りに位置する竪穴住居跡で、１辺が3.4m の方形を呈する。主軸はN47°W。壁はしっかりしており、垂直に近い急な立ち上がりをみせる。床は若干起伏があるが、かたくしまっている。ピットは床全体に検出されたが、大部分のものは埋土の状態、他の住居跡などとの比較から柱穴とは考えられない。ただし、中央部の浅いピット２個については、やや北寄りのピットに炭化物や焼土が多量に混入した土が入り込み、中央のピットには多量の炭化物とともに荒い砂粒が混入し底面が焼けたような状態を呈していた点などから、本遺構に付属するものと考えられる。カマドは南東壁に中央から東寄りに構築され、３軒の住居跡のうち一番しっかり残っていた。支脚として使用された赤褐色土器坏も焚き口部焼土の上にかなり火をうけた痕跡で伏せられていた（第52図６）。煙道部はトンネル状に残ってはいるものの、天井部はしっかりしたロームではなく、おそらくある程度けずりとられてしまったものと思われる。埋土には焼土の混入がみられた。そでは検出できなかったが、前庭部の焼土上にはさらに炭化物や焼土が混在して堆積していた。また、これらの堆積物が埋土として入り込んだ状態のピットが、焼土の下から検出されている。南隅の焼土は埋土上面から確認されていたものだが、埋土には薄く焼土粒子が混入する程度である。また、北隅に床面から若干浮いて小形の土師器甕の破片が散在した状態で出土した（第52図７）。

２号住居跡（第47図）

西側の１号住居跡よりもやや南東に位置する竪穴住居跡で、3.2m ×３m の若干長方形がかったプランを呈する。主軸はN28°Wを示す。壁はしっかりとほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約30cmを測る。北西壁の一部を後世の攪乱でけずりとられている。床はかたくしまり、平坦である。ピットは中央付近に集中して検出されてはいるが、本遺構に付属するものとは考え難い。カマドは南東壁中央から南寄りに構築されているが、焼土等火を焚いた痕跡はみられず、そでや天井部も崩れ、残っていない。遺物も出土していない。

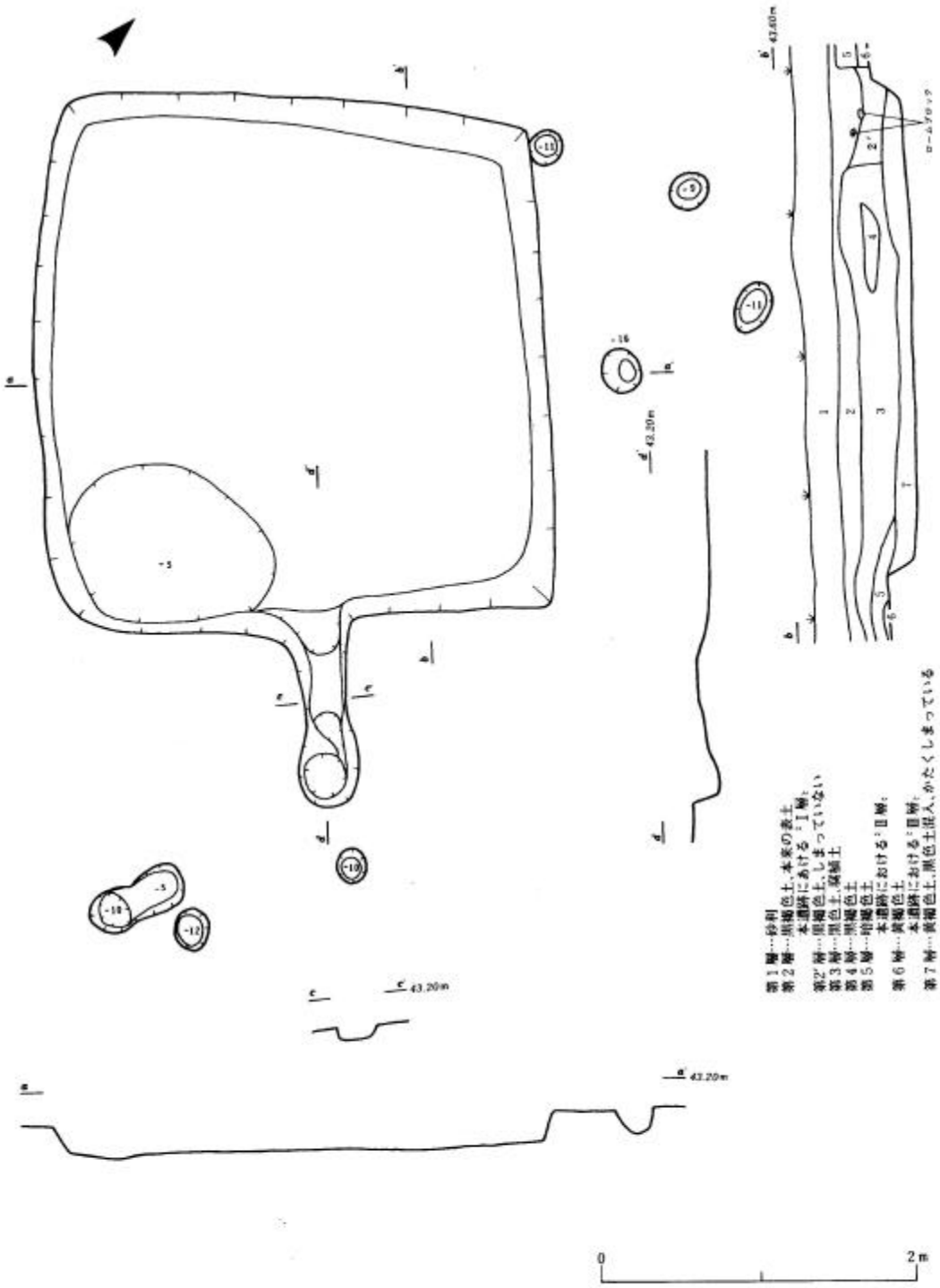

第1層…黒色土、腐植土
第2層…黒褐色土
第3層…暗褐色土
第4層…暗黄褐色土
第5層…褐色土
第6層…黄褐色土、粘性あり
第7層…明黄褐色土、ローム粒子混入
第8層…暗褐色土、かたくしまっている
第9層…明褐色土
43.20m
0
2m

第46図　1号住居跡

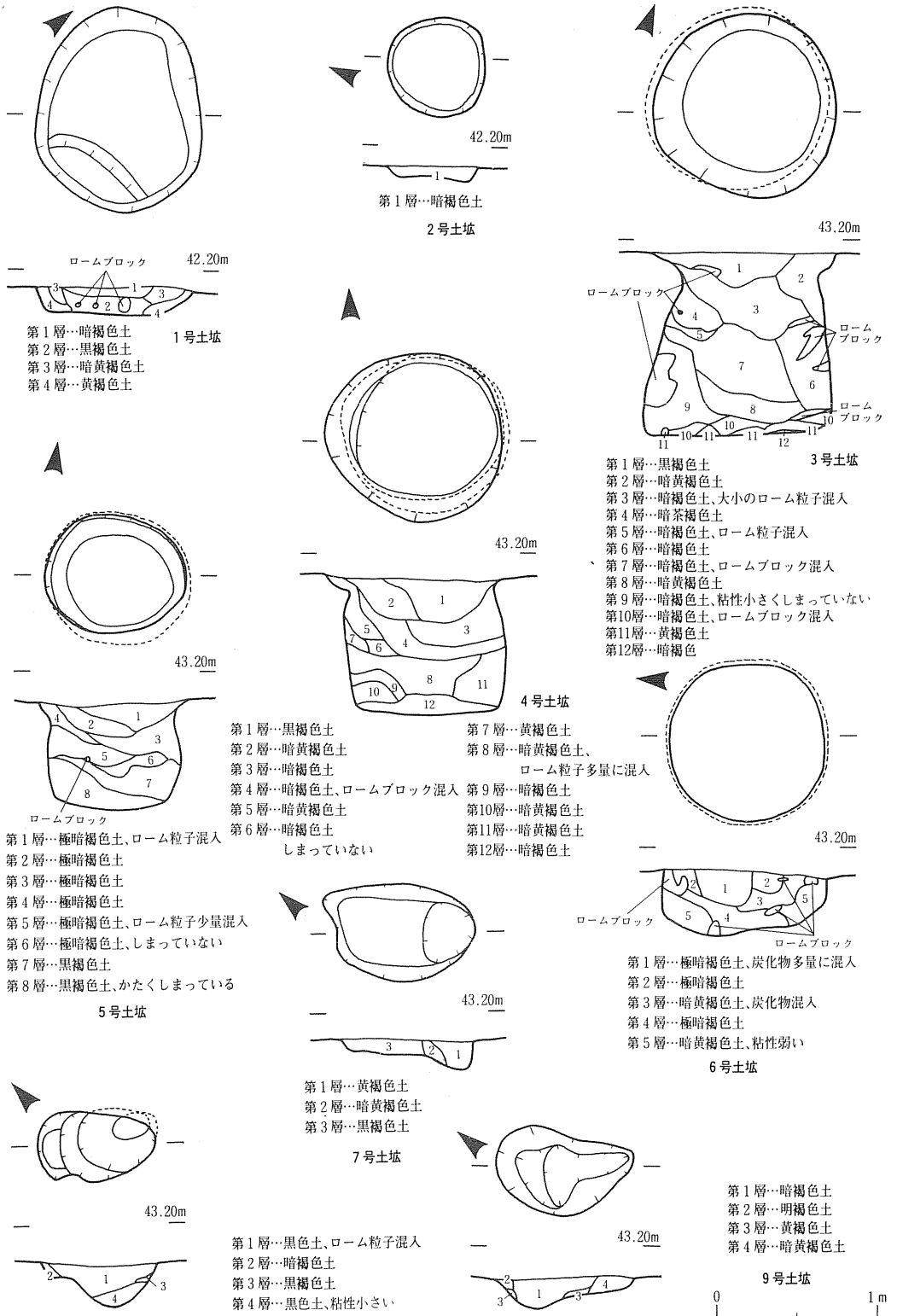


第1層…黒色土、腐植土
第2層…黒褐色土、腐植土
第3層…暗黄褐色土、炭化物・ローム粒子混入
第4層…暗褐色土、粘性小さい

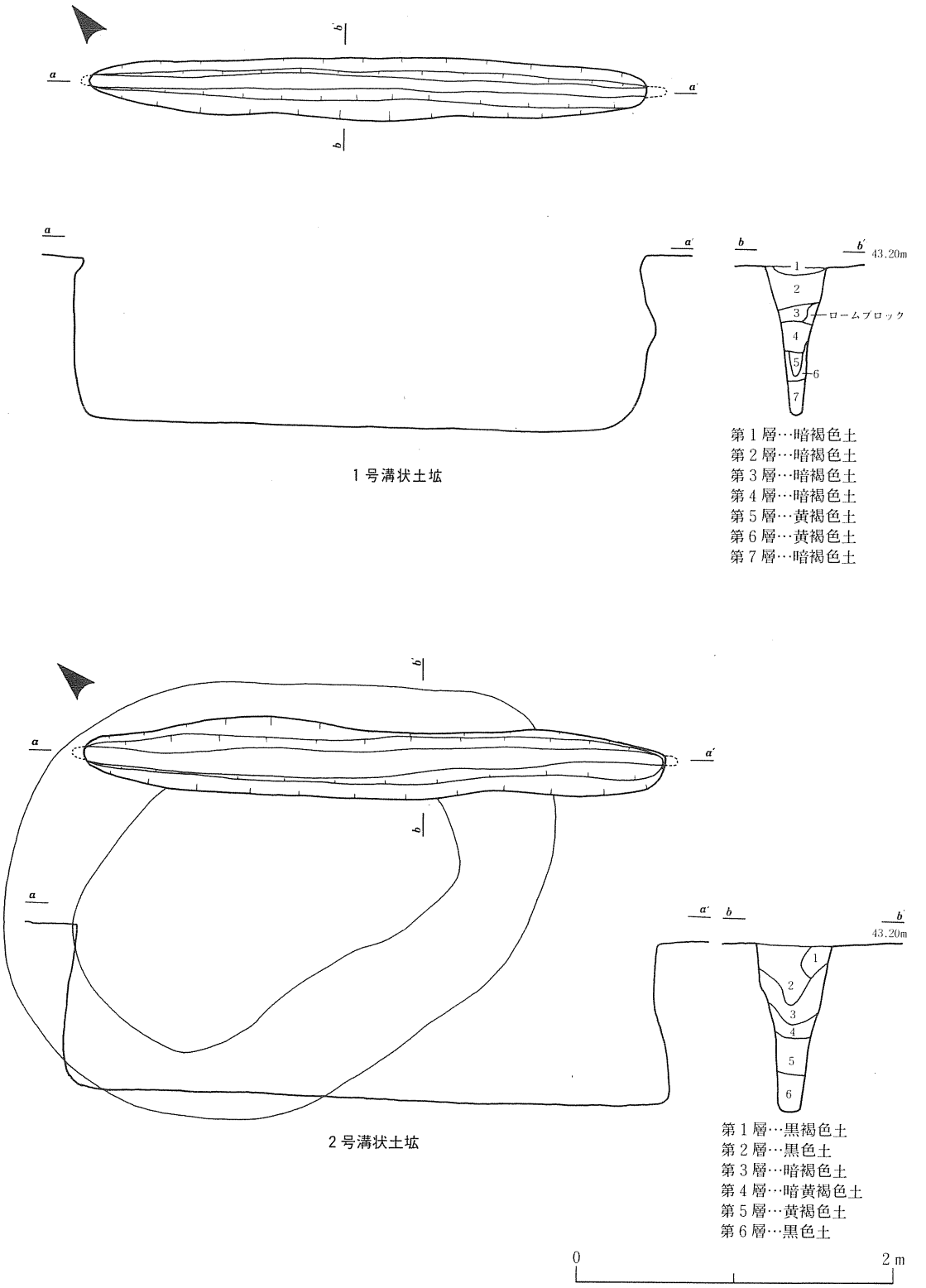
第47図　2号住居跡



第48図　3号住居跡


42.20m
ロームブロック
第1層…暗褐色土
第2層…黒褐色土
第3層…暗黄褐色土
第4層…黄褐色土
1号土坑
第1層…暗褐色土
2号土坑
43.20m
ロームブロック
ロームブロック
ロームブロック
第1層…黒褐色土
第2層…暗黄褐色土
第3層…暗褐色土、大小のローム粒子混入
第4層…暗茶褐色土
第5層…暗褐色土、ローム粒子混入
第6層…暗褐色土
第7層…暗褐色土、ロームブロック混入
第8層…暗黄褐色土
第9層…暗褐色土、粘性小さくしまっていない
第10層…暗褐色土、ロームブロック混入
第11層…黄褐色土
第12層…暗褐色
3号土坑
43.20m
第1層…黒褐色土
第2層…暗黄褐色土
第3層…暗褐色土
第4層…暗褐色土、ロームブロック混入
第5層…暗黄褐色土
第6層…暗褐色土
しまっていない
第7層…黄褐色土
第8層…暗黄褐色土、
ローム粒子多量に混入
第9層…暗褐色土
第10層…暗黄褐色土
第11層…暗黄褐色土
第12層…暗褐色土
4号土坑
43.20m
ロームブロック
第1層…極暗褐色土、ローム粒子混入
第2層…極暗褐色土
第3層…極暗褐色土
第4層…極暗褐色土
第5層…極暗褐色土、ローム粒子少量混入
第6層…極暗褐色土、しまっていない
第7層…黒褐色土
第8層…黒褐色土、かたくしまっている
5号土坑
43.20m
ロームブロック
ロームブロック
第1層…極暗褐色土、炭化物多量に混入
第2層…極暗褐色土
第3層…暗黄褐色土、炭化物混入
第4層…極暗褐色土
第5層…暗黄褐色土、粘性弱い
6号土坑
43.20m
第1層…黄褐色土
第2層…暗黄褐色土
第3層…黒褐色土
7号土坑
43.20m
第1層…黒色土、ローム粒子混入
第2層…暗褐色土
第3層…黒褐色土
第4層…黒色土、粘性小さい
8号土坑
43.20m
第1層…暗褐色土
第2層…明褐色土
第3層…黄褐色土
第4層…暗黄褐色土
9号土坑
0
1m

第49図　3地区土坑


a
a′
b
b′
43.20m
1
2
3
ロームブロック
4
5
6
7
1号溝状土坑
第1層…暗褐色土
第2層…暗褐色土
第3層…暗褐色土
第4層…暗褐色土
第5層…黄褐色土
第6層…黄褐色土
第7層…暗褐色土
2号溝状土坑
第1層…黒褐色土
第2層…黒色土
第3層…暗褐色土
第4層…暗黄褐色土
第5層…黄褐色土
第6層…黒色土
0
2m

第50図　溝状土坑

3号住居跡（第48図）

東側に他の2軒と少し離れて位置する竪穴住居跡で、1辺が3mの方形を呈する。主軸はN47°Wを示す。壁はしっかりと立ち上がり、床は若干起伏がみられるがかたくしまっている。ピットは住居跡内では検出できず、屋外のピットも柱穴としてはとらえ難い。カマドは、南東壁中央に構築されているが、やはり、そで、天井部は残存しない。また、南隅から少し中央寄りの埋土中に床面から少し浮いて、焼土や炭化物が顕著にみられる一隅があったが、床面で火を焚いた跡は確認できなかった。遺物は出土していない。

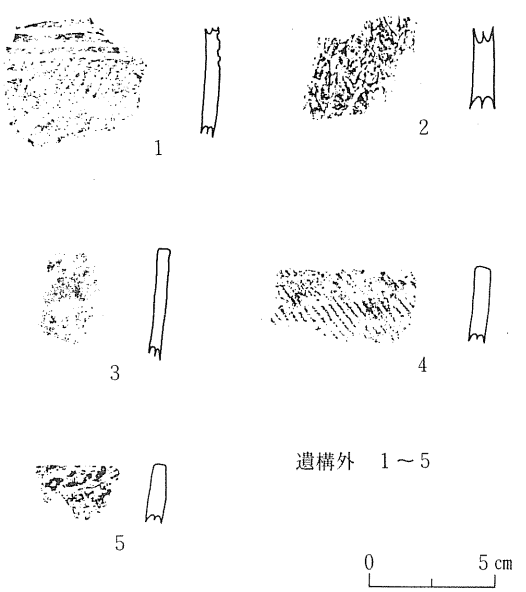
遺　　物

Ⅲ群土器（第51図1、2）

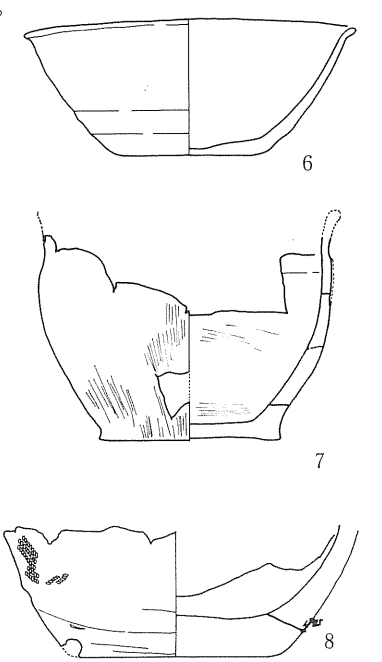
1は平行沈線文を施し、胴部はLR単節斜縄文（横位方向回転）である。2は網目状撚糸文の施文である。

平安時代の土器（第52図6、7）

6は赤褐色土器坏で、口径約13cm、器高約5.5cmを測る。底部切り離しは回転糸切り、無調整である。カマド支脚として使用されていた為に剝落が著しい。7は口縁部欠損の小形土師器甕で、推定口径12cm、推定器高9cmを測る。ロクロは使用されていない。口頸部に綾が作り出され、胴部がやや膨らむ。縦位方向にカキ目が施され、底部に木葉痕をもつ。



第51図　3地区出土土器



1号住居跡、カマド支脚　6
1号住居跡　7
トレンチⅤ　8

0　5cm

第52図　3地区出土土器

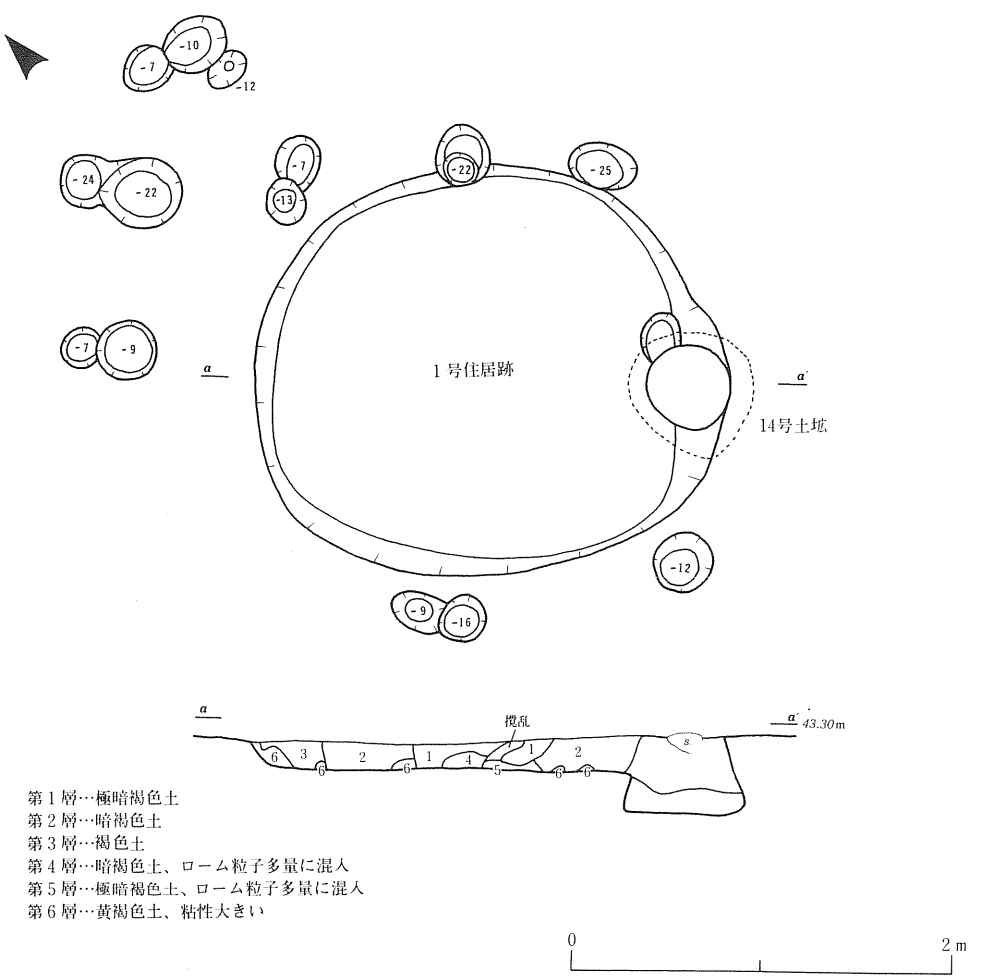
(4)　4地区

遺　　構

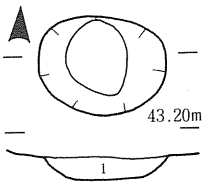
4地区の検出遺構は竪穴住居跡1軒、土坑14基、焼土遺構2ヶ所で、住居跡内、焼土遺構付近から遺物が出土し、土坑からの出土遺物はない。

1号住居跡（第53図）

北側の沢に面して構築された竪穴住居跡で、2.4m×2mのやや楕円形のプランを呈する。南側の壁を14号土坑によって切られている。長軸方向はN45°Wを示す。壁は緩く立ち上がり、床は平坦でしまっている。ピットは住居跡内部にはみられず、壁にそって外側に検出された。おそらく柱穴になるものと思われる。焼土は検出できなかった。

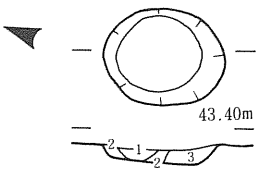


第53図　1号住居跡



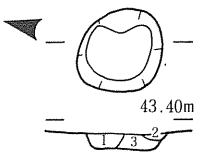
第１層…暗褐色土

9号土坑



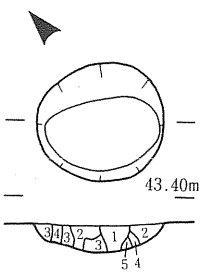
第１層…暗褐色土
第２層…黄褐色土
第３層…褐色土

10号土坑



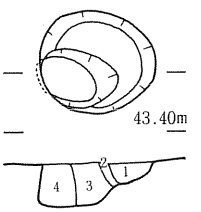
第１層…暗褐色土、ローム粒子混入
第２層…暗褐色土、ロームブロック混入
第３層…黄褐色土

11号土坑



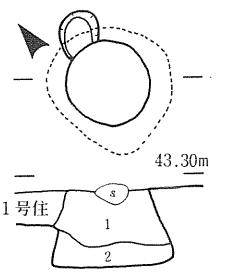
第１層…極暗褐色土
第２層…暗褐色土
第３層…暗黄褐色土
第４層…黄褐色土
第５層…明暗褐色土

12号土坑



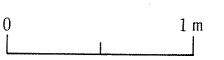
第１層…黄褐色土
第２層…暗褐色土
第３層…暗黄褐色土
第４層…暗黄褐色土、炭化物混入

13号土坑

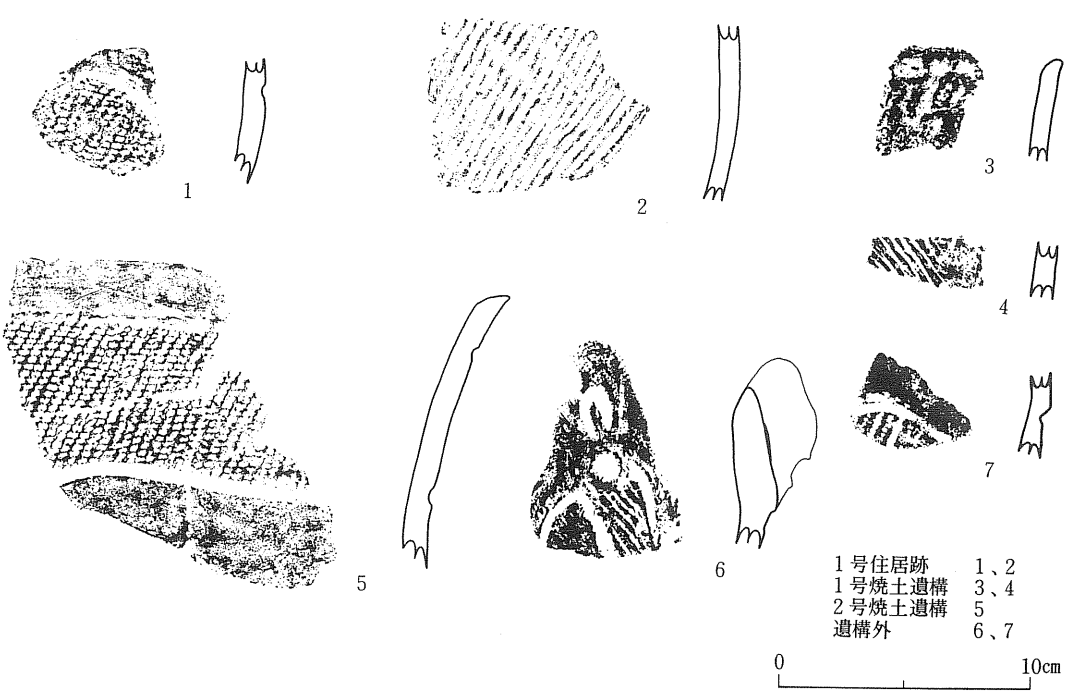


第１層…極暗褐色土、炭化物多量に混入
第２層…暗褐色土、ローム粒子混入

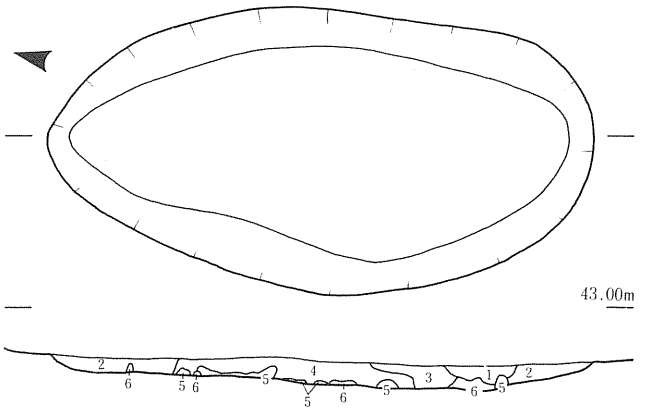
14号土坑



第55図　４地区土坑

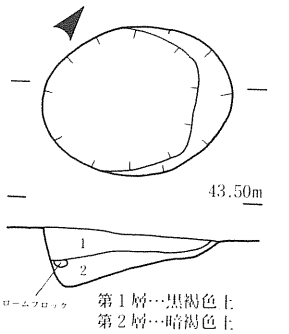


第56図　４地区出土土器



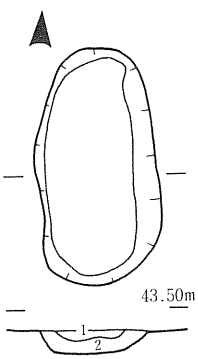
第１層…暗茶褐色土
第２層…暗黄褐色土
第３層…暗褐色土
第４層…黒褐色土
第５層…暗黄褐色土
第６層…黄褐色土

１号土坑



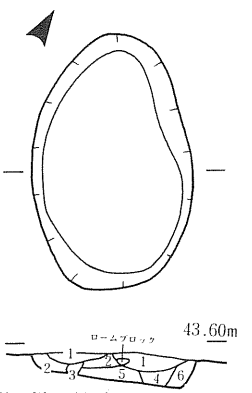
第１層…黒褐色土
第２層…暗褐色土

２号土坑



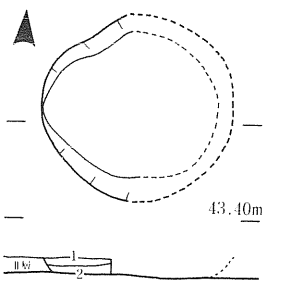
第１層…茶褐色土
第２層…黒褐色土

３号土坑



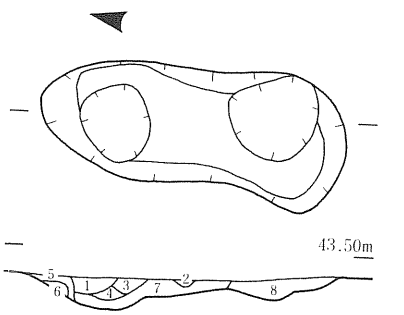
第１層…暗褐色土
第２層…黄褐色土
第３層…明褐色土
第４層…黒褐色土
第５層…黄褐色土
第６層…黄褐色土、しまっていない

４号土坑



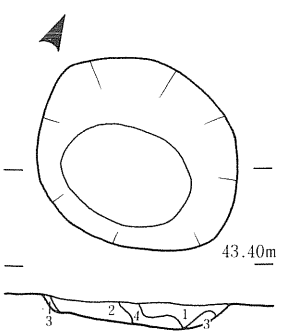
第１層…暗褐色土、炭化物混入
第２層…暗黄褐色土

５号土坑



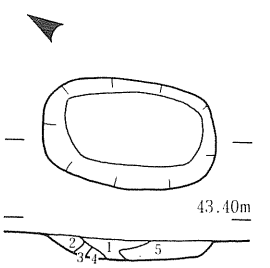
第１層…暗黄褐色土
第２層…明褐色土
第３層…黒褐色土
第４層…暗褐色土、パサパサしている
第５層…明黄褐色土
第６層…暗褐色土、粘性大きい
第７層…黄褐色土
第８層…明褐色土

６号土坑



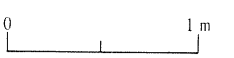
第１層…黒褐色土
第２層…暗褐色土
第３層…黄褐色土、粘性大きい
第４層…黄褐色土

７号土坑

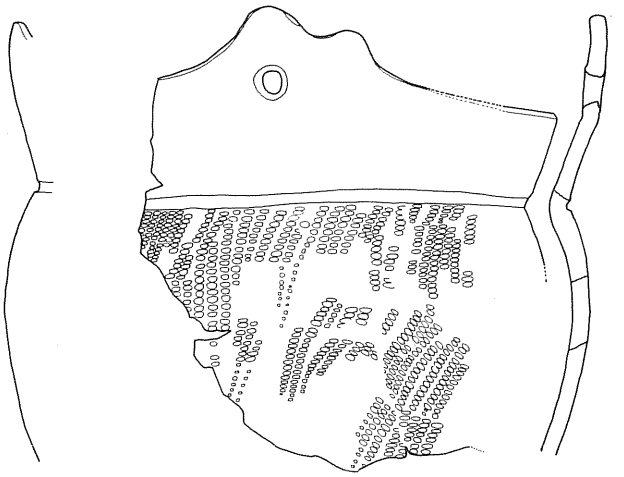


第１層…暗褐色土
第２層…暗黄褐色土
第３層…黄褐色土
第４層…暗褐色土、かたくしまっている。
第５層…黄褐色土、粘性大きい

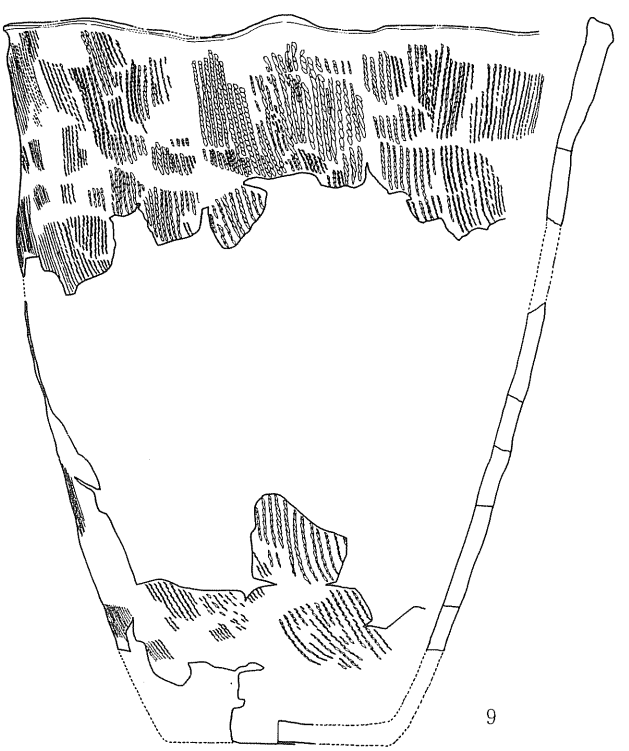
８号土坑



第54図　４地区土坑



8



9

遺構外出土　8、9

0　5cm

第57図　4地区出土土器

遺　物

Ⅱ群土器（第56図1、2、5、7）

縄文を施文した後に、沈線で区画して磨消しているものである。2はＲＬ単節斜縄文（横位方向回転）、他はＲＬ単節斜縄文（縦位方向回転）である。

Ⅲ群土器（第56図6、第57図8、9）

6は把手部である。沈線及び円文が旋され、幾何学的な文様構成となるものであろう。地文は撚糸文の施文である。

9は口径約24cm、推定器高約29cmを測る。3個の小突起をもち、地文は全面に撚糸文を施文する。

石器、石製品

石鏃（第58図１～４）

有茎、無茎のものがあり、３の基部両面にアスファルト状の付着物がみられる。

石匙（第58図５～12）

縦型のものが多い、12は横型で、つまみ部にアスファルト状の付着物がみられる。11は両面加工が施され、つまみ部も大きく、石匙に分類されるかはっきりしない。

石槍（第58図14～16）

断面の厚いもの薄いものがあり、14、15はポイントである。

ヘラ状石器（第58図13、17～21、第59図22～29）

片面、両面加工のものと、両面加工の中には主要剝離面の側縁部に加工するものなどがある。片面加工のものは掻器、削器としての機能が考えられる（17、25）。

磨製石斧（第59図30～33）

欠損品が多い。30は刃部の一部が欠損するが、ほぼ完形である。

石錘（第60図34、35）

34は河原石の両端を打ち欠いたもので、35は一端を大きく打ち欠き、一端は自然の凹部を利用したものである。

凹石（第60図36～41）

39は両面に、他は片面に１～３の凹部をもつ。

磨石・敲石（第60図42～47、第61図48～51）

河原石を利用したもので、石の表裏面は磨滅し、側面は敲打痕のあるものが多い。

石皿状石器（第60図52～55）

全て欠損しているが、磨石、敲石と対で使用されたものと思われる。中央部は磨滅し、くぼんでいる。石皿的機能が考えられる。

石皿（第62図56）

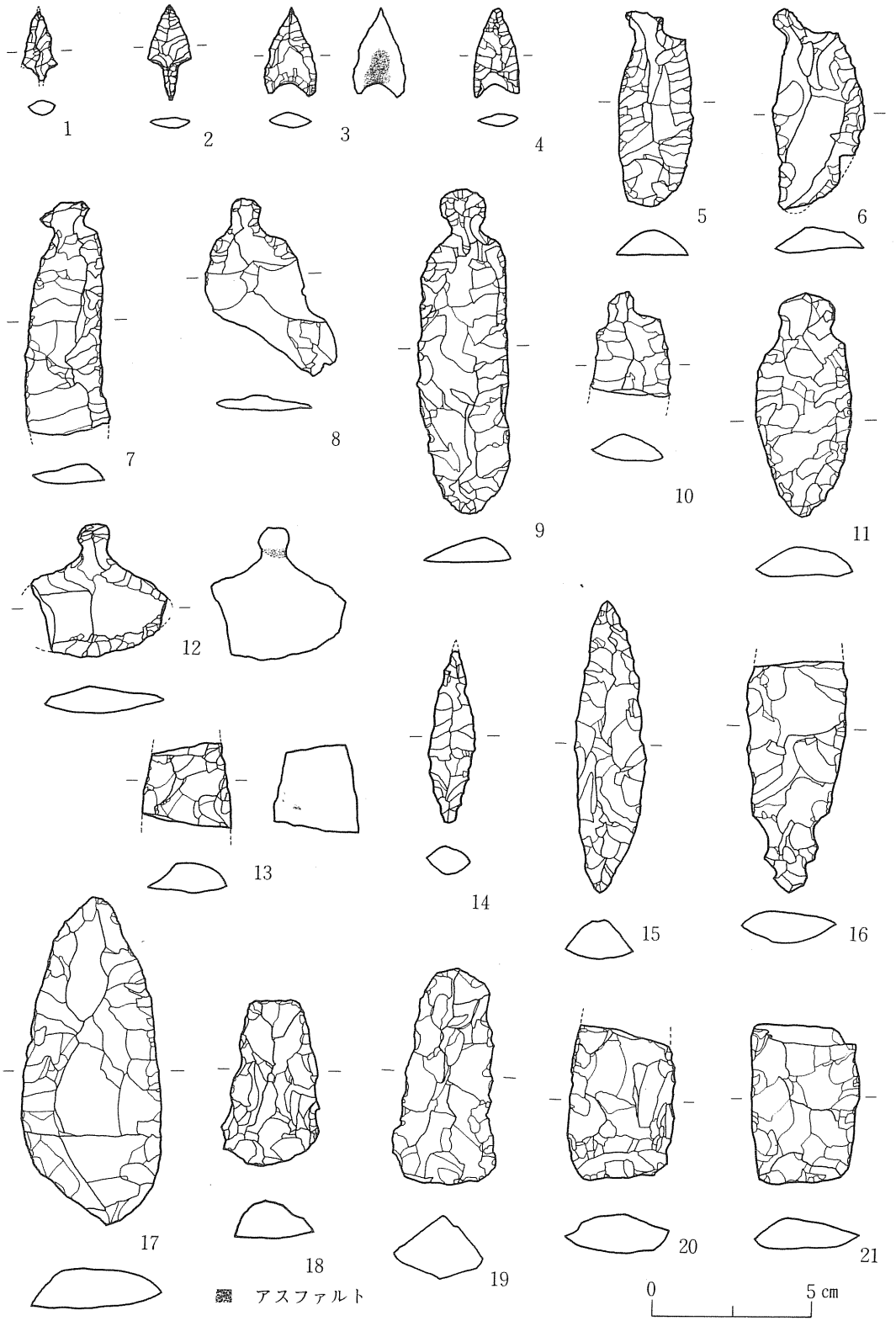
欠損品であるが、縁取りのあるしっかりしたものである。

その他の石器（第62図57）

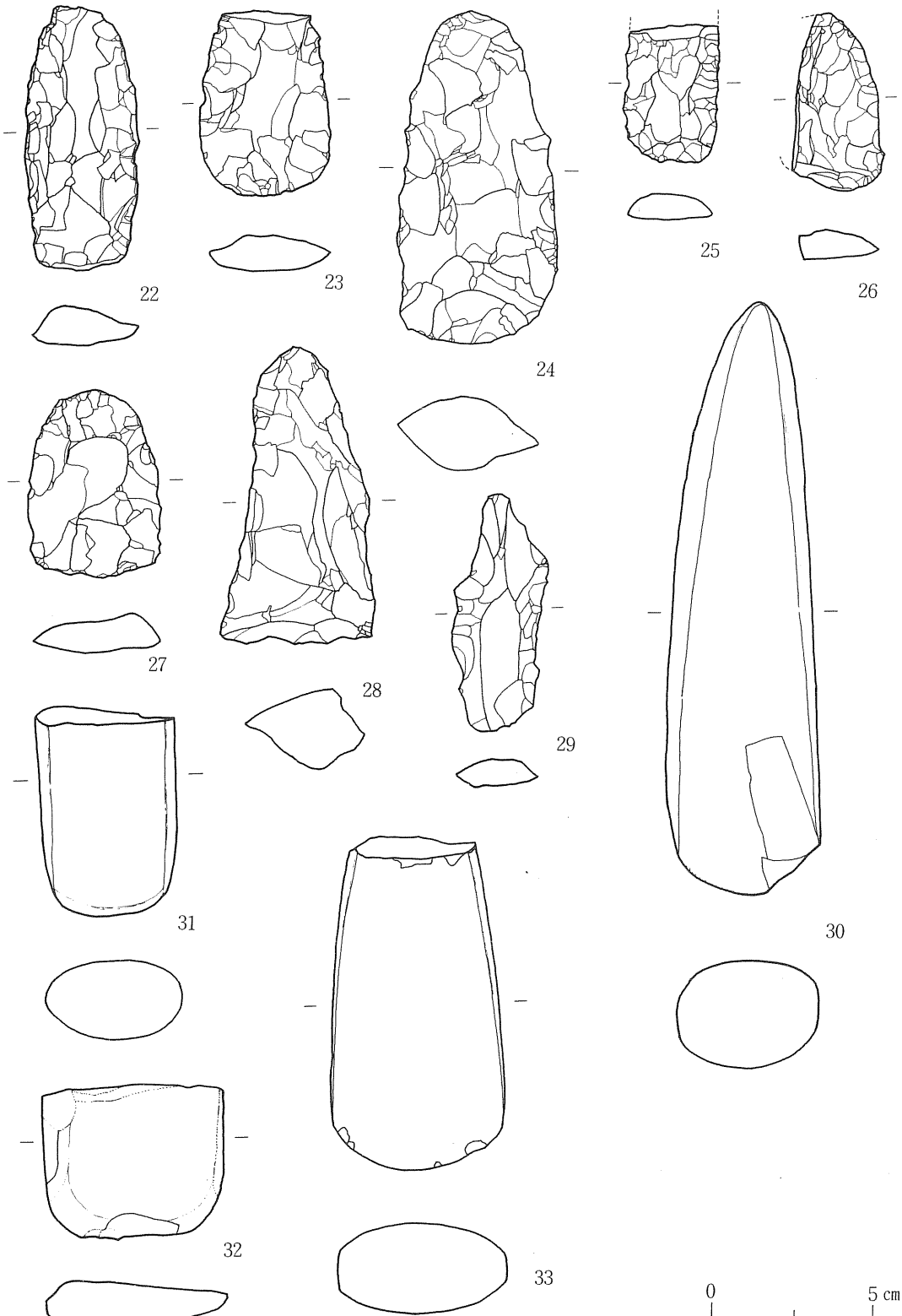
両面及び側面を磨ってある石器で、扁平のものである。

石製品（第62図58、59）

58は緑色凝灰岩製の柔らかいもので両面から孔を穿っているが、貫通はしていない。59は表採の勾玉で両面から穿孔され、全体に研磨され光沢がある。メノウ質のものである。

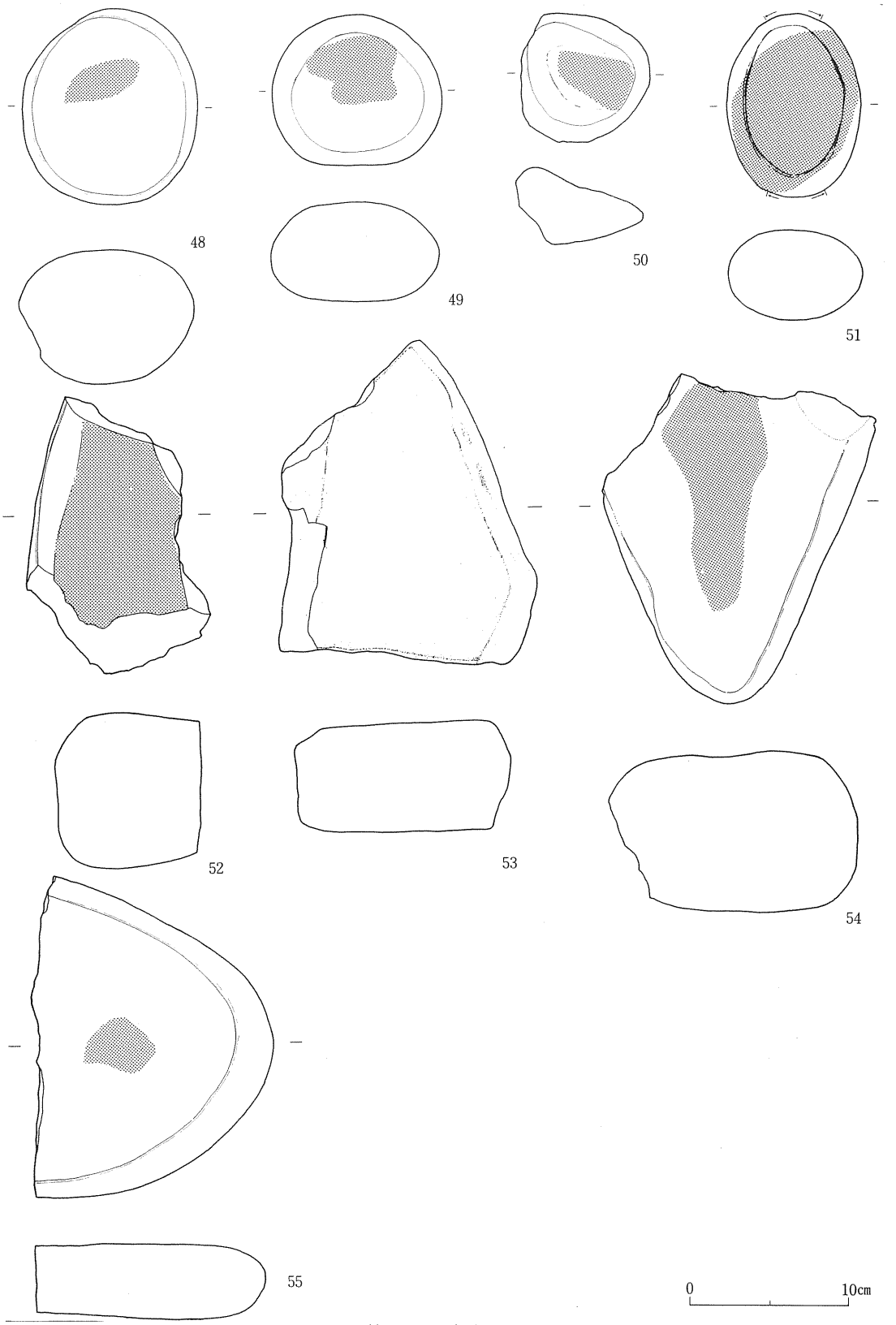


第58図　出土石器

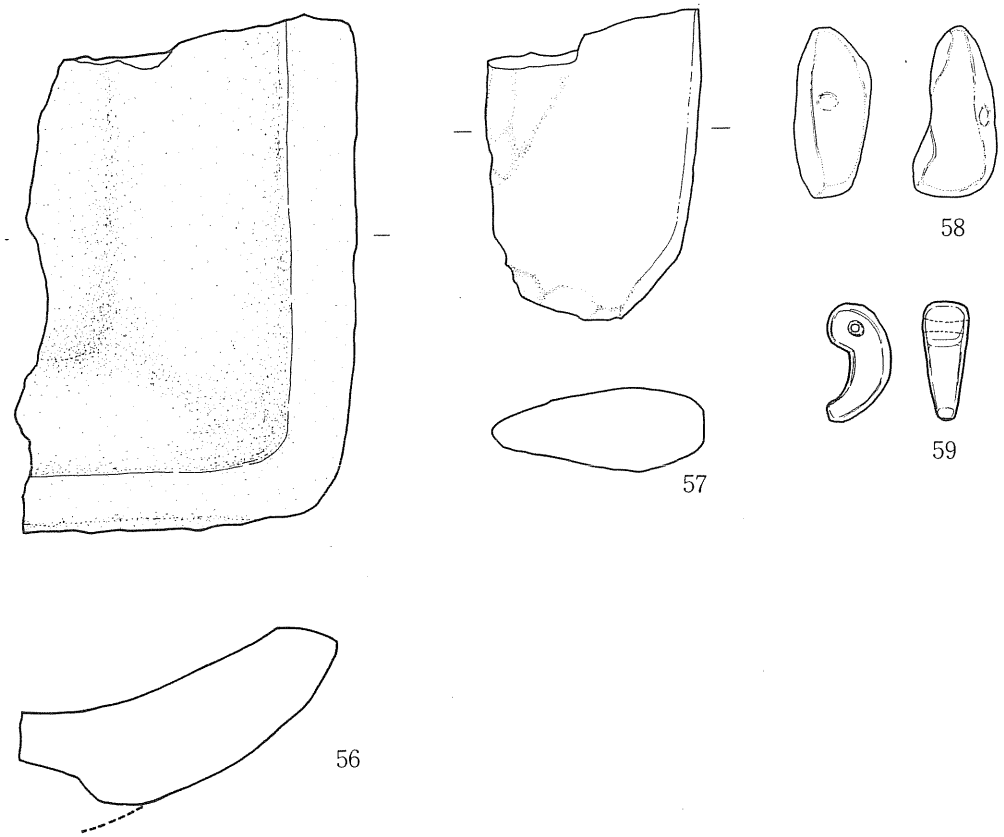


第59図　出土土器

第60図　出土石器



第61図　出土石器



第62図　出土石器、石製品

縄文時代石器一覧表

番号	器種	調査区	出土地点	番号	器種	調査区	出土地点
1	石鏃	1	遺構外	31	磨製石斧	1	1号住居跡
2	石鏃	2	遺構外	32	磨製石斧	4	遺構外
3	石鏃	2	8号土坑	33	磨製石斧	1	遺構外
4	石鏃	2	遺構外	34	石錘	2	33号土坑
5	石匙	1	遺構外	35	石錘	2	2号住居跡
6	石匙	1	遺構外	36	凹石	1	遺構外
7	石匙	1	遺構外	37	凹石	2	5号土坑
8	石匙	1	10号焼土遺構	38	凹石	3	遺構外
9	石匙	2	1号住居跡	39	凹石	2	遺構外
10	石匙	2	遺構外	40	凹石	2	遺構外
11	石匙	2	89号ピット	41	凹石	3	遺構外
12	石匙	2	15号土坑	42	磨石・敲石	2	2号住居跡
13	ヘラ状石器	1	1号住居跡	43	磨石・敲石	1	遺構外
14	石槍	1	遺構外	44	磨石・敲石	1	遺構外
15	石槍	2	遺構外	45	磨石・敲石	1	遺構外
16	石槍	2	遺構外	46	磨石・敲石	2	2号住居跡
17	ヘラ状石器	1	遺構外	47	磨石・敲石	2	3号住居跡
18	ヘラ状石器	1	遺構外	48	磨石・敲石	2	5号土坑
19	ヘラ状石器	1	遺構外	49	磨石・敲石	2	6号土坑
20	ヘラ状石器	1	遺構外	50	磨石・敲石	2	遺構外
21	ヘラ状石器	1	遺構外	51	磨石・敲石	3	遺構外
22	ヘラ状石器	1	遺構外	52	石皿状石器	1	5号土坑
23	ヘラ状石器	1	遺構外	53	石皿状石器	2	31号土坑
24	ヘラ状石器	1	遺構外	54	石皿状石器	2	35号土坑
25	ヘラ状石器	2	4号ピット	55	石皿状石器	4	13号土坑
26	ヘラ状石器	2	遺構外	56	石皿	4	遺構外
27	ヘラ状石器	2	8号土坑	57	その他の石器	4	遺構外
28	ヘラ状石器	2	遺構外	58	石製品	3	トレンチV
29	ヘラ状石器	4	遺構外	59	勾玉	2	遺構外
30	磨製石斧	1	遺構外				

第Ⅴ章　ま　と　め

遺構

1地区で検出された遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑6基、焼土遺構16ヶ所である。これらの遺構の中で時期の明らかなものは5号土坑で、出土遺物から縄文時代後期のものである。その他の遺構からは時期の判別できる遺物は出土していない。1号住居跡は、しっかりした作りの住居跡で柱穴の深さに差がみられるが規則的に並ぶと考えられる（第11図）。

2地区で検出された遺構は、竪穴住居跡4軒、土坑61基（袋状土坑10基）、溝状土坑2基、焼土遺構8ヶ所である。1号、2号、4号住居跡は楕円形のプランを呈するもので、（3号住居跡は1号住居跡との重複でプランは不明）不確定な遺物出土状態（攪乱等による）で断言はできないが、周辺の遺構等のあり方から縄文時代前期の住居跡と考えられる。ただ、住居跡内に炉はなく、点在する焼土遺構（3号、4号、7号、8号）等の関連や、袋状土坑との配置については、はっきりしない。土坑とした中で、底径が口径より大きく壁が外側へ掘り込まれている形のいわゆる袋状を呈するものが10基検出されている（第21図～第29図）。特に本遺跡における形態的な特徴として、口縁部が広くテラス部が大きい事、口頸部が広く短かいつまり頸部のくびれがあまり顕著でない事などがあげられる。また口縁部の広さの割にあまり深くはなく、1mを越えるものは39号土坑1基のみである。また上屋構築を考える上で重要なきめ手となっている周縁部のピットのあるものが6基（2号、8号、16号、27号、33号、39号）検出されている。しかし、配例はあまりよいとはいえない。埋土についてほぼ共通してみられる特徴は、底面周辺の壁ぎわに黄褐色土の堆積があり、これは人為的な土器の廃棄の認められる39号土坑を除いては、量の多少にかかわらず類似している点である。おそらく、頸部のくびれ部や胴部周壁のロームが剝落したものと思われる。8号土坑では、こうした黄褐色土の上に焼土が流れ込み土層中程に堆積している。埋土全体にも焼土や炭化物の混入が多くみられ、底面直上にもわずかながら堆積する。焼土が埋土中に堆積しているものとして他に45号土坑があげられる。焼土はみられないものの、炭化物の混入が顕著なものでは、39号土坑があり、胴下半部や投棄された土器の中にも多量の炭化物が認められた。比較的多量の遺物が出土している袋状土坑は、6号、8号、39号があげられるがすべて埋土からである。6号土坑では晩期の土器片が、8号土坑は前期の土器片が上層から中間にかけて出土し、このうちの1片は6号焼土遺構周辺から出土した土器と接合できた。39号土坑の場合は、埋土の堆積状態もそうであるが他の袋状土坑と多少異なり、上層からの前期土器片の他に人為的に廃棄された土層の上に2個体、同時に棄てられ壁ぎわに転がり落ちたとみられる土器が1個体、合計3個体の土器が出土している。このうち、土坑断面図左側の土器（第41図）の中には灰白色の粘土が口縁部にまでつまっていた。これは廃棄する時すでに土

器の中につめられていたものと思われる。

また位置的にはこの39号土坑が、住居跡の可能性の高い8号焼土遺構のすぐ北東に、45号土坑が4号住居跡内にあるものの、本遺跡においては、明確に住居跡との関連が考えられる袋状土坑はみられない。

溝状土坑は2地区、3地区で2基づつ確認された、いわゆるTピットと呼ばれるもので、縄文時代中期の土器片を出土した2地区1号を除いて長軸方向はN40°～60°Wである。

3地区で検出された遺構は、竪穴住居跡3軒、土坑9基、溝状土坑2基である。出土遺物のあるのは1号住居跡のみで、しかも、いわゆる赤褐色土器といわれる坏と土師器甕で、住居跡の年代は明確でない。下堤C遺跡で確認された住居跡と比較すると、方向、規模、カマドの位置、柱穴のあり方等、共通性があり、下堤C遺跡と3地区は距離的に近く、関連性をうかがわせる。下堤C遺跡は出土遺物から9世紀後半頃とされ、3地区は10世紀以降と考えられる。住居跡の広がりを確認するため東側に5本のトレンチを設定し調査したが検出されなかった。

下堤D遺跡の周辺遺跡編年表

旧石器時代	下堤D遺跡	
縄文時代	草創期 早期	
	前期	坂ノ上B遺跡 下堤D遺跡
	中期	下堤A遺跡 下堤B遺跡
	後期	坂ノ上A遺跡 坂ノ下遺跡（小阿地23遺跡）
	晩期	地方遺跡 下堤D遺跡
弥生時代	地蔵田遺跡（地蔵台遺跡）	
古代	小阿地古墳群 下堤C遺跡 下堤D遺跡	

4地区で検出された遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑14基、焼土遺構2ヶ所である。住居跡は小さく楕円形を呈し、炉はない。出土遺物から縄文時代中期末葉（大木10式期）のもので、下堤B遺跡（縄文中期末）の住居跡のように小形である。

以上のように、下堤D遺跡は平坦な広い台地の割りに住居跡が少なく、台地を利用した時代は旧石器時代、縄文時代（前期～晩期）、平安時代であり、各々、占居する場所は異なっている他、短期間で台地の利用を終っている。このことは、標高約40m前後の末戸台台地の中にそれぞれ、中心的（本拠地）遺跡の存在を想定できるものである。

自然的環境なども含め、居住地選定の問題等と関連するものであろう。

遺　物

Ⅰ群土器について

Ⅰ群の土器は、縄文時代前期末葉から中期の過渡期の土器である。これらを大別してａ類～ｆ類に分けた。

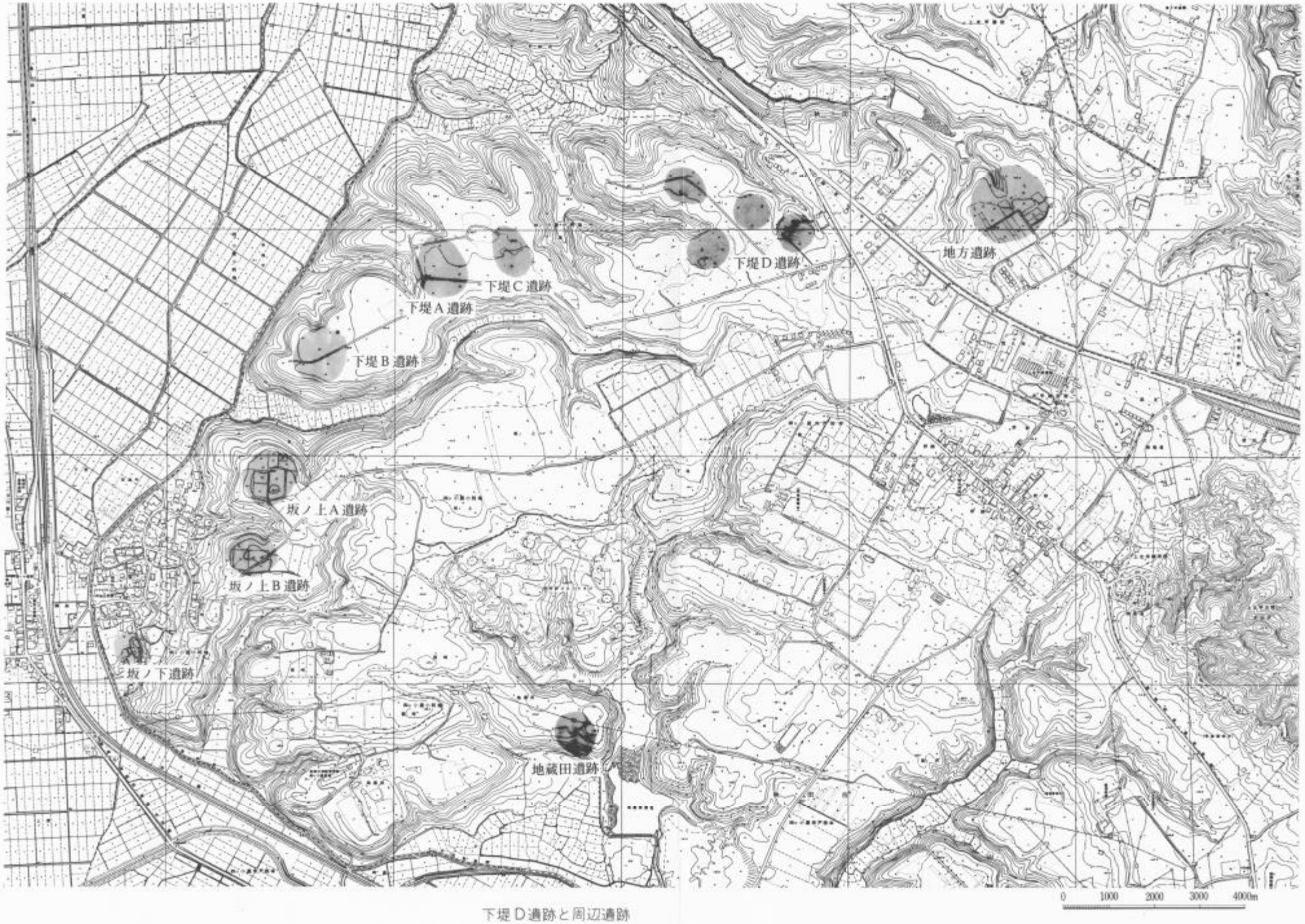
ａ類　細い粘土紐貼り付けによる細隆線文で施文するもの。
ｂ類　細隆線文＋半截竹管状工具による爪形文（ｃ型爪形文）を施すもの。
ｃ類　半截竹管状工具内面で、沈線文を施文するもの。
ｄ類　口唇、縁部に撚糸圧痕、単軸絡体圧痕などを施文するもの。
ｅ類　半截竹管状工具内面を押し引いた、半隆起線文で文様構成するもの。
ｆ類　ａ～ｅ類以外の土器。

これらの土器は層位的に調査することはできなかったが、２地区８号土拡（袋状土拡）から第40図194～196、39号土拡（袋状土拡）から第41図197、第42図198、第43図199、第６号焼土遺構から第43図202、第44図203、204の土器がそれぞれ共伴出土している。ａ類、ｂ類は大木６式のいわゆる吹浦式土器の範疇に入る土器群であるが、202、204の器形は異なるものである。ｄ類は円筒下層ｄ式期の一群である。ｅ類は石川、富山県方面に見られる土器群で、新保、新崎式といわれるものである。ｆ類は融合型式の土器群であり、問題のある土器群といえる。197の深鉢形土器は、口縁が外反し、胴部がやや膨らみ、底部に自然にしぼむもので、口縁部施文は半隆起線、半截竹管状工具による爪形文で北陸地方に多く見られる文様構成である。胴部は円筒下層式の木目状撚糸文施文である。195についても器形は円筒深鉢形で、口縁部の文様構成は北陸的であり、194は、口縁部に連続刺突文、単軸絡状体圧痕文、単節縄文の圧痕文が施文され、199を除いては、いずれも頸部の隆帯を境に文様帯が分かれる。

秋田県内で北陸系の土器が出土している遺跡は、小坂町「二夕渡北方遺跡」、能代市「上ノ山遺跡」※、八竜町「萱刈沢貝塚」、若美町「中角境遺跡」、男鹿市「大畑台遺跡」、秋田市「下堤Ａ遺跡」、「坂ノ上Ａ遺跡」、本荘市「船岡台遺跡」※、「菖蒲崎」※などがあげられる。これらは縄文時代前期後葉～後期前葉の時期の遺跡であり、日本海沿岸を南下し始める円筒下層ｄ式～上層式土器を伴出する例が多い。北陸系の土器群が出土する時期は、縄文前期後葉～中期中葉までと考えられる（これは馬高式に伴う、三角形土製品の出土時期と一致すると考えられる。）。円筒土器文化と大木土器文は、秋田市、田沢湖、宮古を結ぶラインを境にするという基本的な考え方を認め、特に秋田市を中心とする中央部においては、円筒、大木、北陸系の土器文化が雑居していた地域と言えるし、下堤Ｄ遺跡は縄文時代前期～中期の過渡期の様相を示し、文化圏の多様な動きを提起している。北陸系の土器文化については、石川、富山、新潟、山形各県の日本海側にその範囲が認められる。土器文化の範囲は自然的条件に左右される事も見逃せないであろう。

資料不足なこと、分類の方法も臨時的であり、異論もあると思われる。今後、資料の増加を待ち、検討する必要を痛感する。

※富樫泰時氏の御教示による。


下堤C遺跡
下堤A遺跡
下堤B遺跡
下堤D遺跡
地方遺跡
坂ノ上A遺跡
坂ノ上B遺跡
坂ノ下遺跡
地蔵田遺跡
0 1000 2000 3000 4000m

下堤D遺跡と周辺遺跡

参　考　文　献

秋田県教育委員会：「片符沢遺跡Ⅰ発掘調査報告書」　秋田県文化財調査報告書第72集　1980

秋田市教育委員会：「小阿地下堤遺跡/坂ノ上遺跡発掘調査報告書」　1976

秋田市教育委員会：「上新城中学校遺跡発掘調査報告書」　1980

麻生　優　加藤晋平　藤本強他：「日本の旧石器文化　1総論編」　雄山閣　1975

麻生　優　加藤晋平　藤本強他：「日本の旧石器文化　2遺跡と遺物〈上〉」　雄山閣　1975

安保　彰　　：「小坂のあけぼの」　1975

岩手県陸前高田市教育委員会：「門前貝塚」　1974

江坂輝弥　　：「石神遺跡」　ニュー・サイエンス社　1970

小笠原好彦　　：「東北地方南部における前期末から中期初頭の縄文式土器」　仙台湾周辺の考古学的研究　宮城教育大学歴史研究会　1968

小林達雄　　：「日本の美術　第145号　縄文土器」　至文社　1978

小林達雄　　：「多摩ニュータウンの先住者―主として縄文時代のセトルメント・システムについて」　月刊文化財　1973

協和町教育委員会：「米ヶ森遺跡発掘調査報告書」　1977

荘内古文化研究会：「吹浦遺跡発掘調査報告」　1954

芹沢長介　坪井清足他：「縄文土器大成　第1巻早・前期」　講談社　1982

芹沢長介　坪井清足他：「縄文土器大成　第2巻中期」　講談社　1981

谷口重光　安田忠市：「中角境遺跡発見遺構の破壊と遺物について」　環状第4号　秋田県埋蔵文化財保護サークル「環状」　1982

富山県　　：「富山県史　考古編」　1972

滑川市教育委員会：「安田古宮遺跡発掘調査報告書」　1978

日本鉱業株式会社船川製油所：「大畑台遺跡発掘調査報告書」　1979

八竜町教育委員会：「萱刈沢貝塚」　1979

本荘市教育委員会：「遺跡発掘調査報告書　神沢海岸遺跡　船岡台遺跡」　1971

宮城県教育委員会：「長根貝塚」　宮城県文化財調査報告書第19集

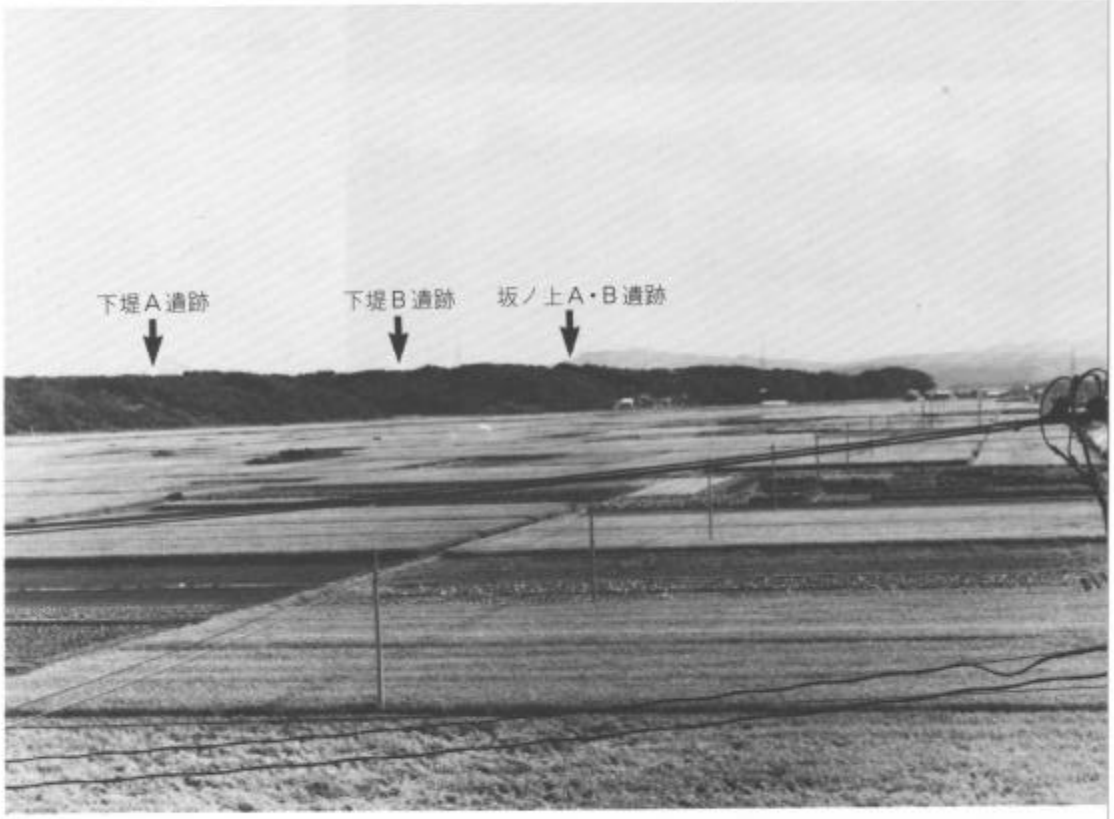
財団法人宮城縣史刊行会：「宮城縣史34（資料篇11）」　1981

武蔵野美術大学考古学研究会：「宮の原貝塚」　1972

山形県教育委員会
山形県埋蔵文化財調査団　：「郷の沢J遺跡」　1981

山内清男　　：「日本先史土器の縄文」　先史考古学会　1979

図　　版



図版1　遺跡遠景

1地区（南から）

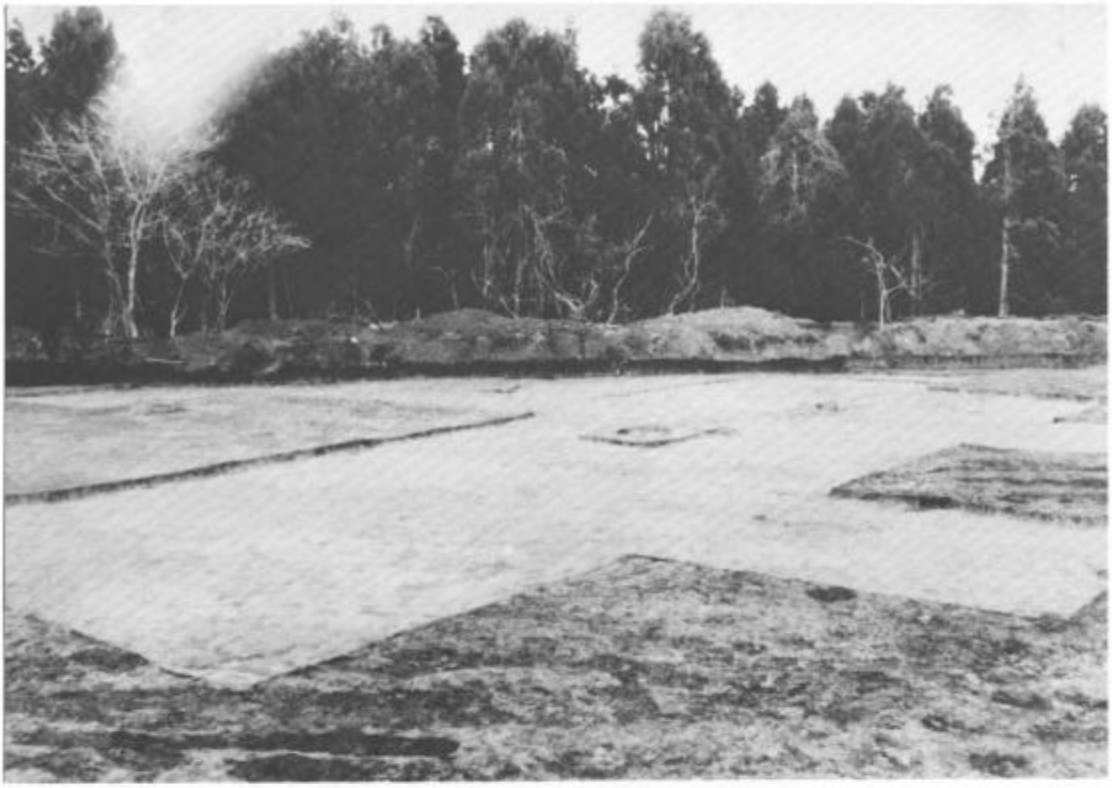
2地区（南から）

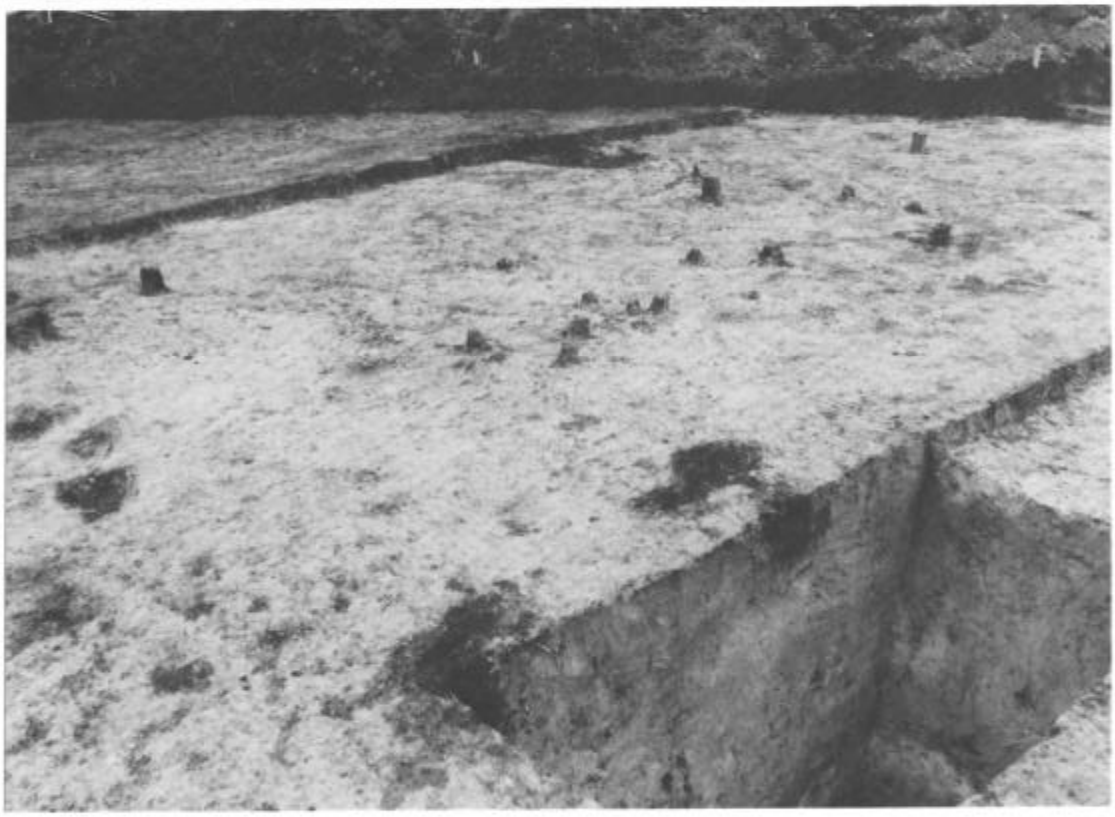
3地区（南から）

4地区（東から）

図版 2　調査前

図版 3　1 地区 上　全景（南から）
下　（南東から）





図版 4　1 地区 上　（南西から）
下　旧石器時代の遺物出土状態（南西から）

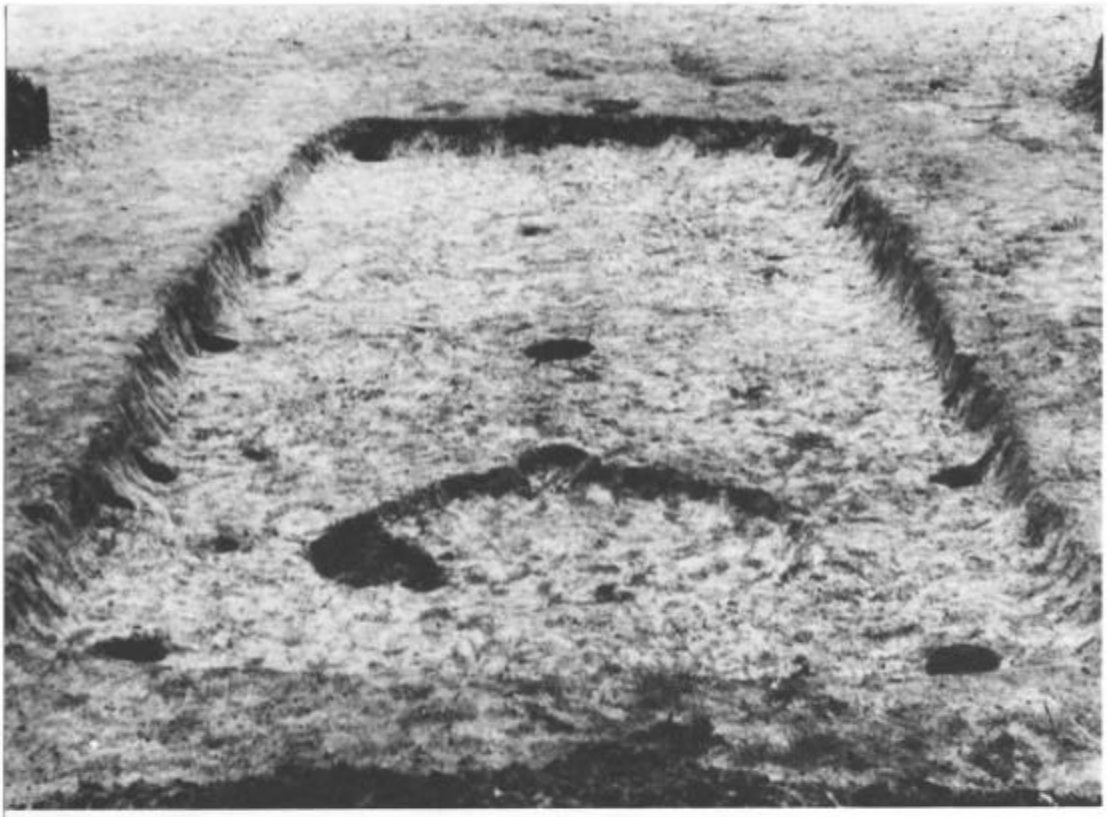
旧石器時代の遺物出土状態
（西から）

土層状態

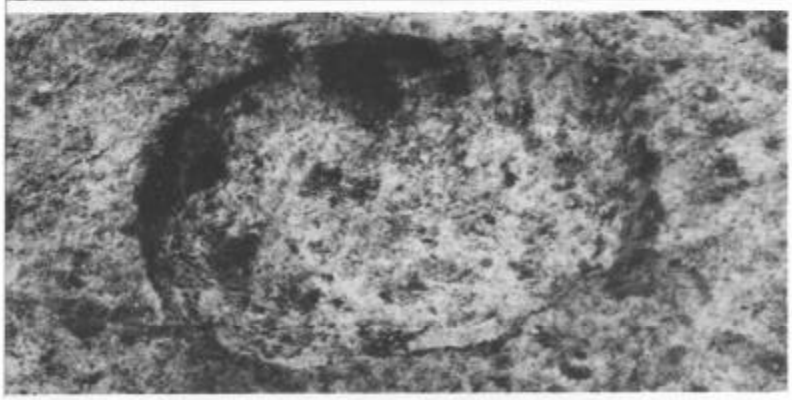
細石刃出土状態

東側沢部
焼土・炭化物

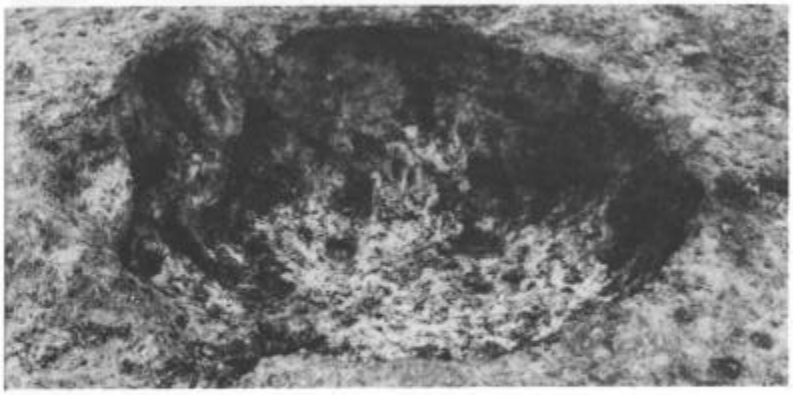
図版 5　1 地区



1号住居跡、6号土坑
（北から）



1号土坑（南から）



2号土坑（南から）

図版6　1地区

3号土坑
(南から)

5号土坑(南から)

5号土坑土層断面
(南から)

6号土坑(西から)

遺物出土状態

図版7　1地区

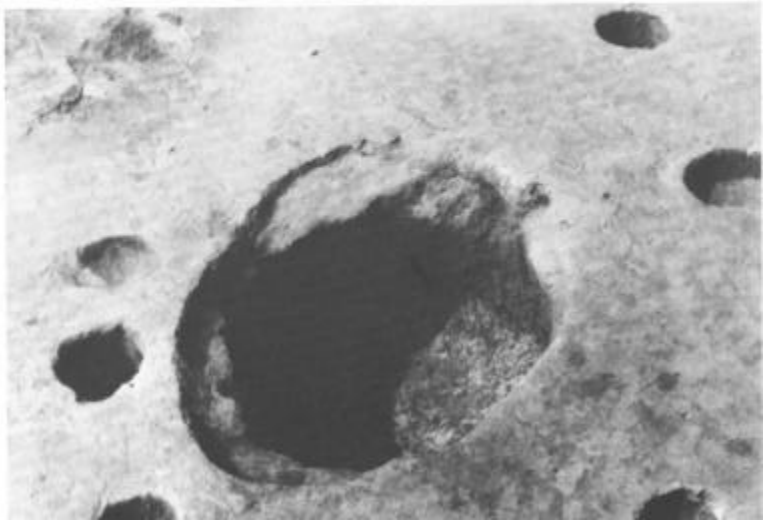
図版 8　2 地区全景 上　（南から）
下　（西から）

図版 9　2 地区 上　1 号住居跡（南から）
下　1 号住居跡周辺（南から）

図版10　2地区 上　2号住居跡（西から）
下　2号住居跡周辺（北から）

4号住居跡
46号土坑
45号土坑
(南から)

57号土坑
1号土坑
(南から)

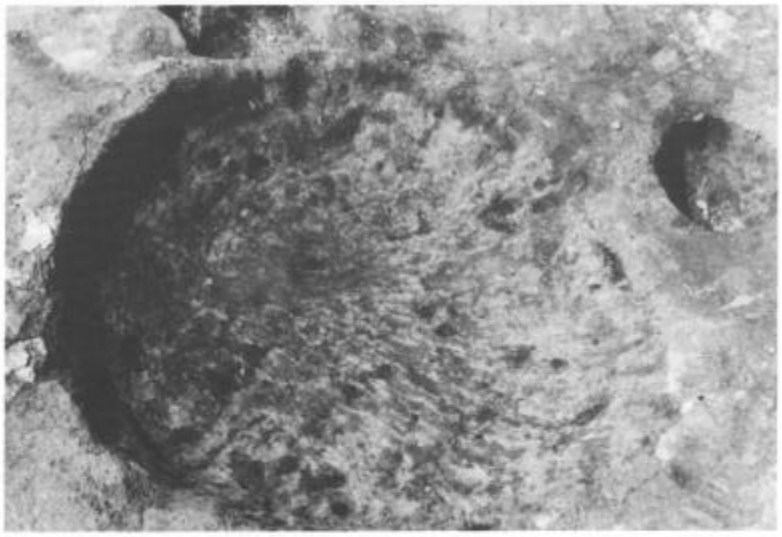


図版11　2地区

2号土坑
(南から)

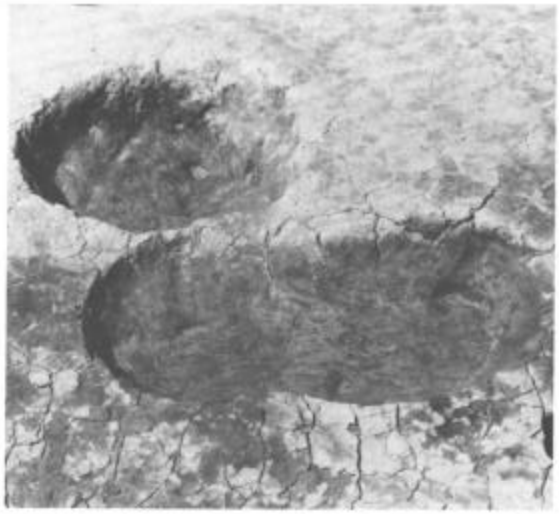
59・5号土坑（南西から）

6号土坑（西から）

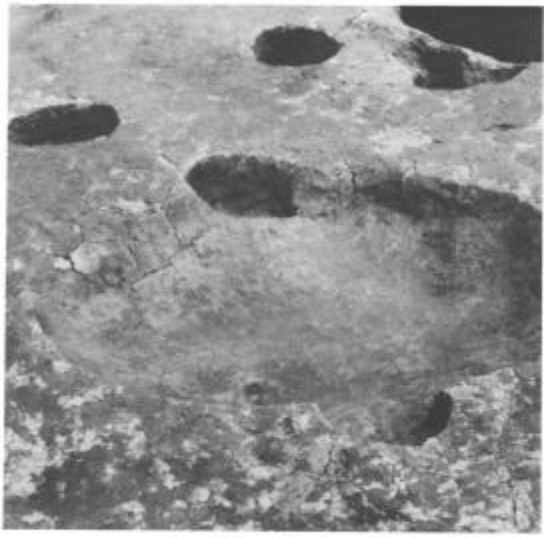


7号土坑（南から）

図版12　2地区

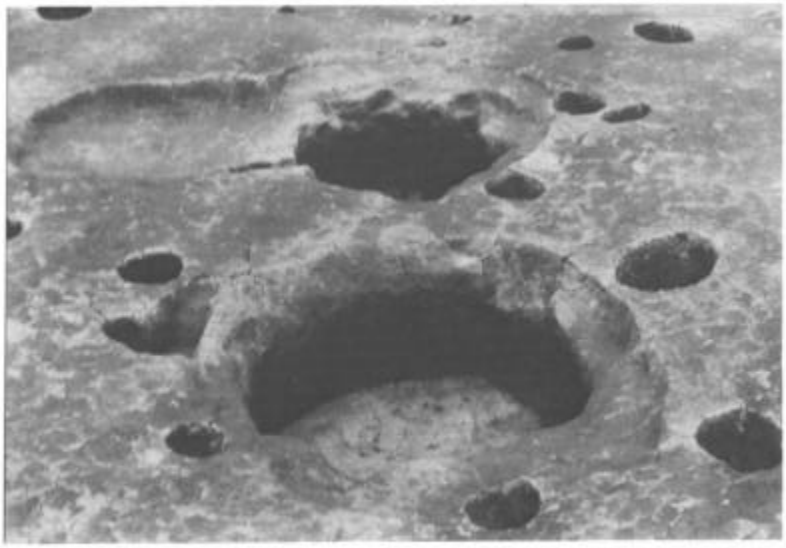


14号土坑 44号土坑 (南から)	9号土坑 (南から)
15号土坑 (南から)	12号土坑 (南から)
	20号土坑 (西から)

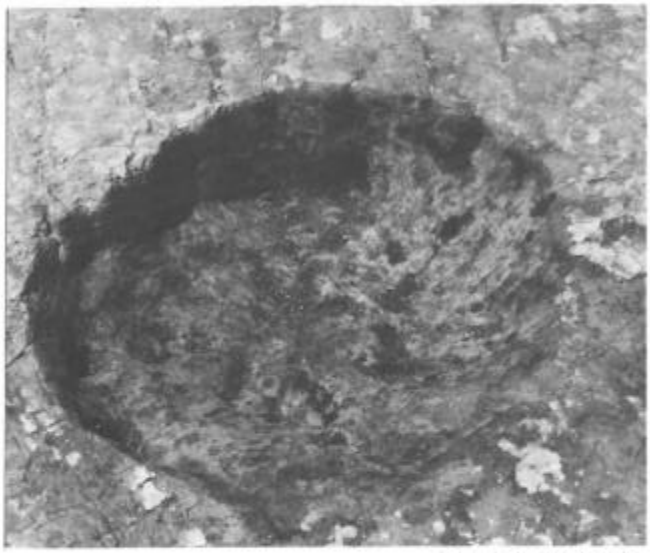


図版13　2地区

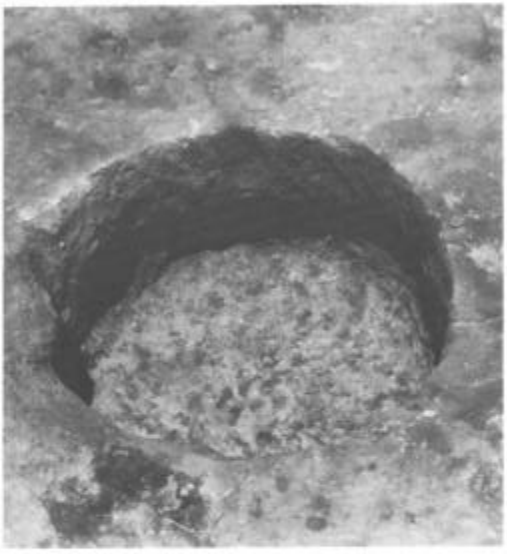
21・22号土坑（南から）



28・27号土坑
30号土坑
（南から）

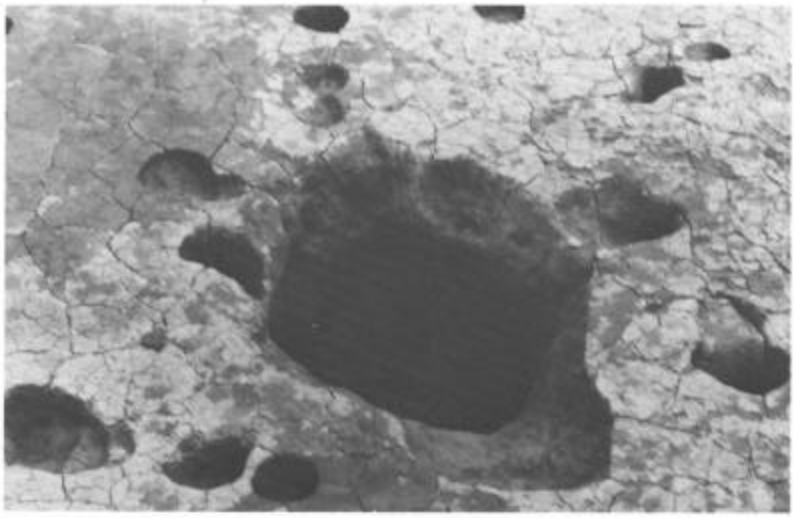


35号土坑（南から）



38号土坑（南から）

図版14　2地区

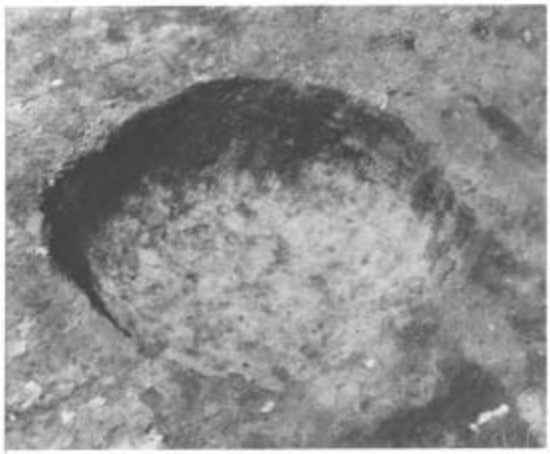


39号土坑（南西から）

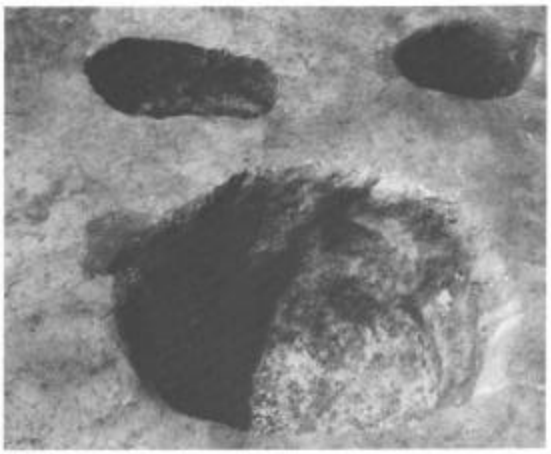
39号土坑土層断面
（北から）

39号土坑遺物出土状態
（北から）

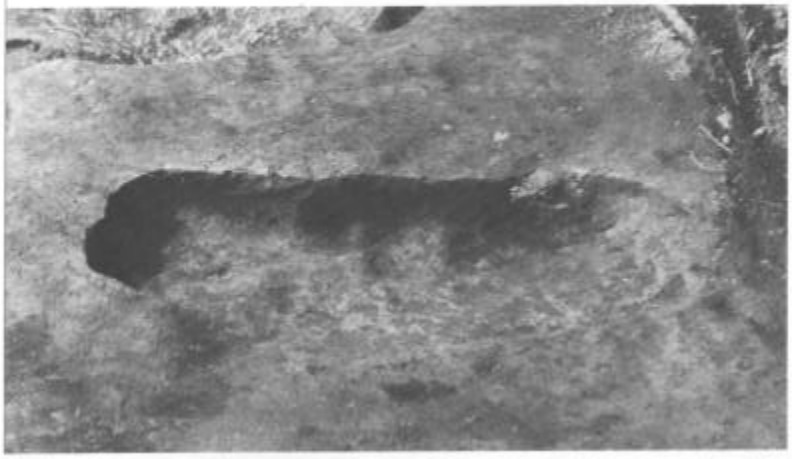
図版15　2地区



49号土坑（南から）



55号土坑（南から）

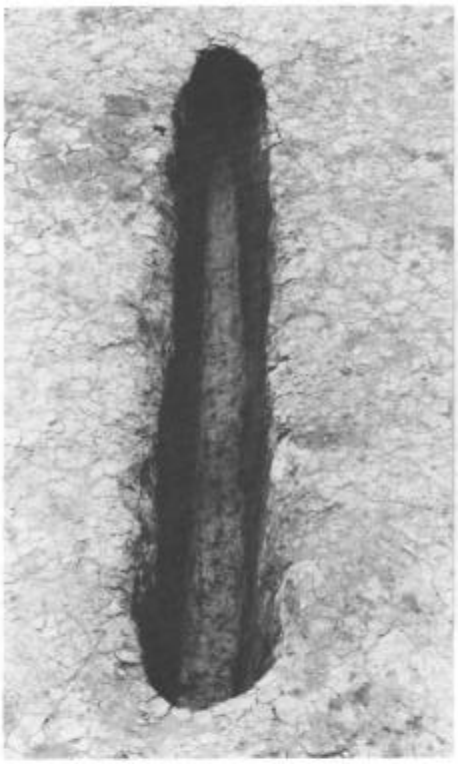


56号土坑（南から）

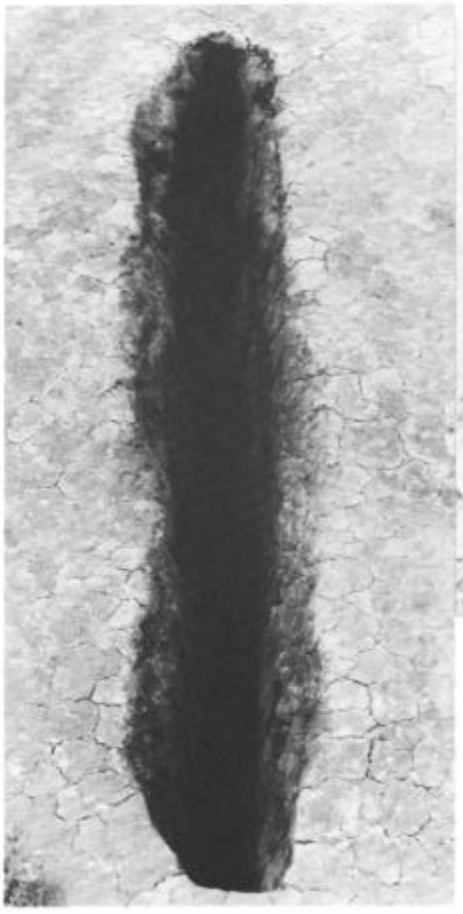
58号土坑（南から）

6号焼土遺構遺物出土状態

図版16　2地区



1号溝状土坑（南から）

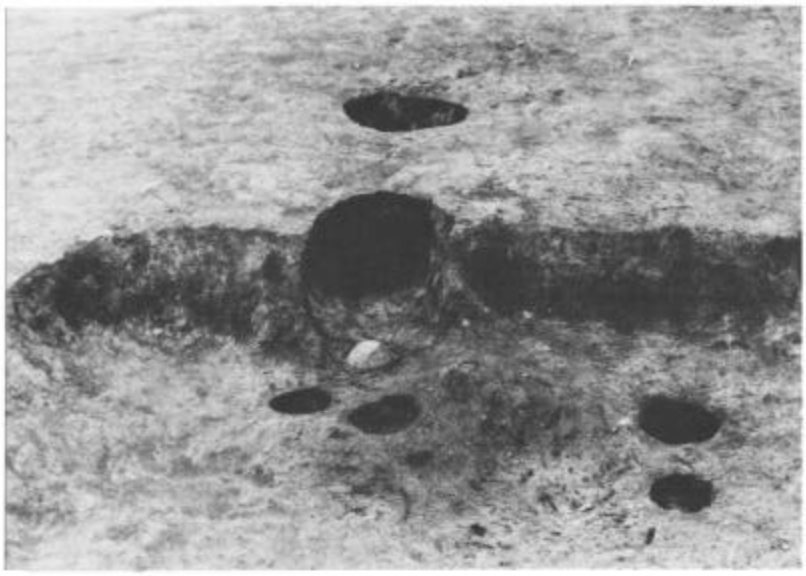


2号溝状土坑（南から）

図版17　2地区

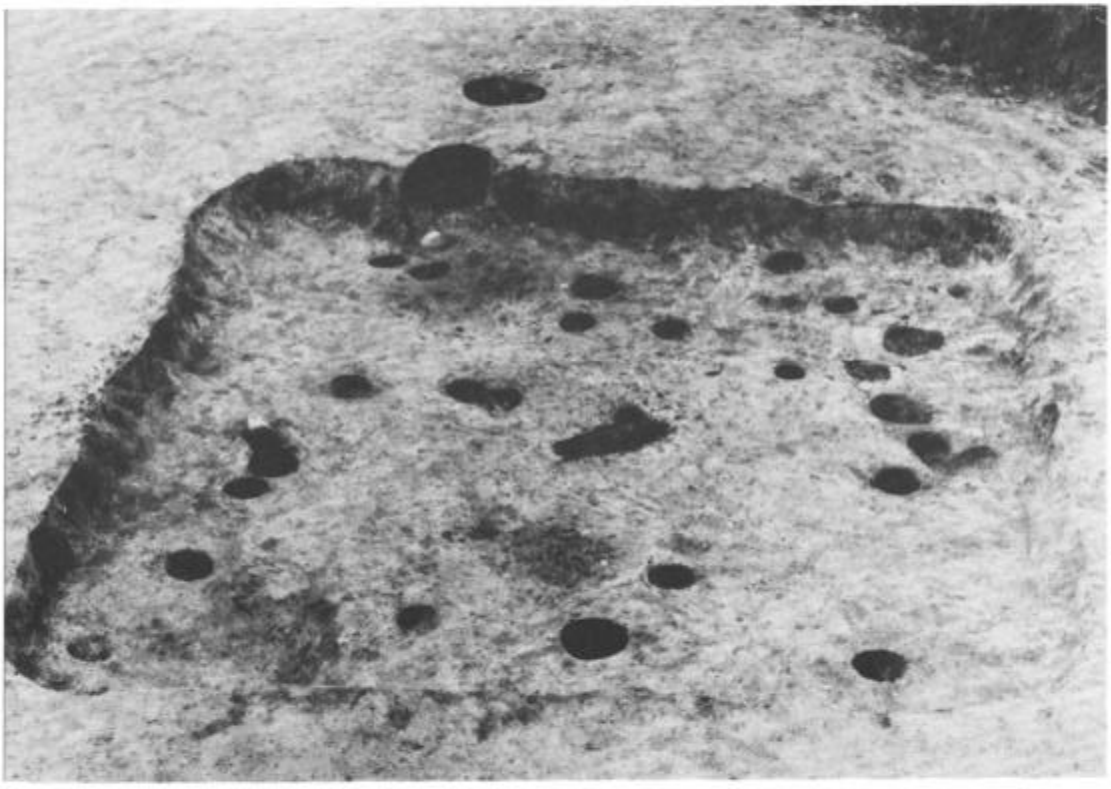
図版18　3地区 上　全景（南から）
下　南半部、奥が2地区（西から）

図版19　3地区 上　トレンチ（北西から）
下　北半部　（北から）

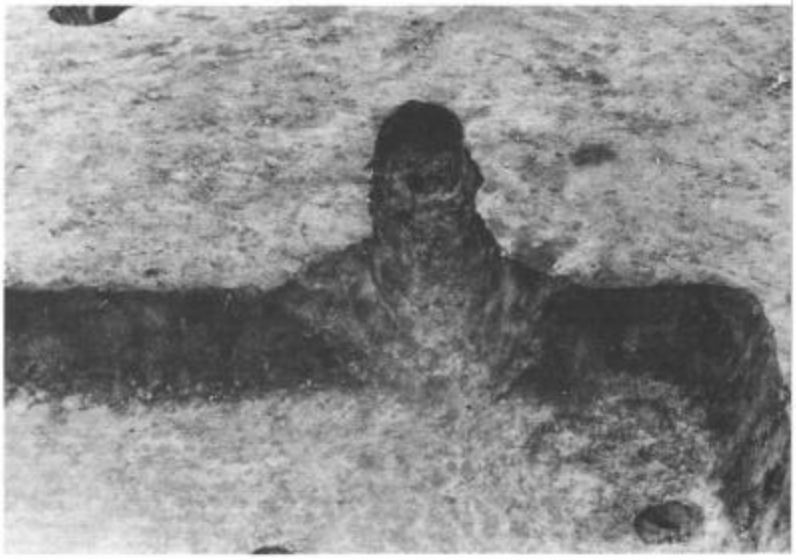


1号住居跡カマド(北から)

1号住居跡(北から)



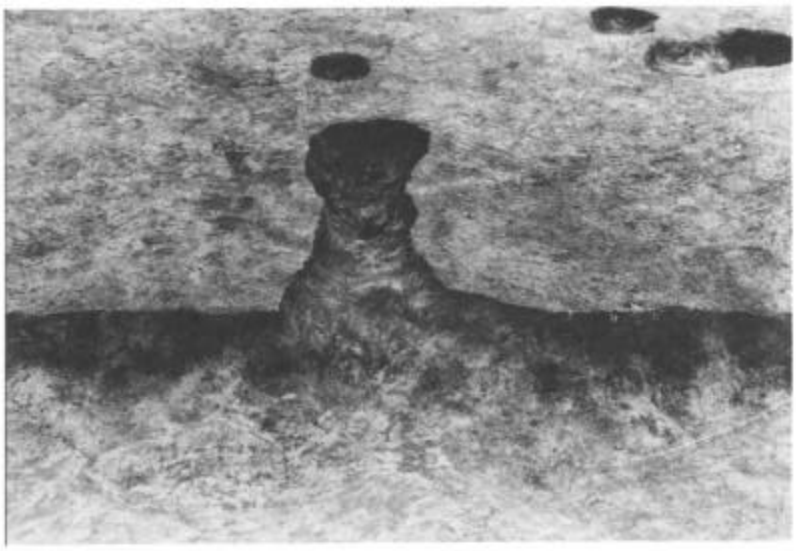
図版20　3地区



2号住居跡カマド(北から)

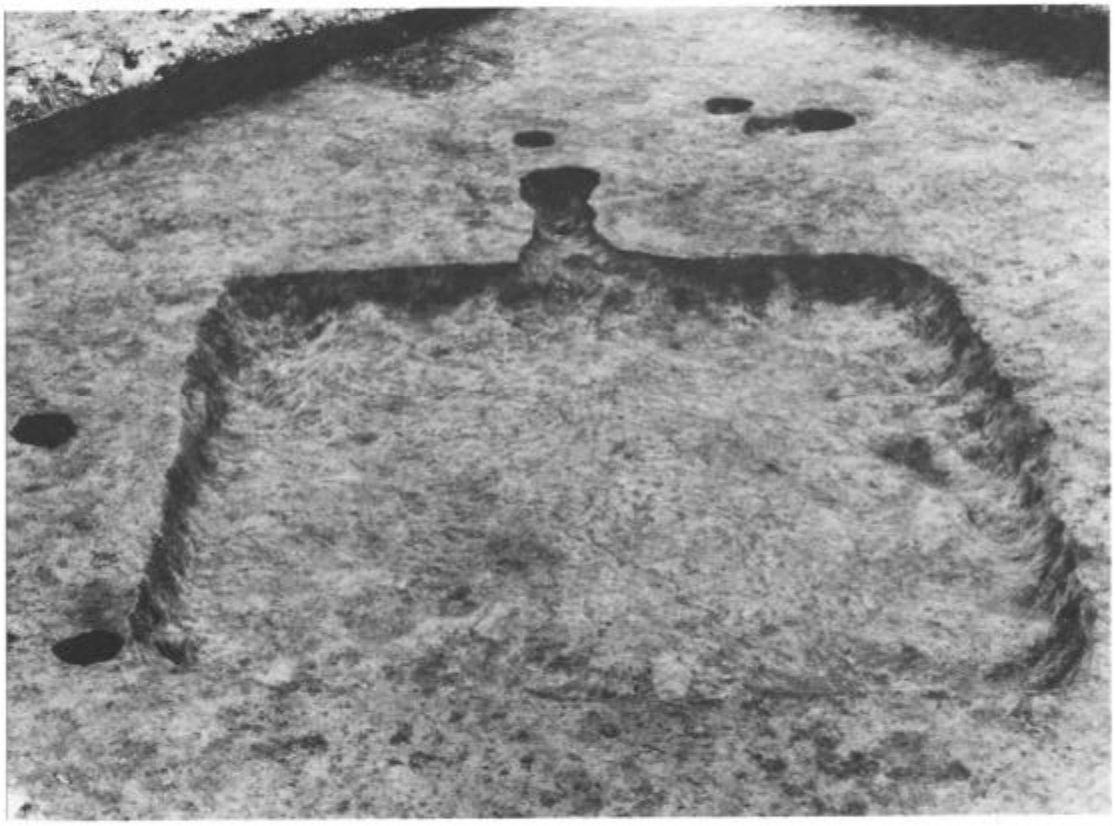
2号住居跡(北から)

図版21　3地区

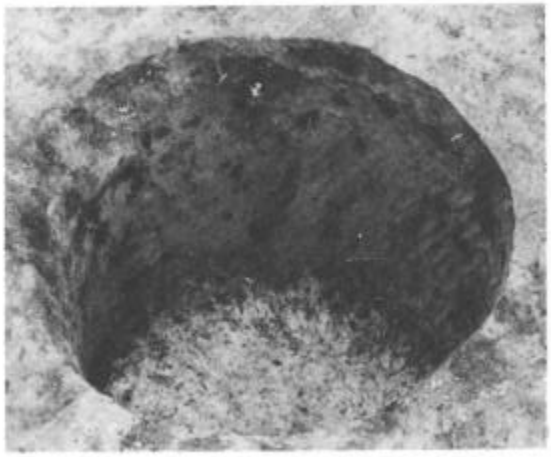


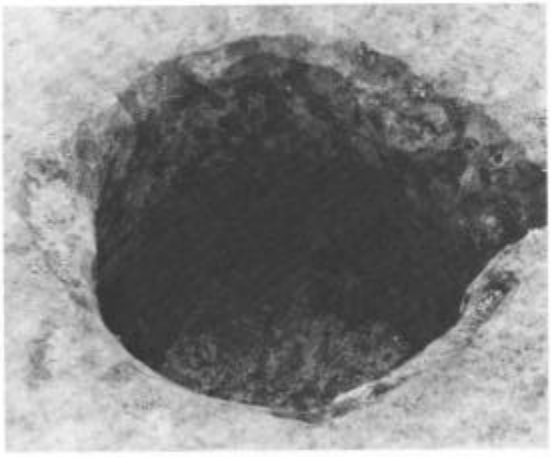
3号住居跡カマド(北から)

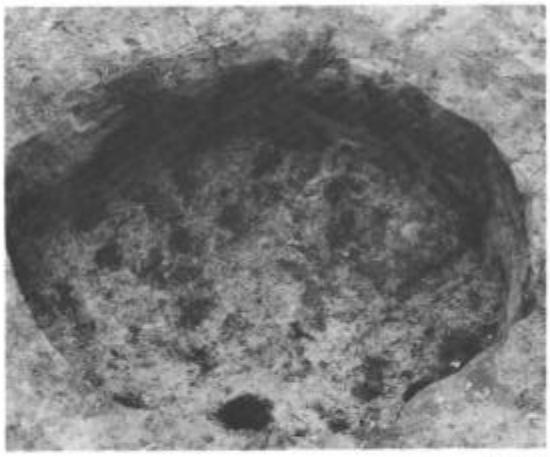
3号住居跡(北から)



図版22　3地区





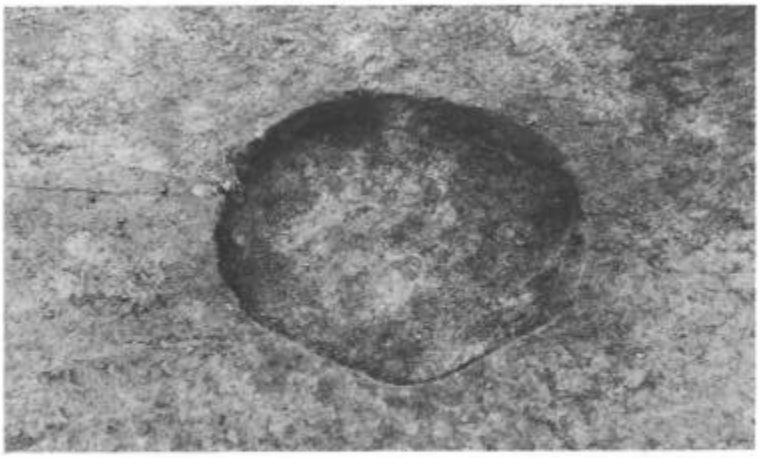


図版23　3地区

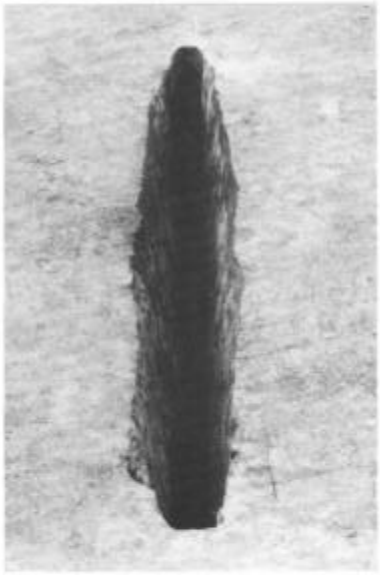
土坑群（北から）

4号土坑（南から）	3号土坑（南から）
6号土坑（西から）	5号土坑（南から）

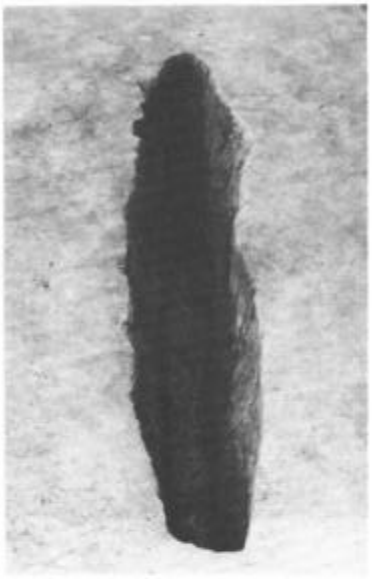
1号土坑(西から)



2号土坑(西から)

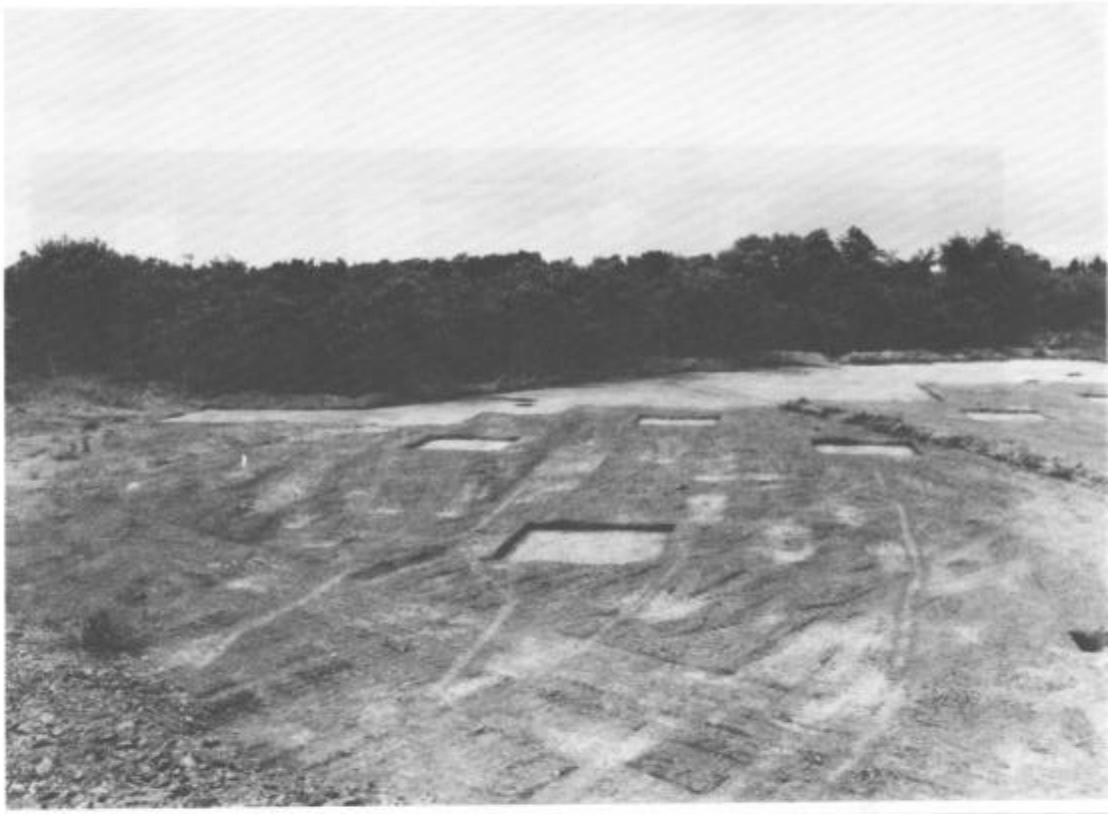


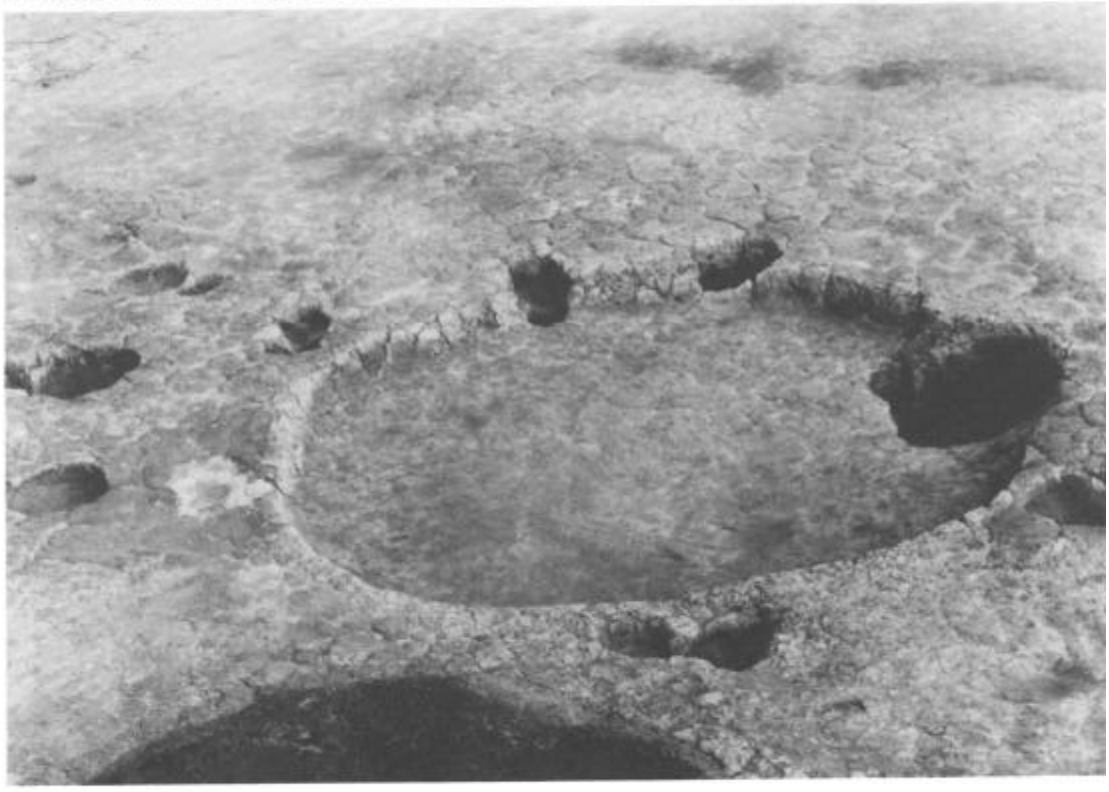
1号溝状土坑(南から)



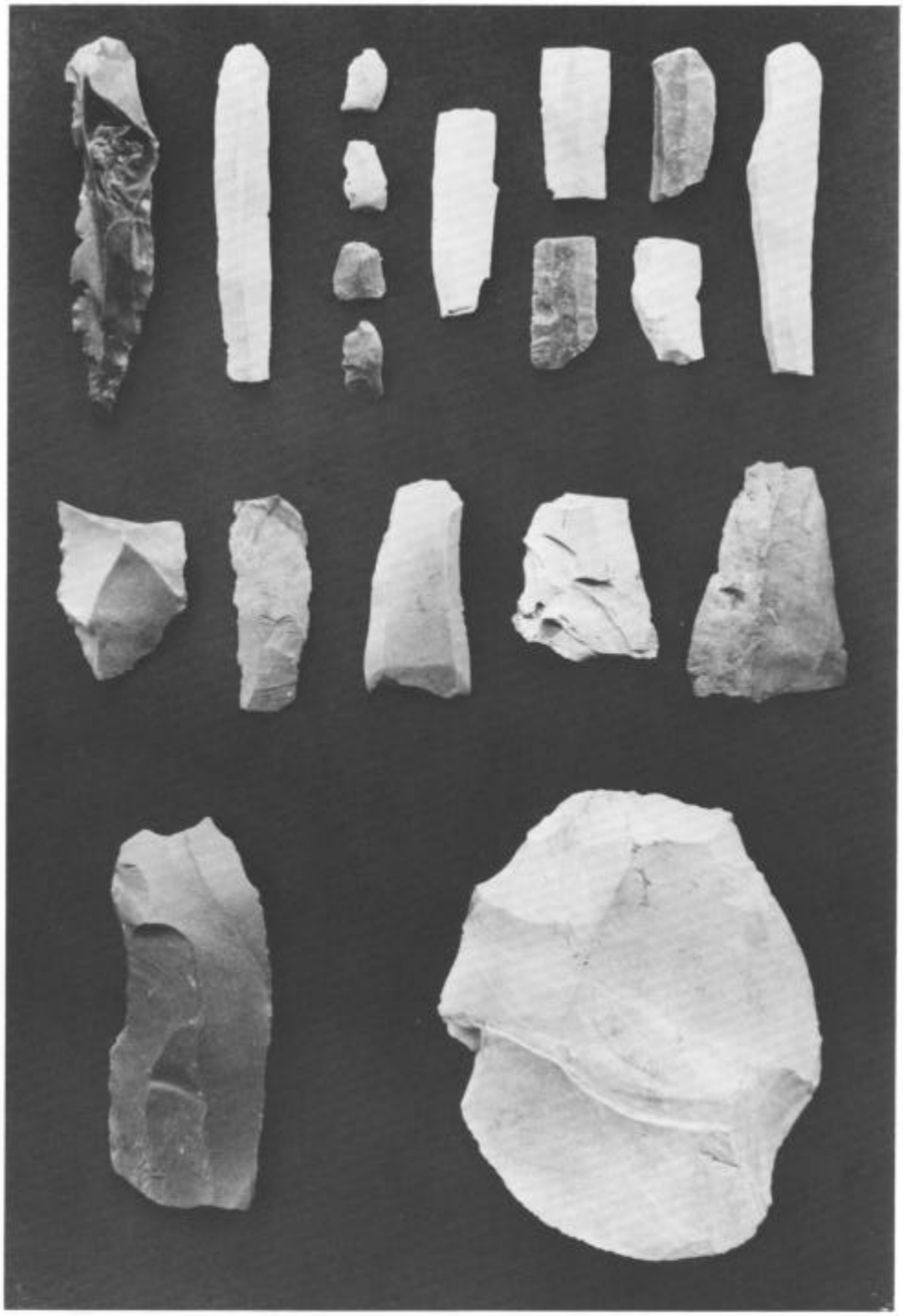
2号溝状土坑(南から)

図版24　3地区

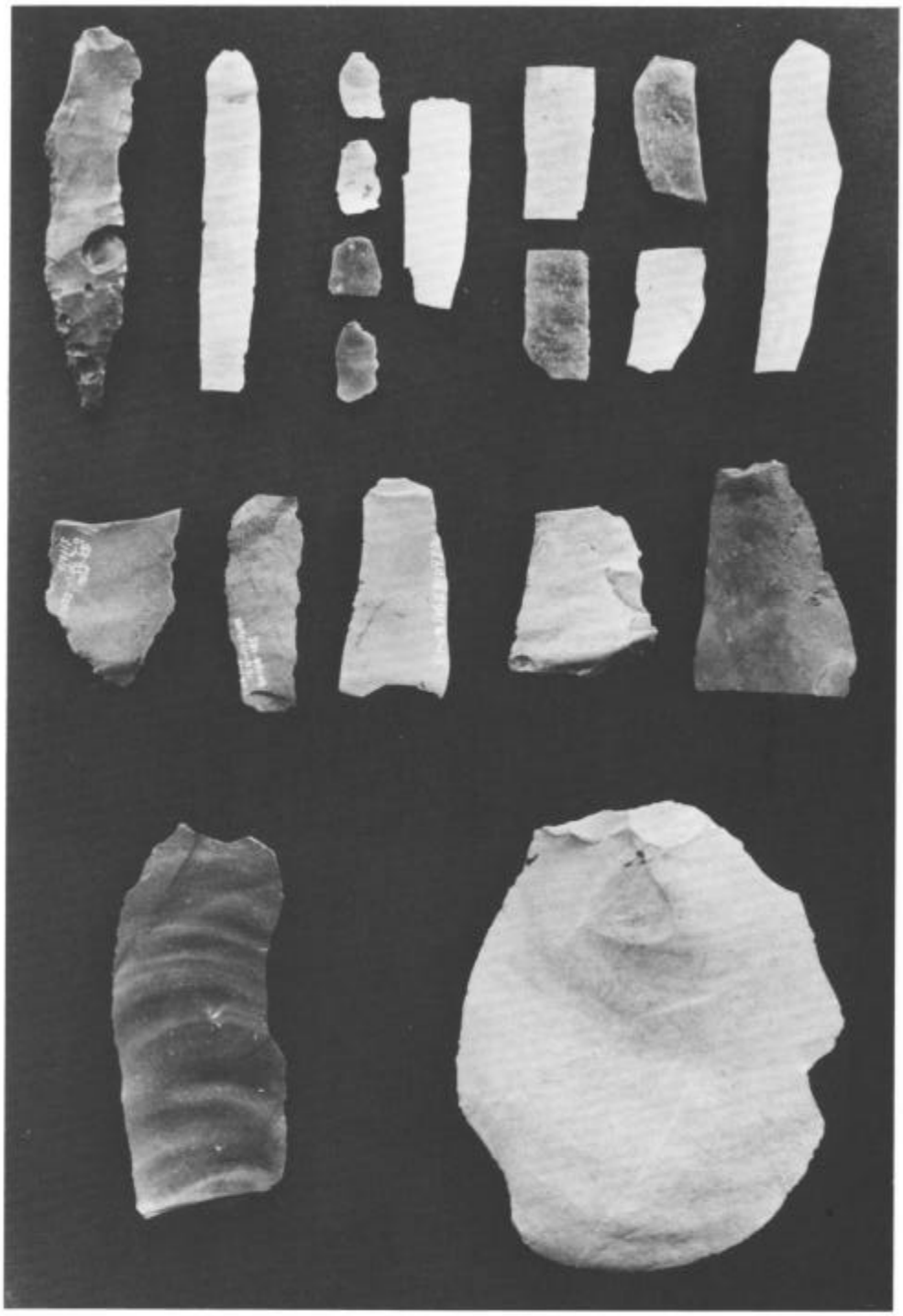




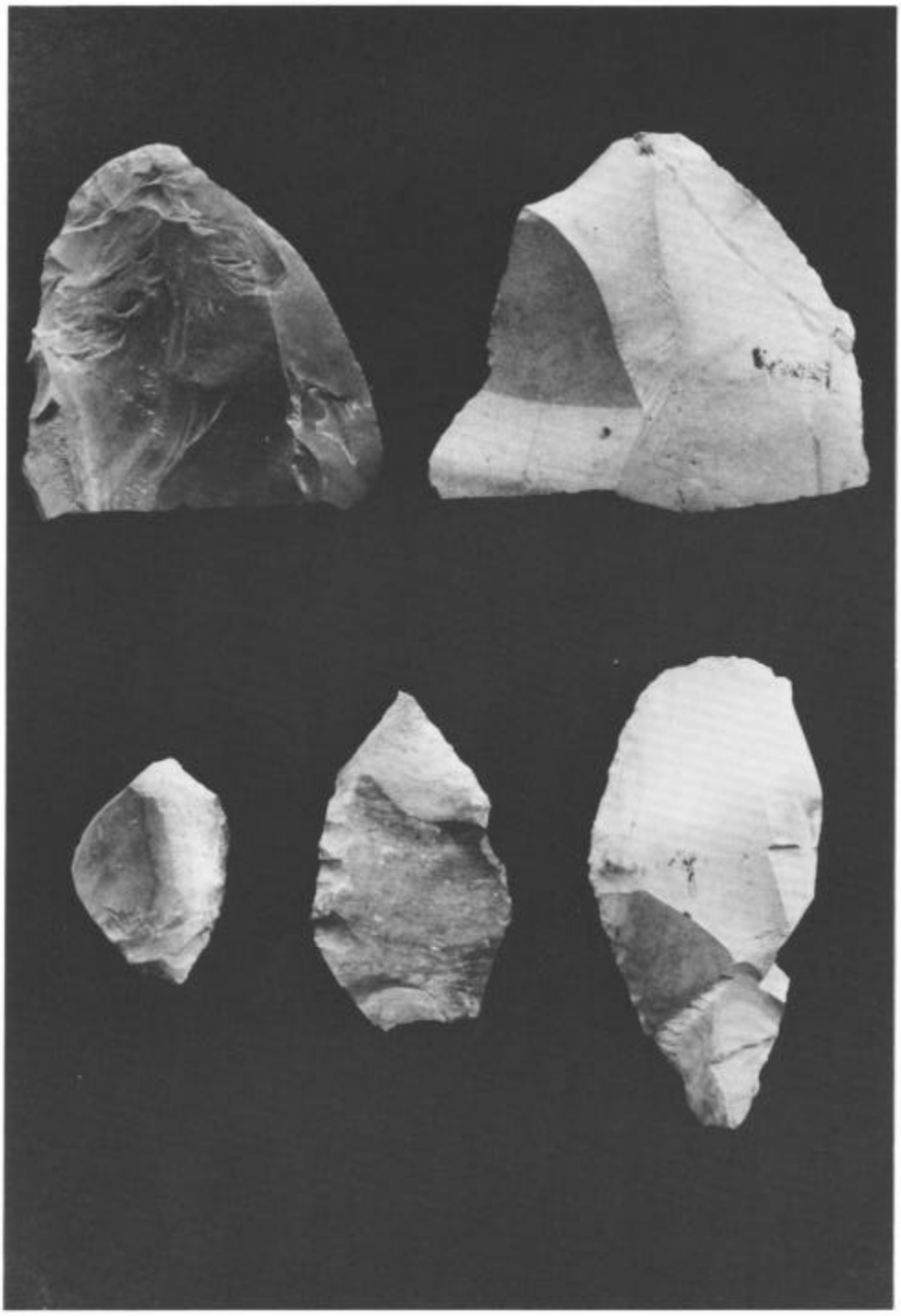
図版25　4地区 上　全景（南から）
下　1号住居跡（西から）



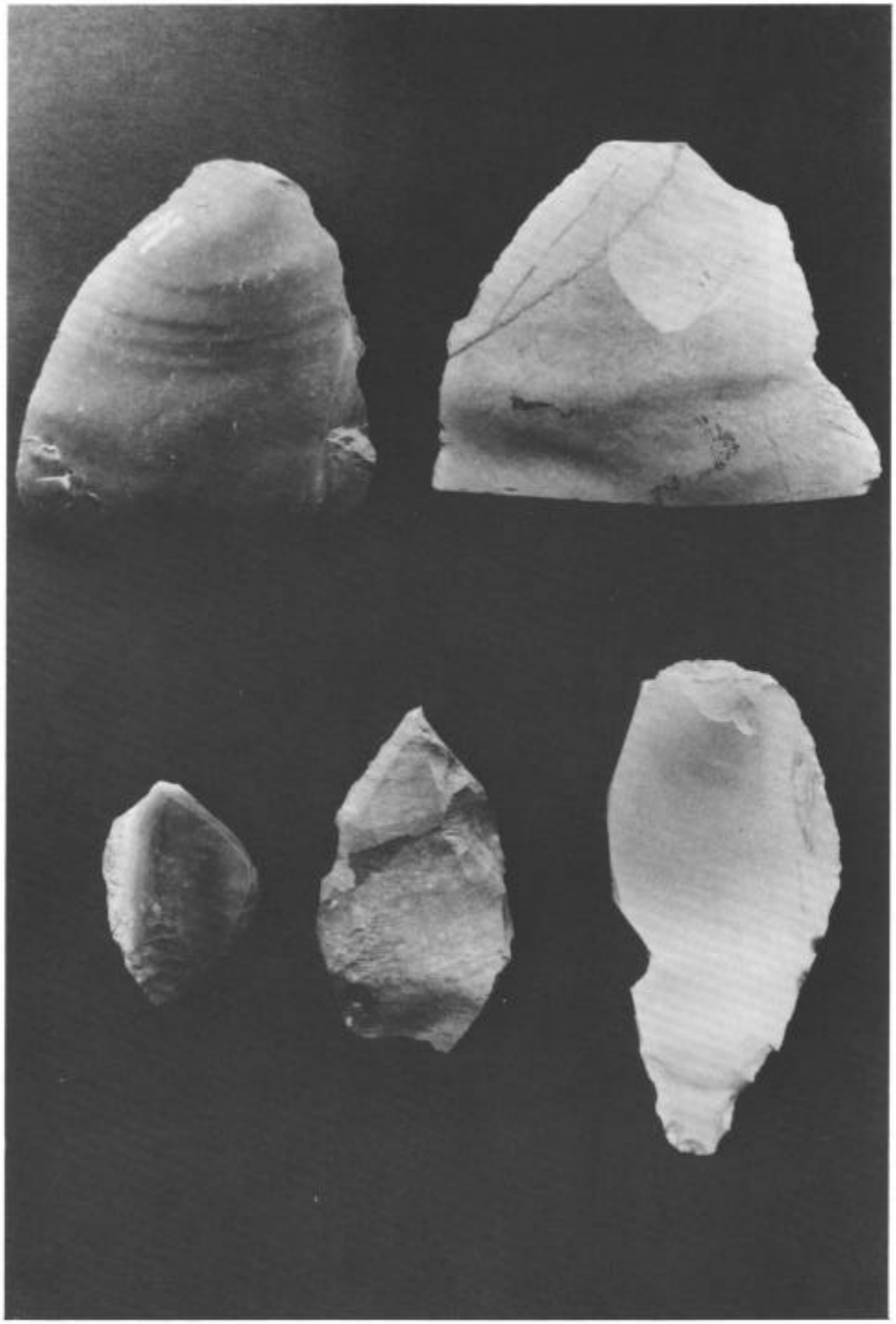
図版26　1地区旧石器時代の遺物



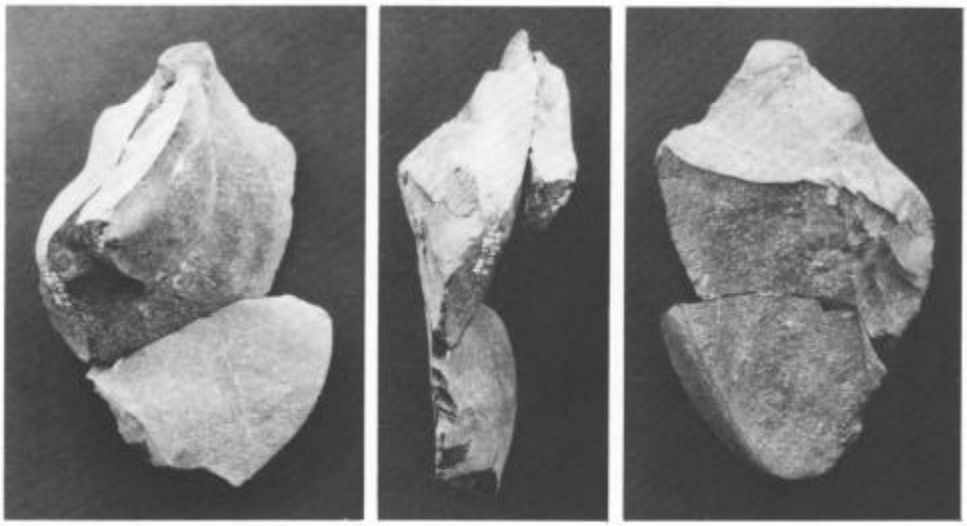
図版27　1地区旧石器時代の遺物



図版28　1地区旧石器時代の遺物

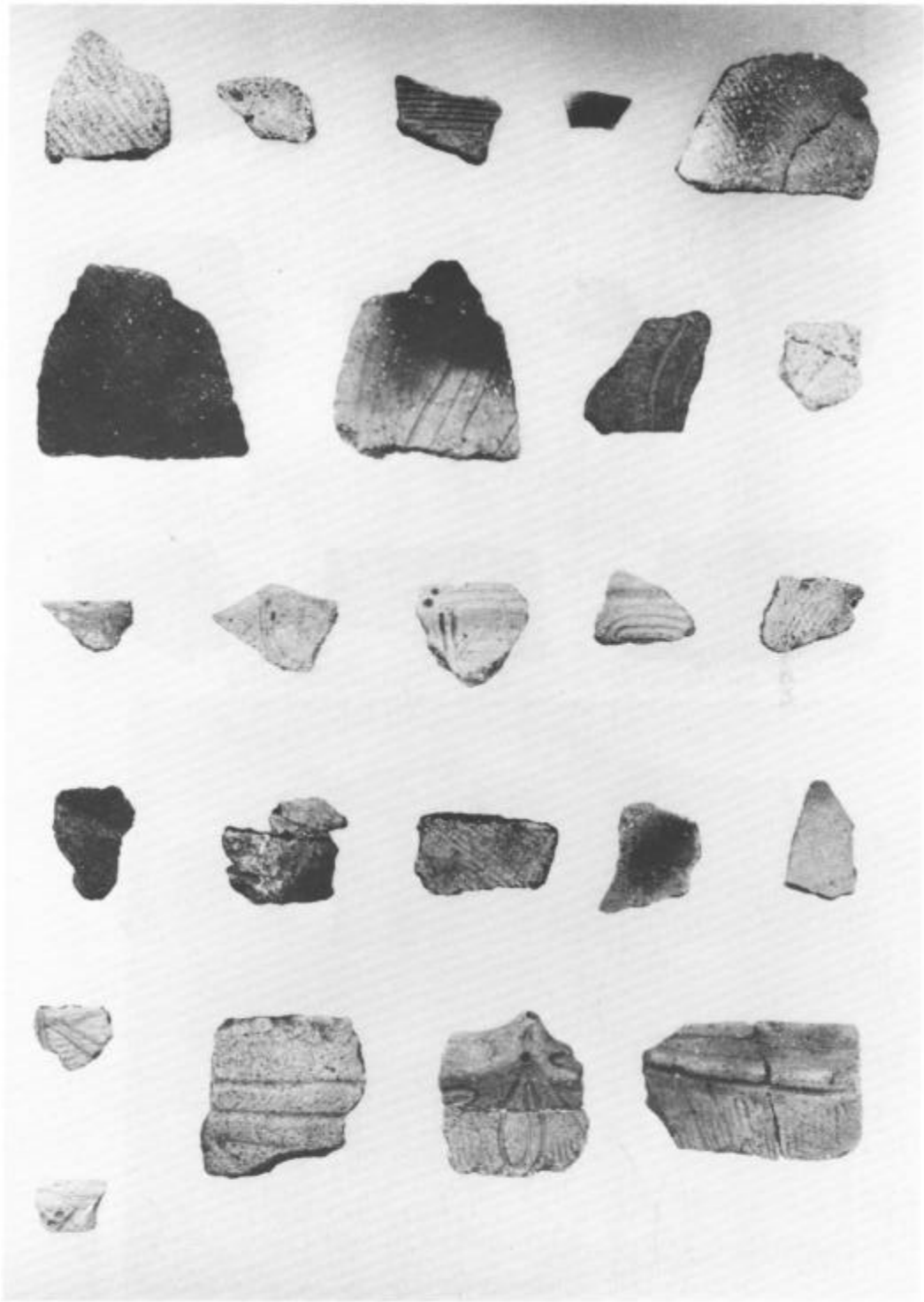


図版29　1地区旧石器時代の遺物

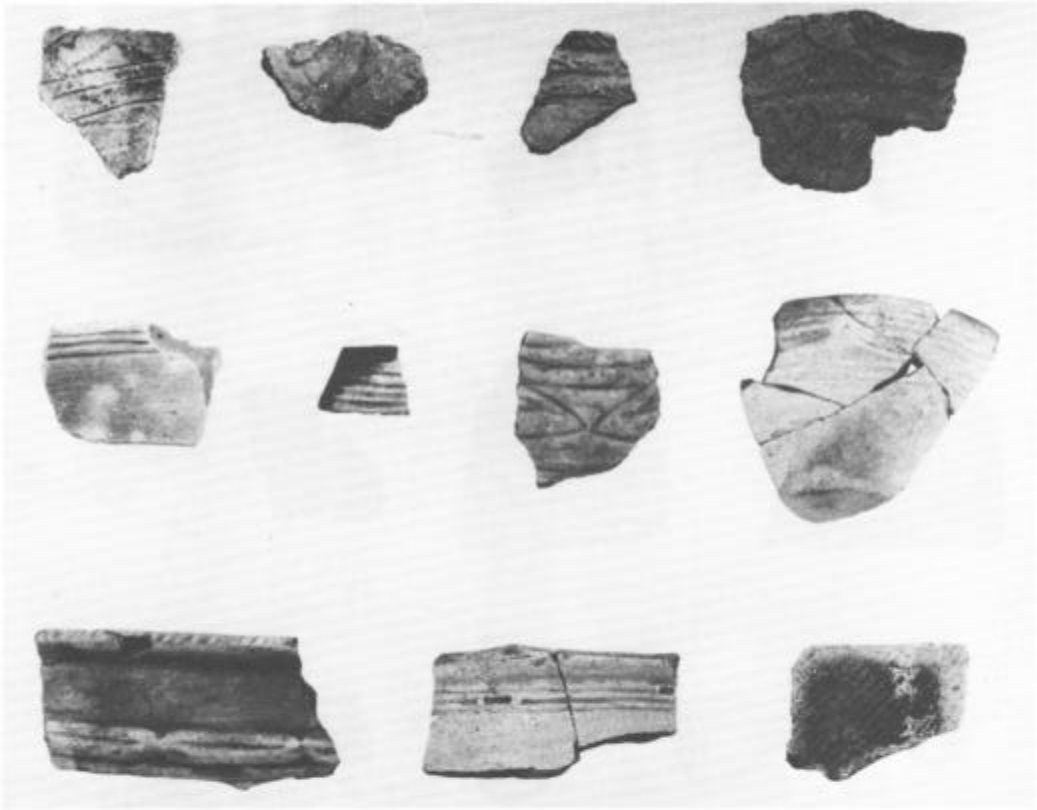


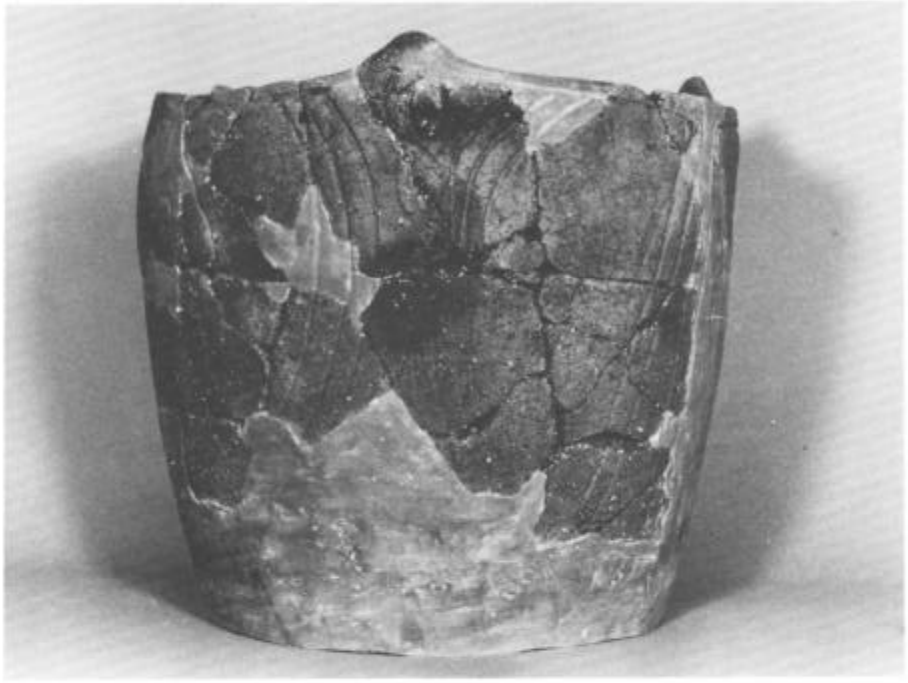
接合剥片

図版30　1地区旧石器時代の遺物

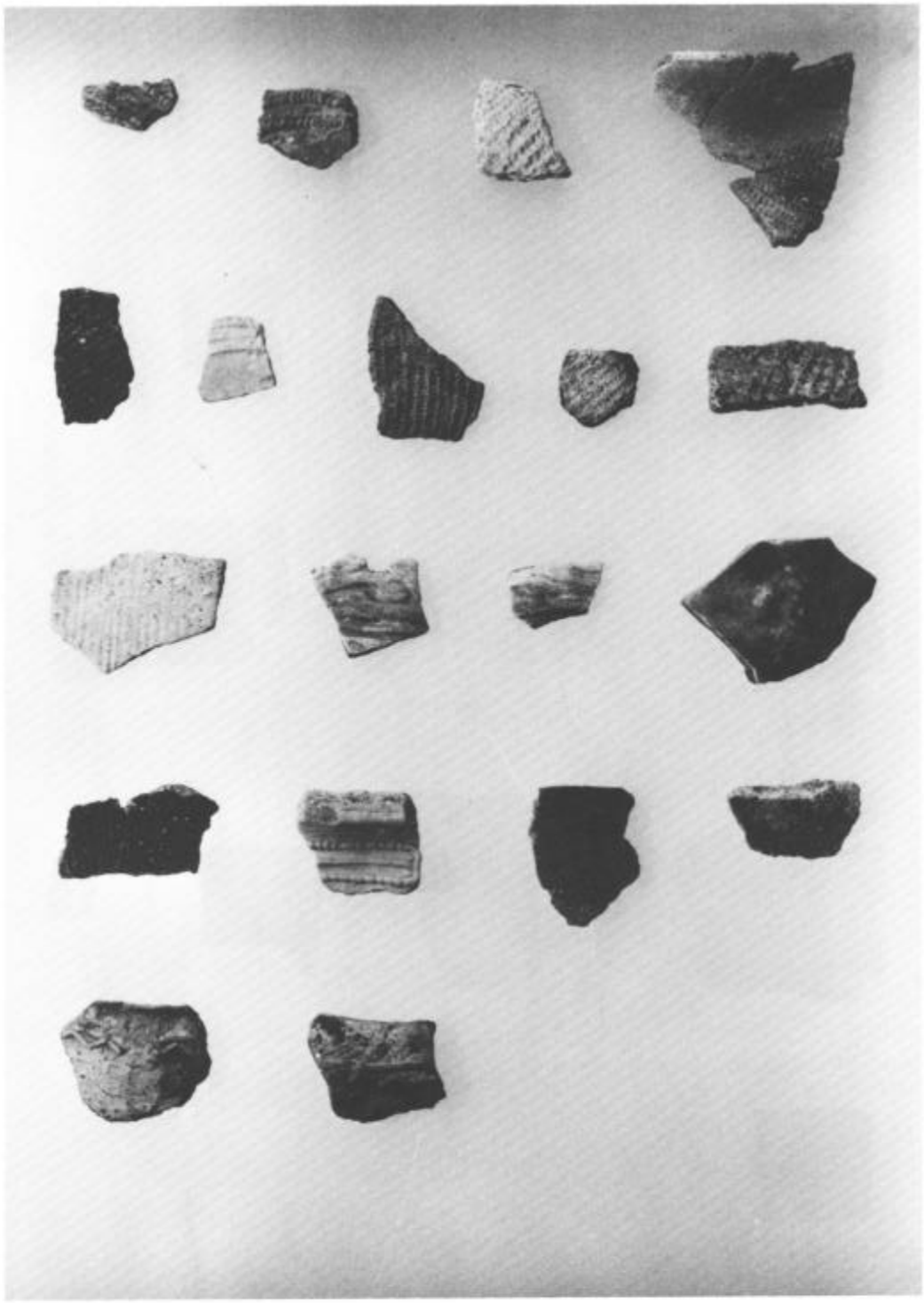


図版31　1地区出土土器

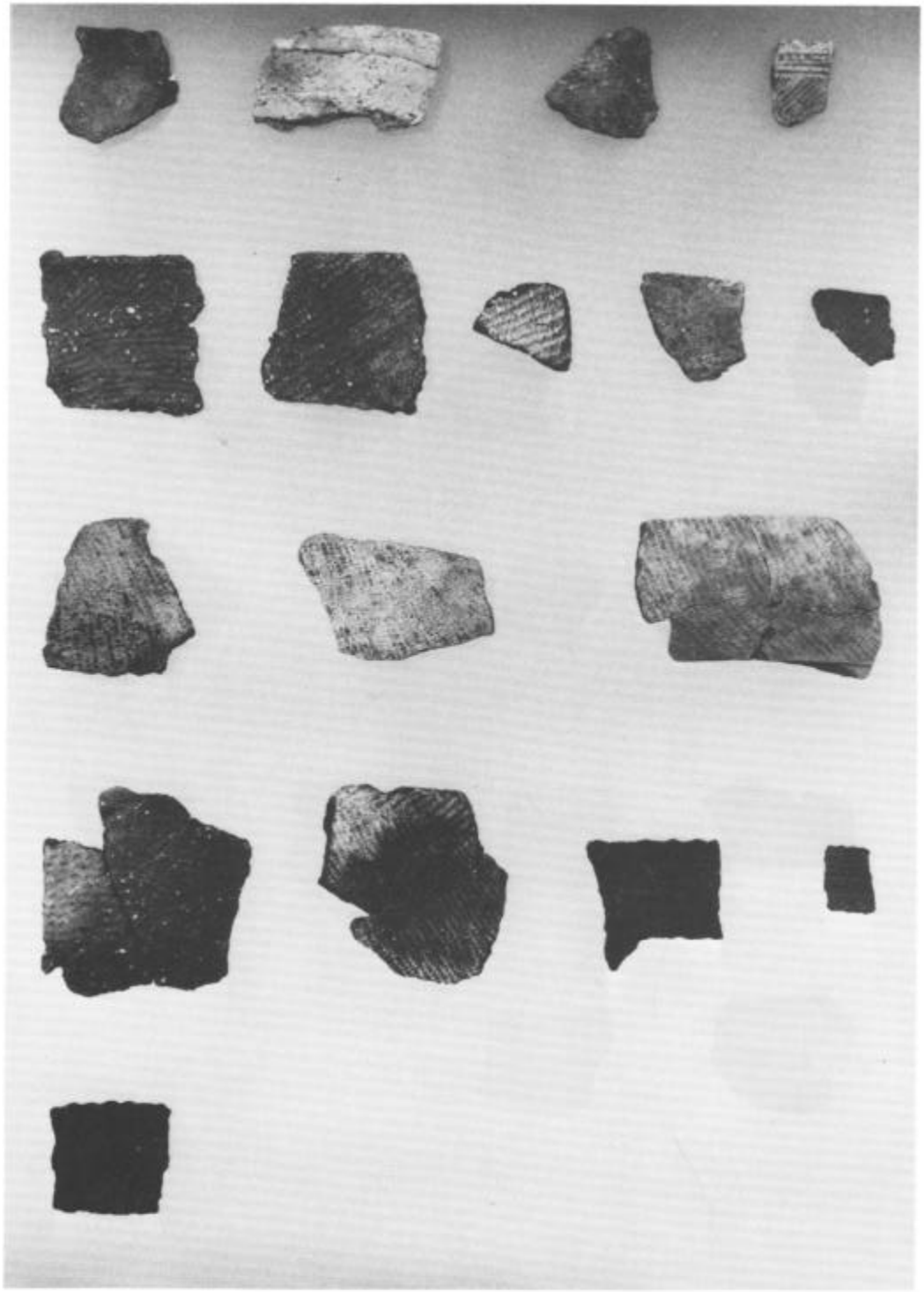




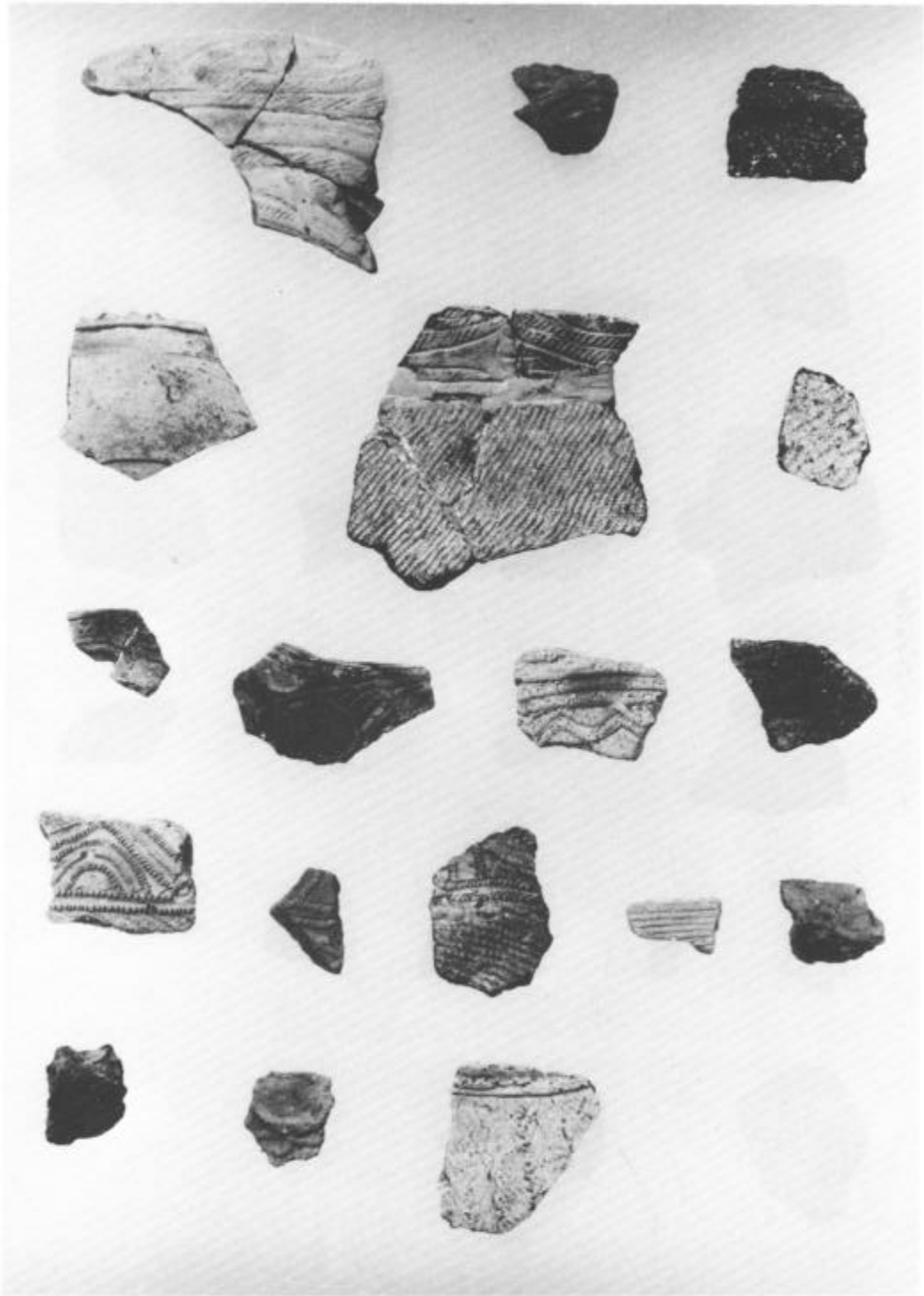
図版32　Ⅰ地区出土土器



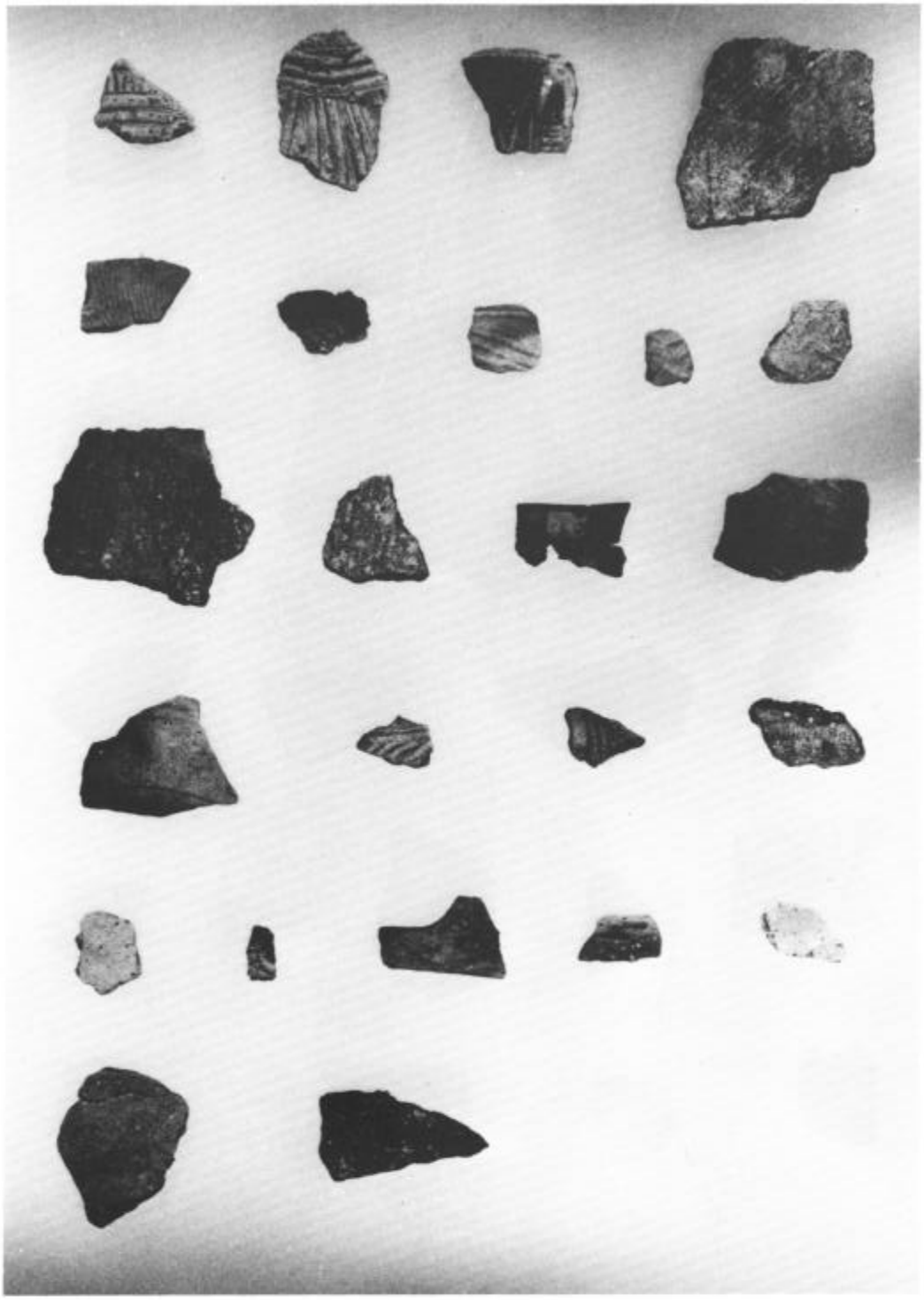
図版33　2地区出土土器



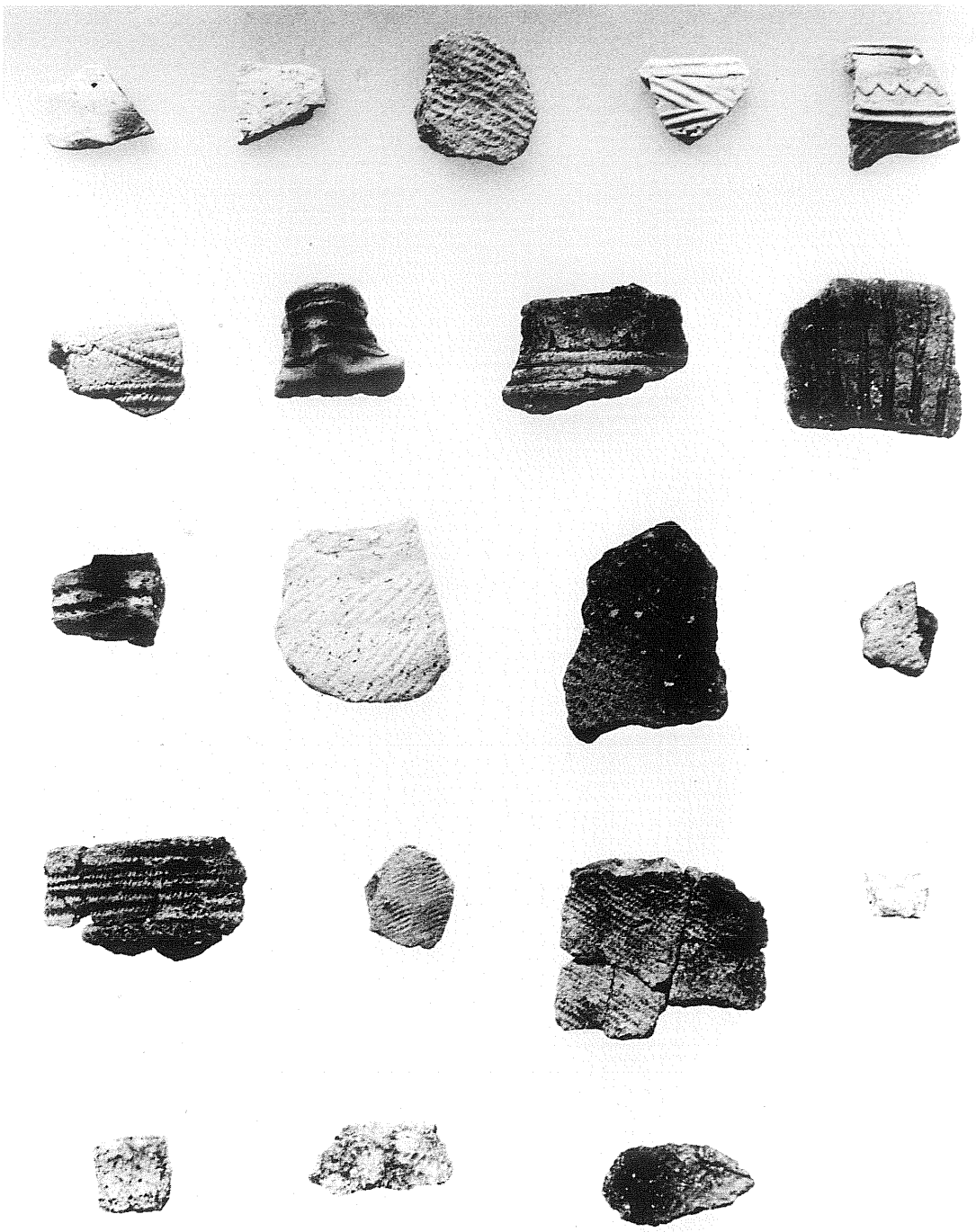
図版34　2地区出土土器



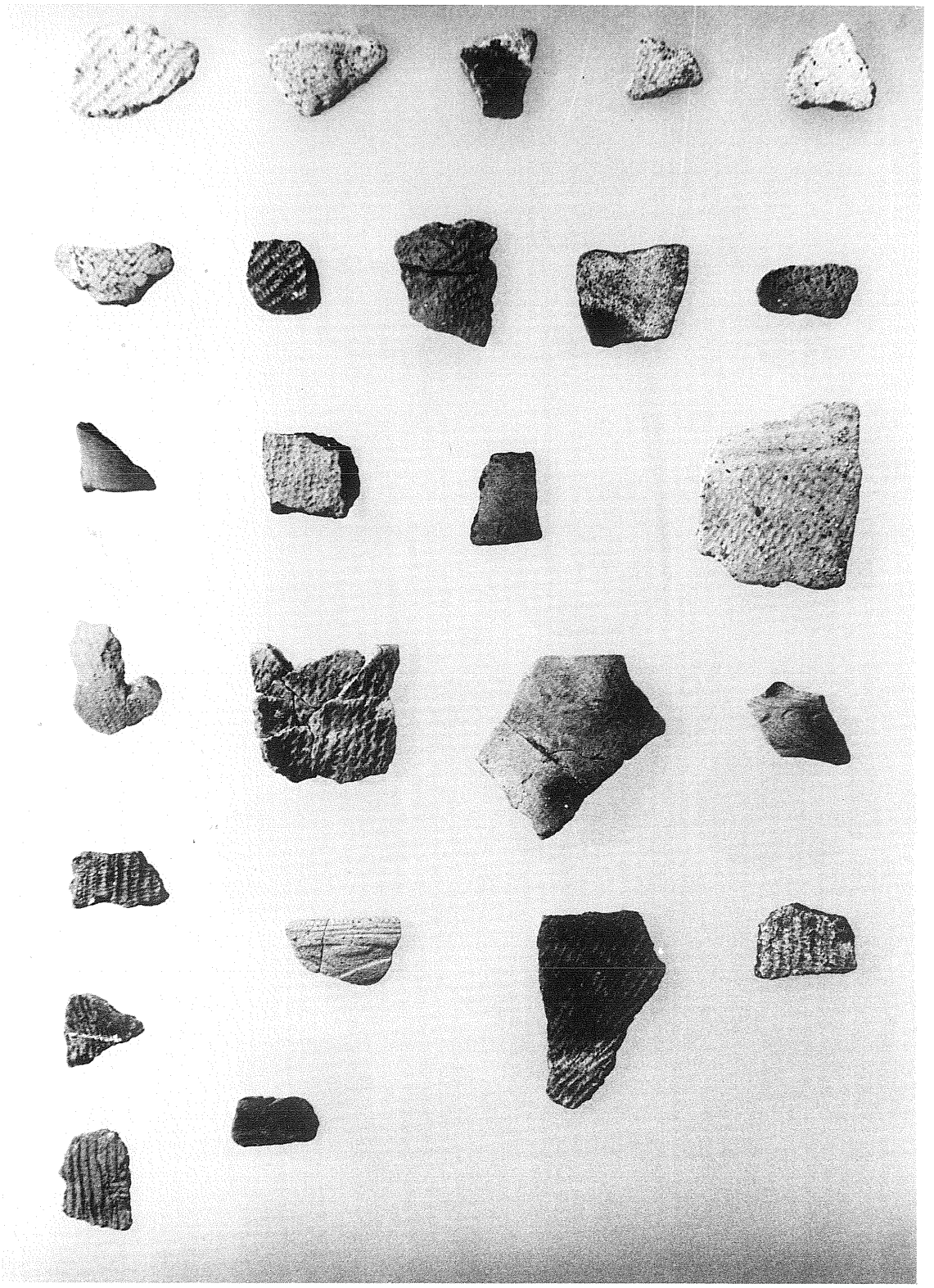
図版35　2地区出土土器



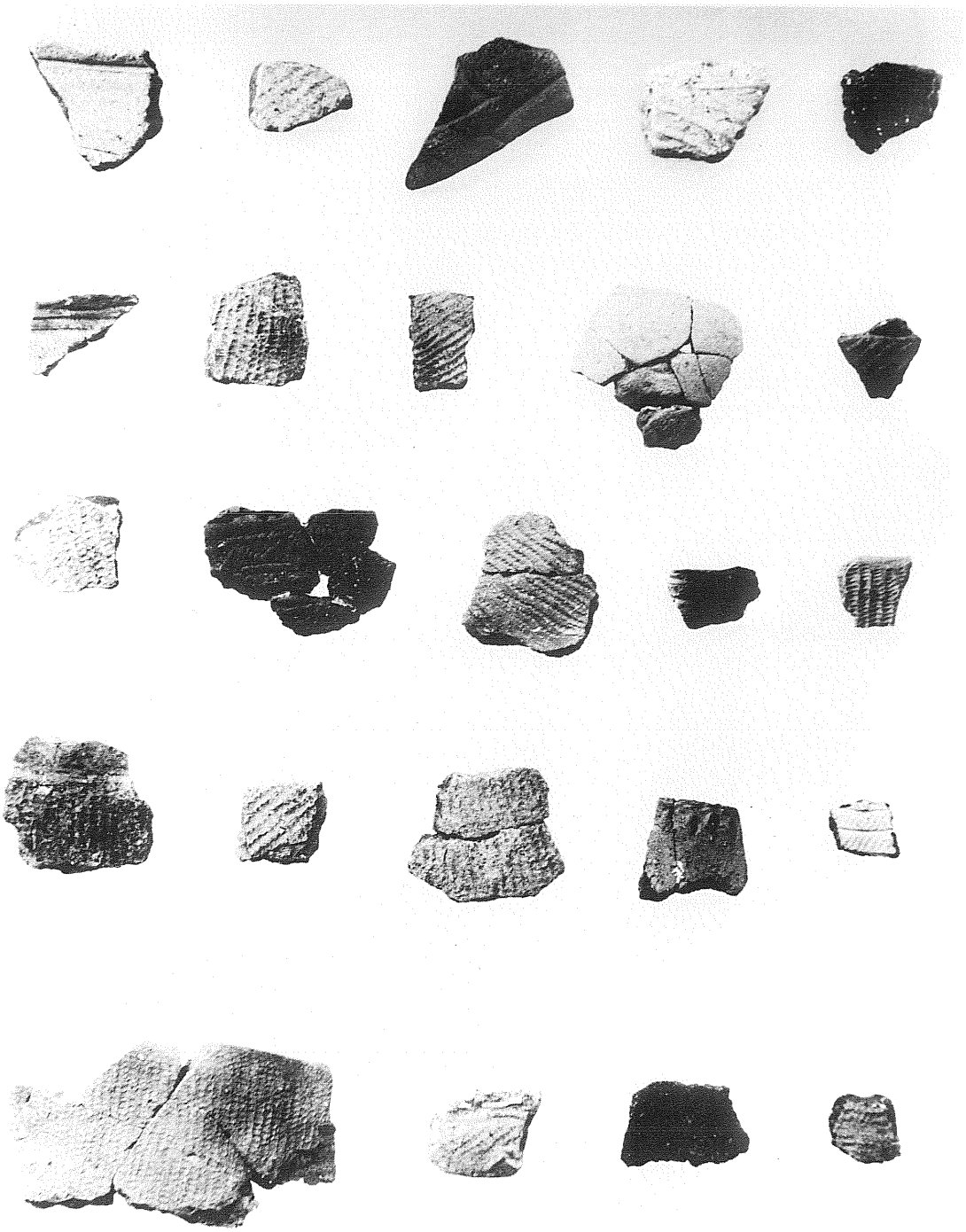
図版36　2地区出土土器



図版37　2地区出土土器

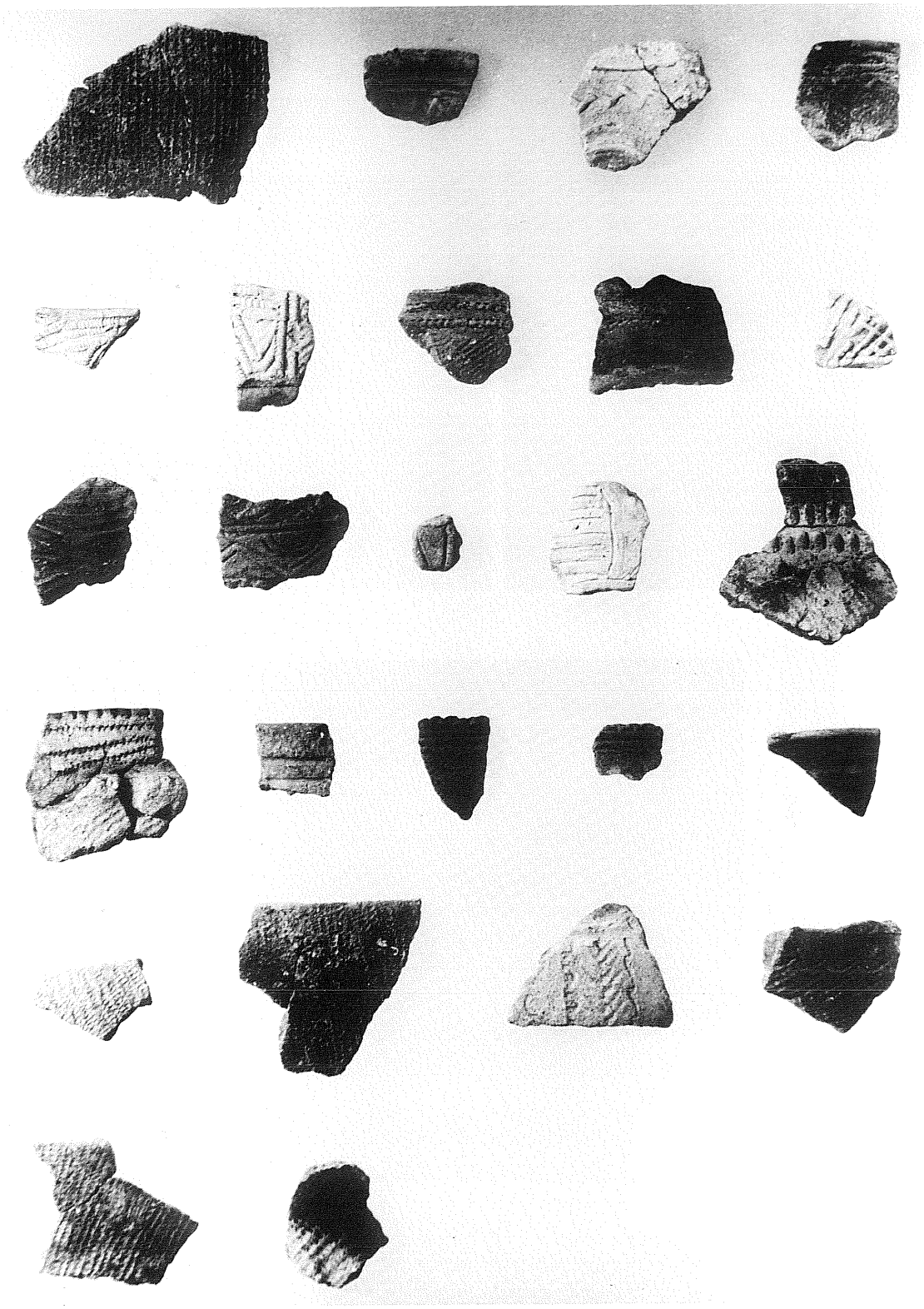


図版38　2地区出土土器

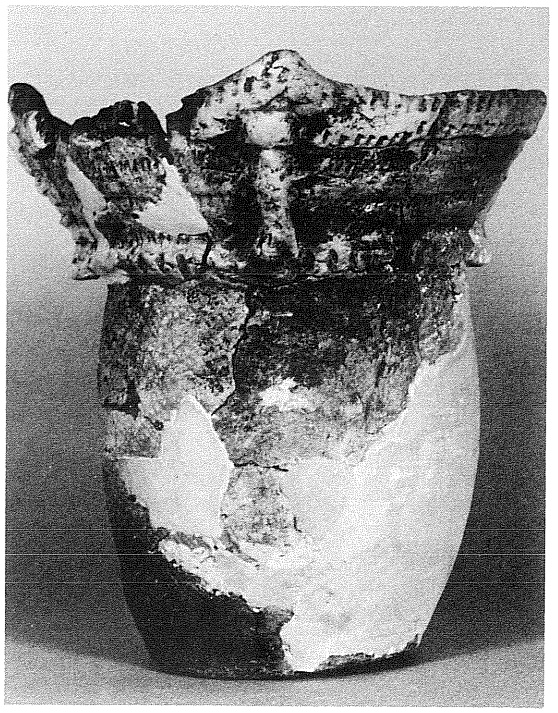


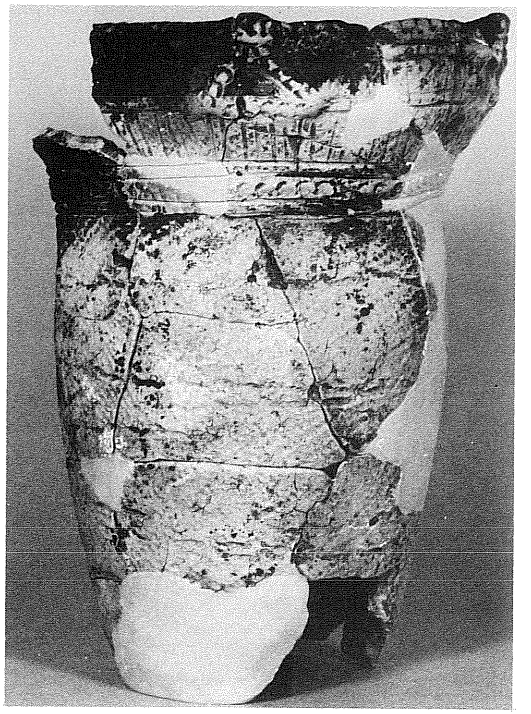
図版39　２地区出土土器

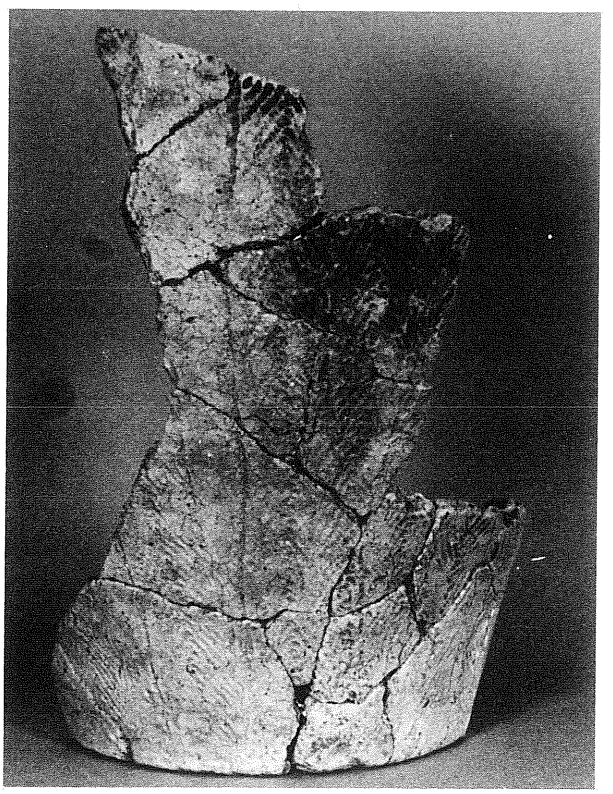
図版40　2地区出土土器



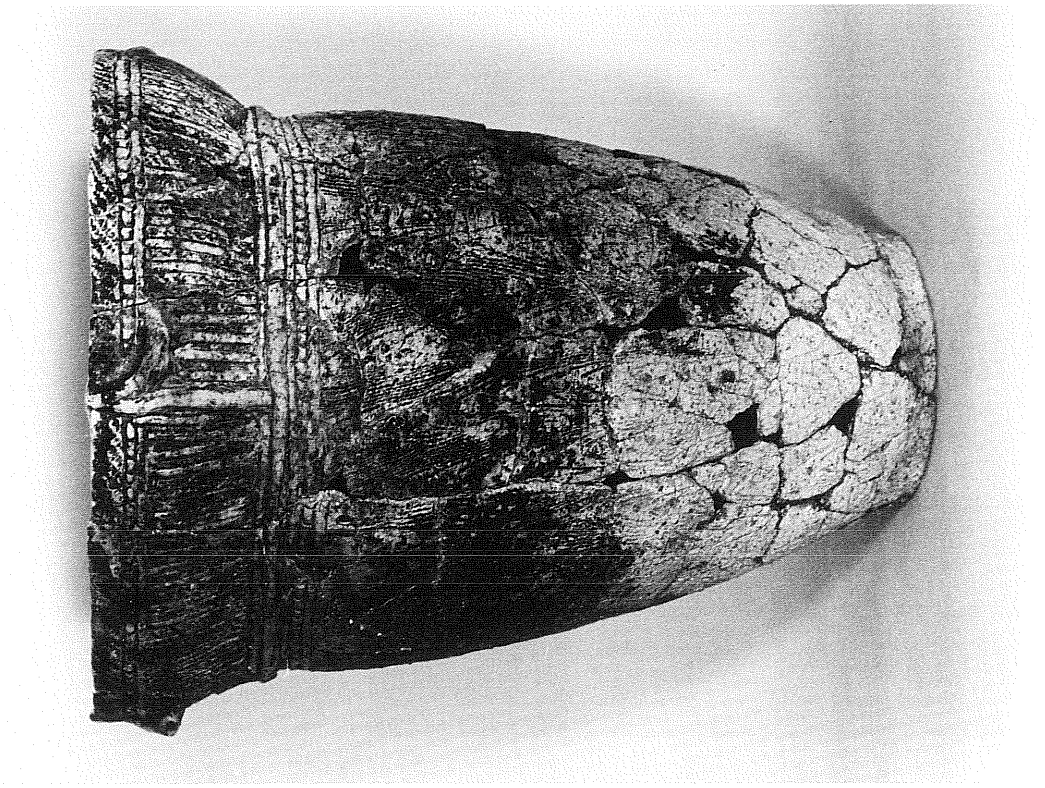
図版41　2地区出土土器

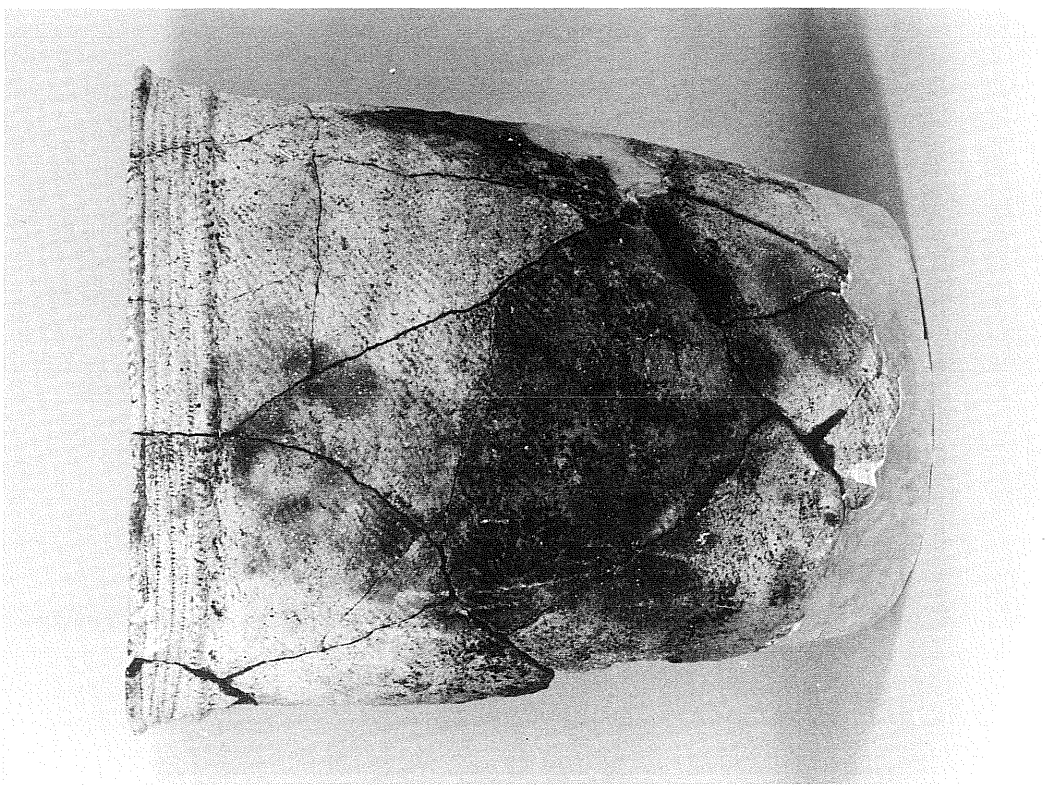




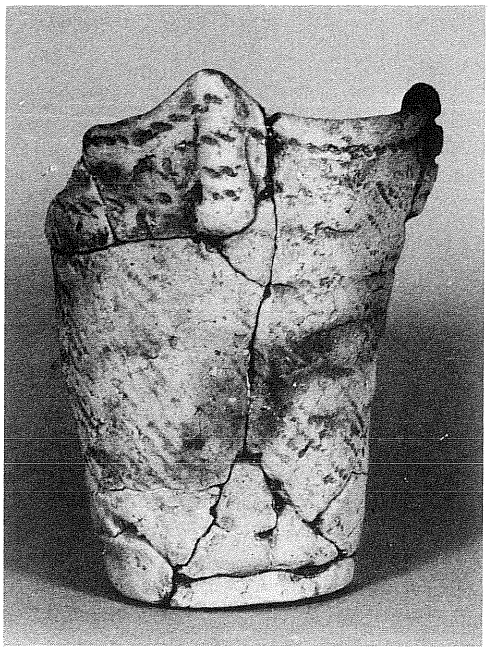


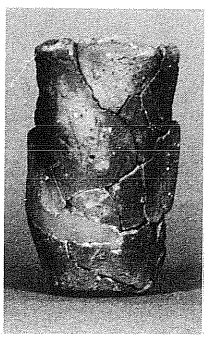
図版42　2地区出土土器

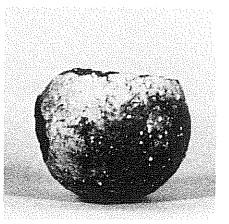


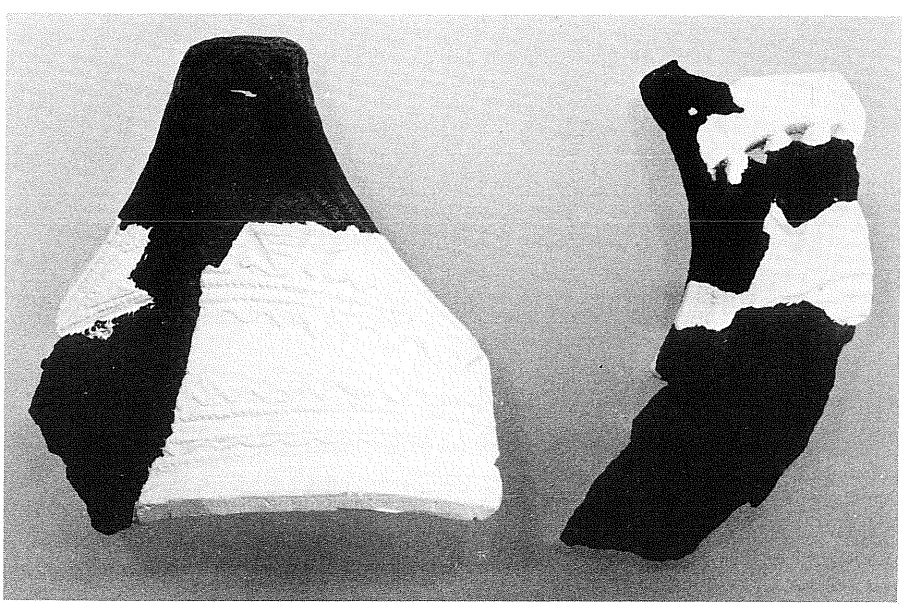


図版43　2地区出土土器

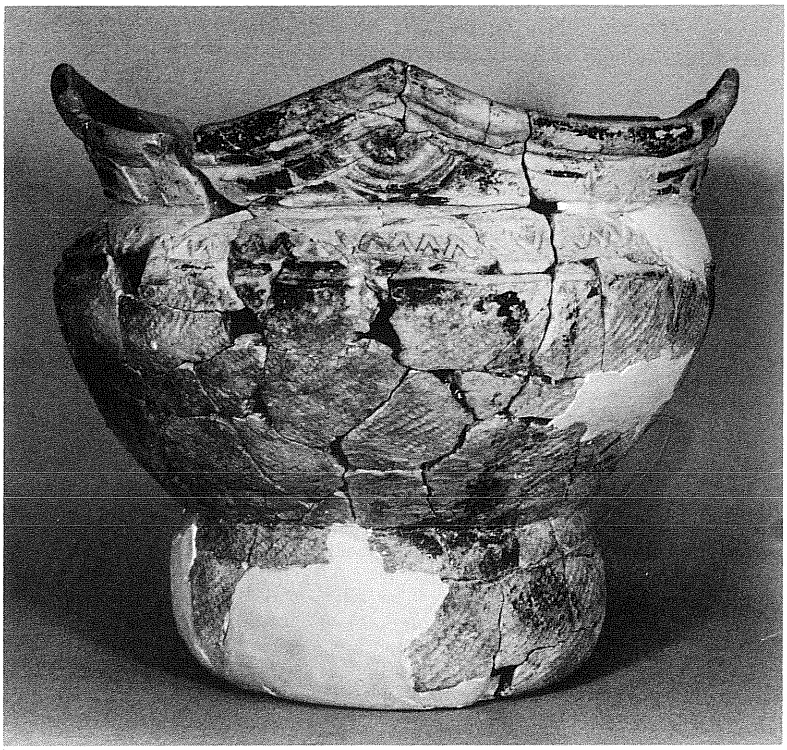


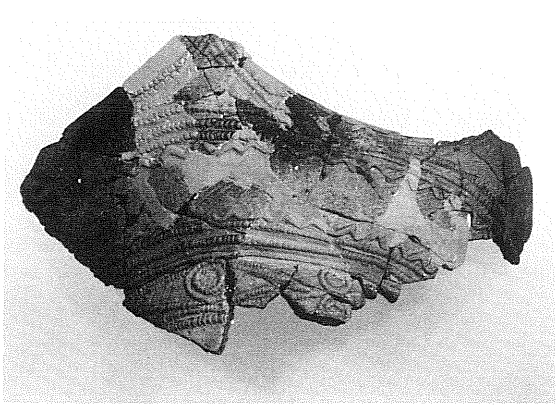


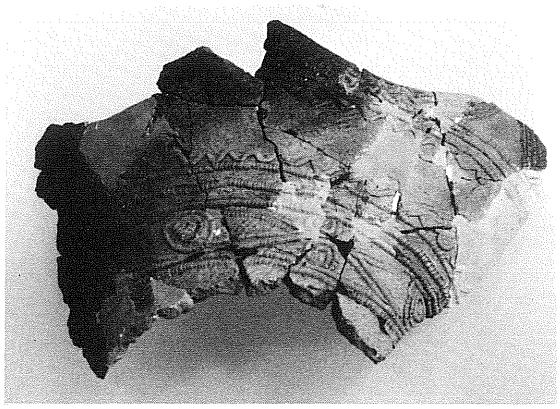




図版44　2地区出土土器



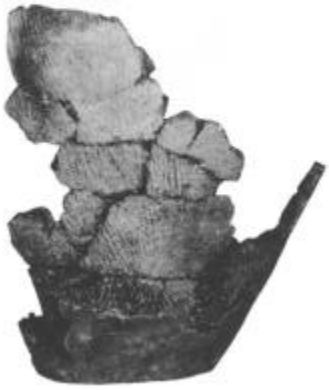




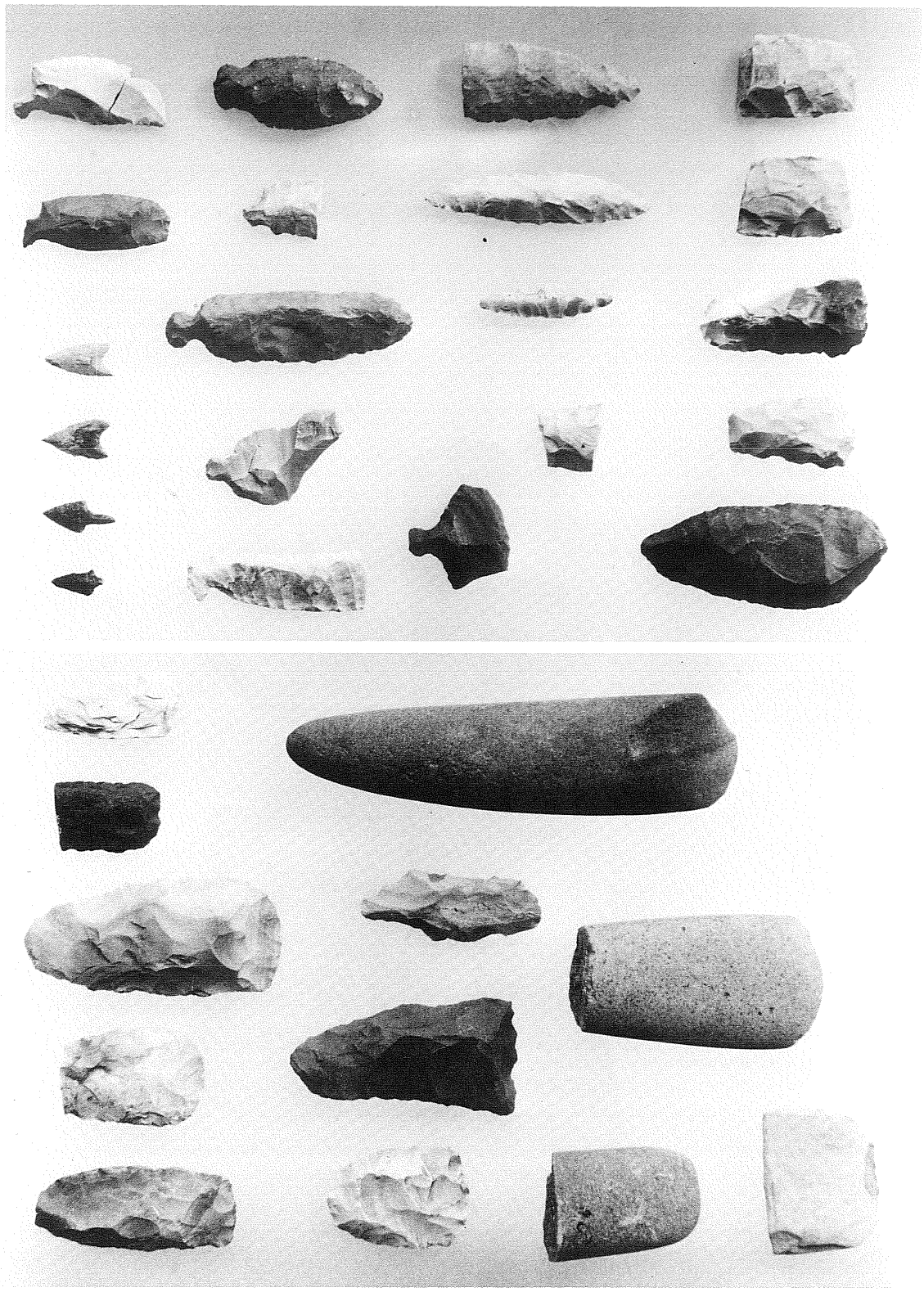
図版45　2地区出土土器

3 地区出土土器

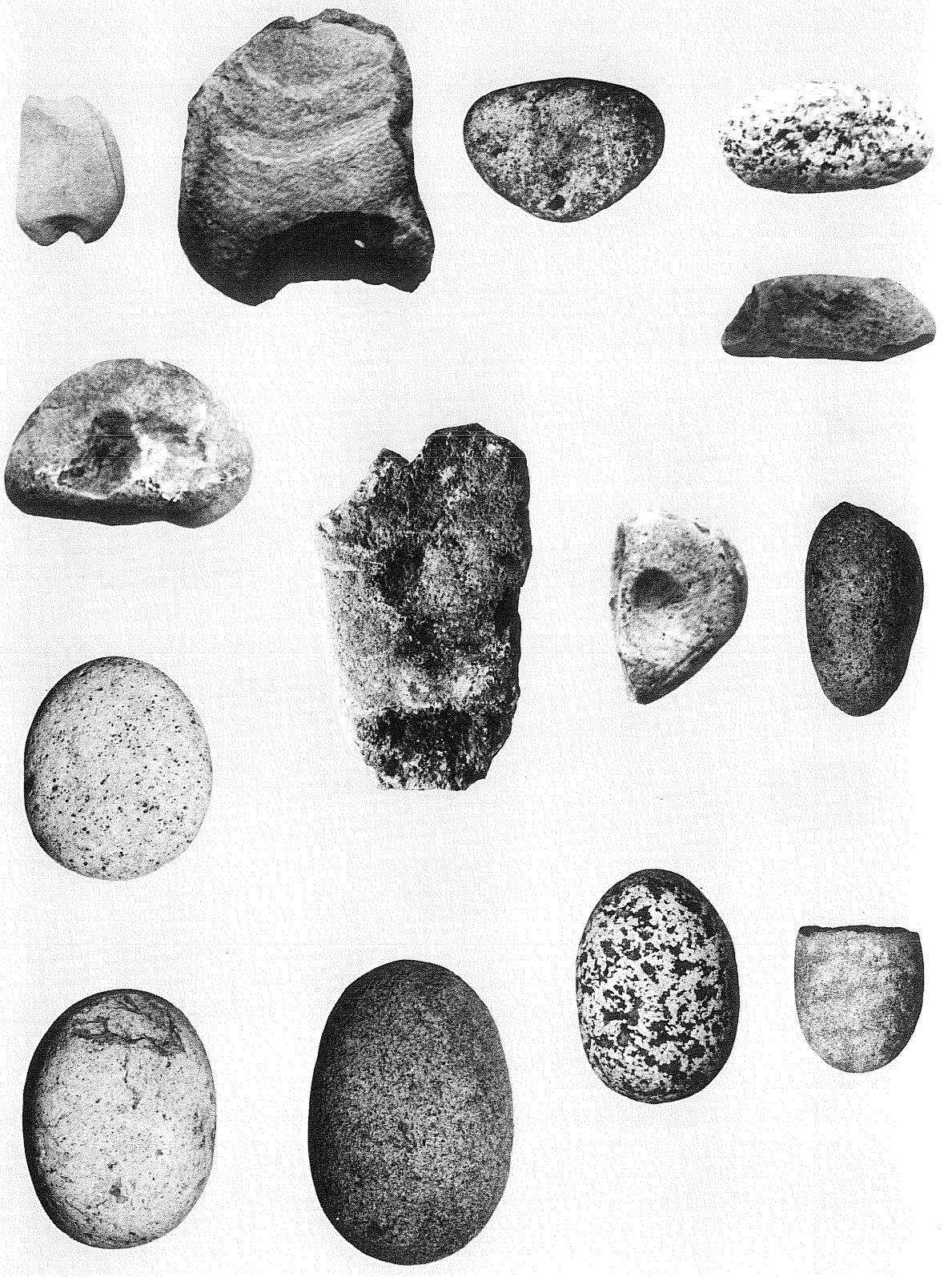
4 地区出土土器



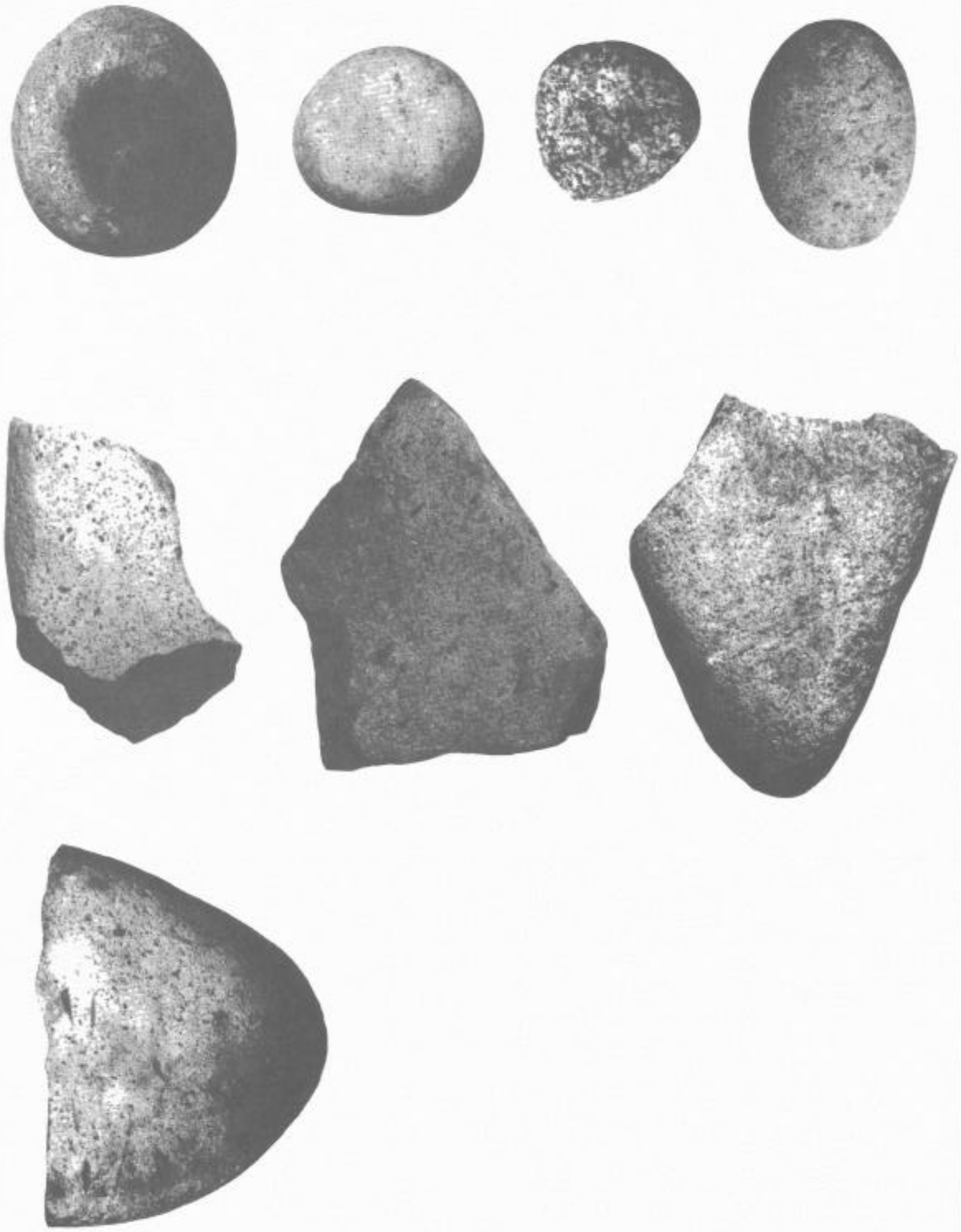
図版46



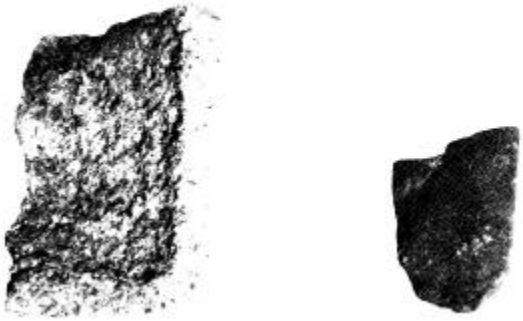
図版47　出土石器



図版48　出土石器



図版49　出土石器

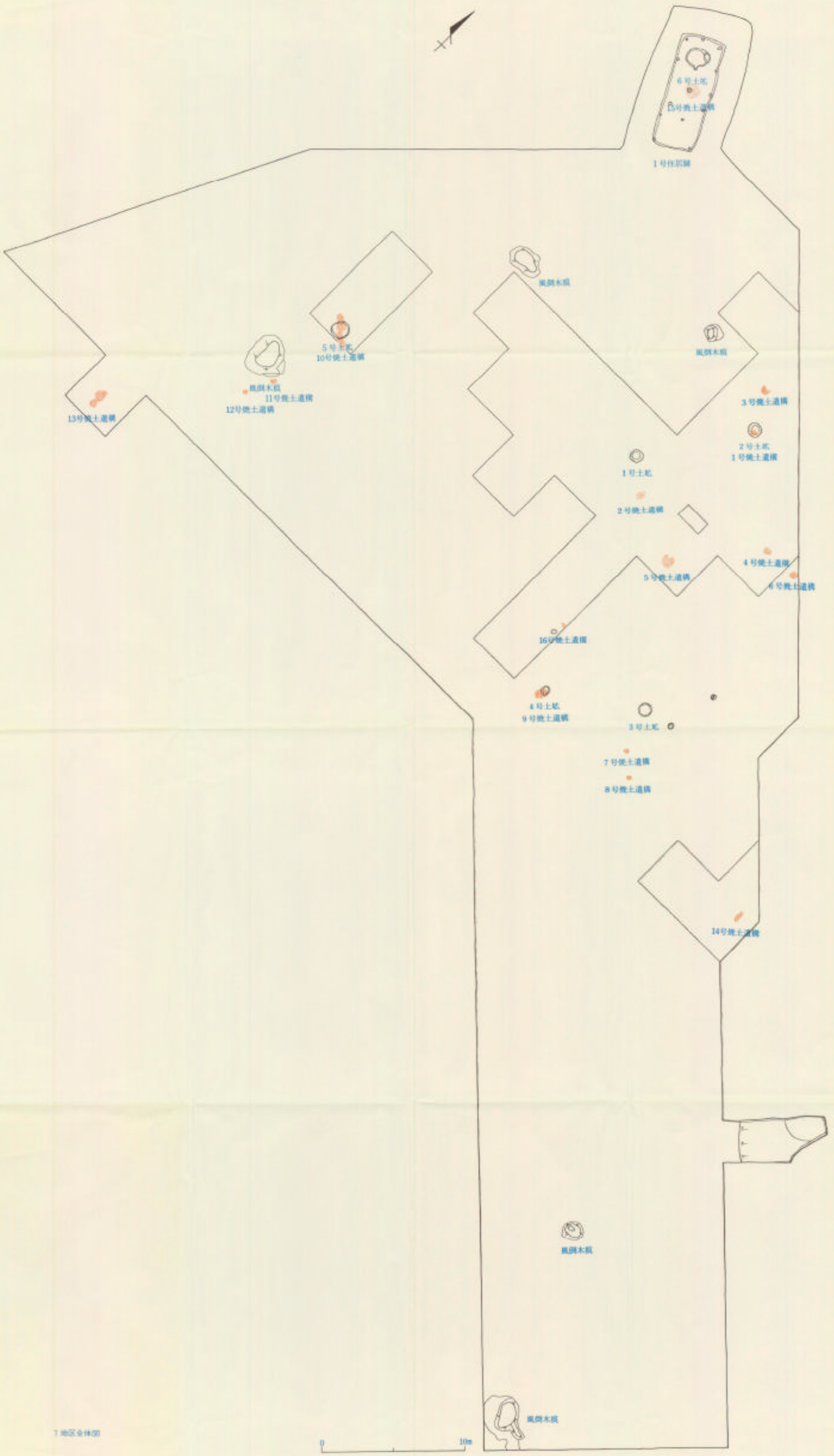


出土石器

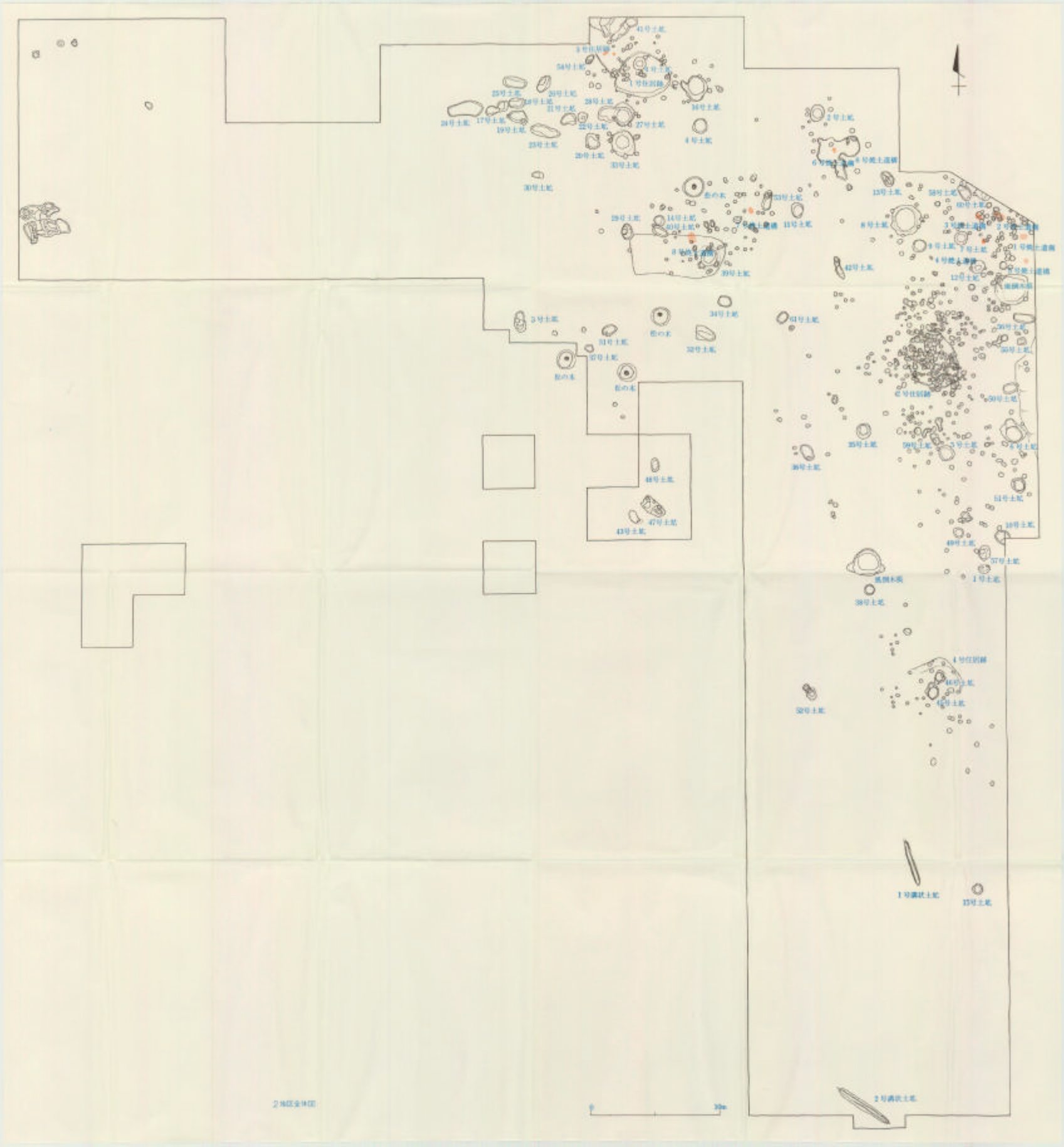
出土石製品

出土土製品

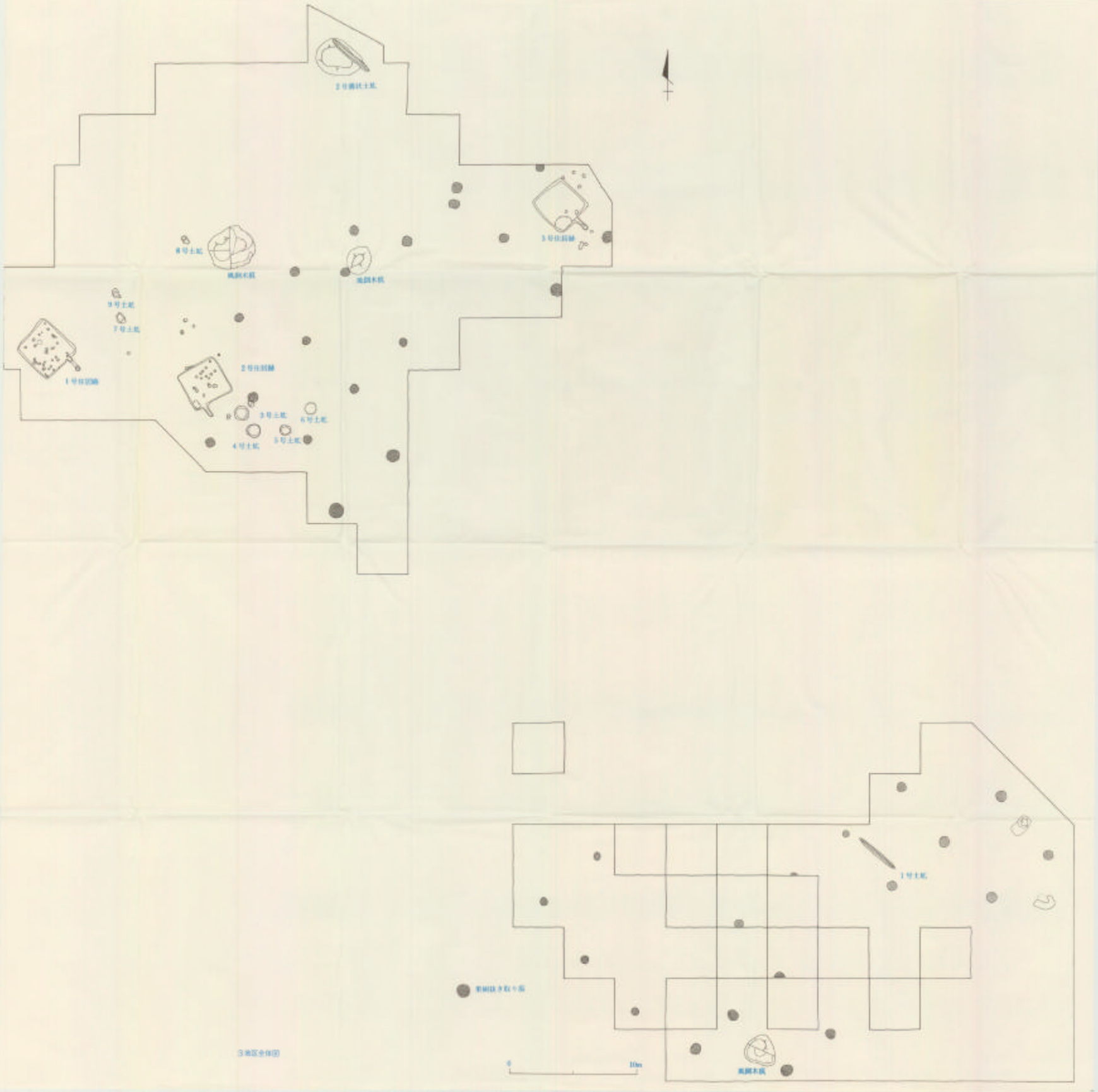
図版50

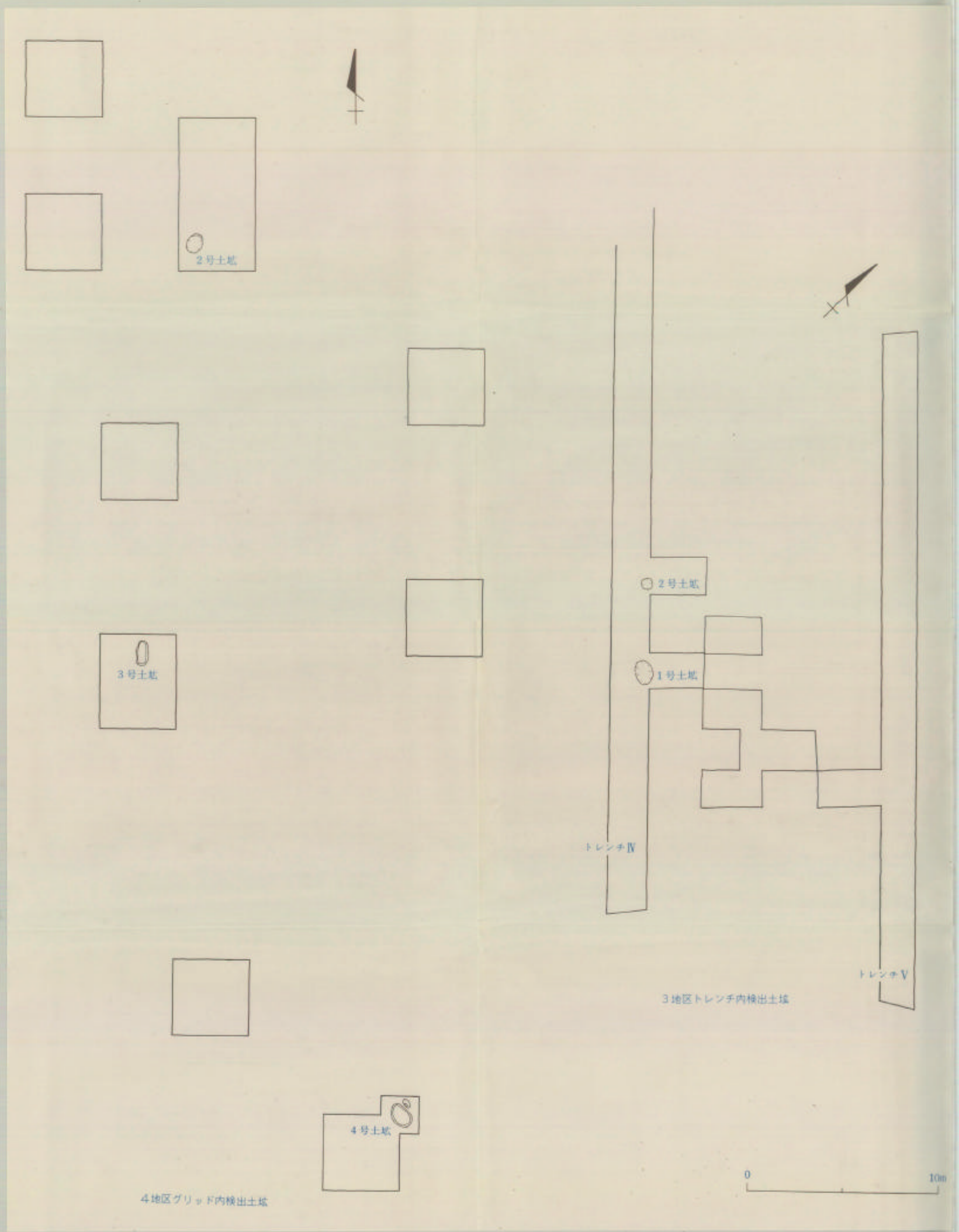

6号土坑
15号焼土遺構
1号住居跡
風倒木痕
5号土坑
10号焼土遺構
風倒木痕
11号焼土遺構
12号焼土遺構
13号焼土遺構
風倒木痕
3号焼土遺構
2号土坑
1号焼土遺構
1号土坑
2号焼土遺構
4号焼土遺構
5号焼土遺構
6号焼土遺構
16号焼土遺構
4号土坑
9号焼土遺構
3号土坑
7号焼土遺構
8号焼土遺構
14号焼土遺構
風倒木痕
風倒木痕
0
10m

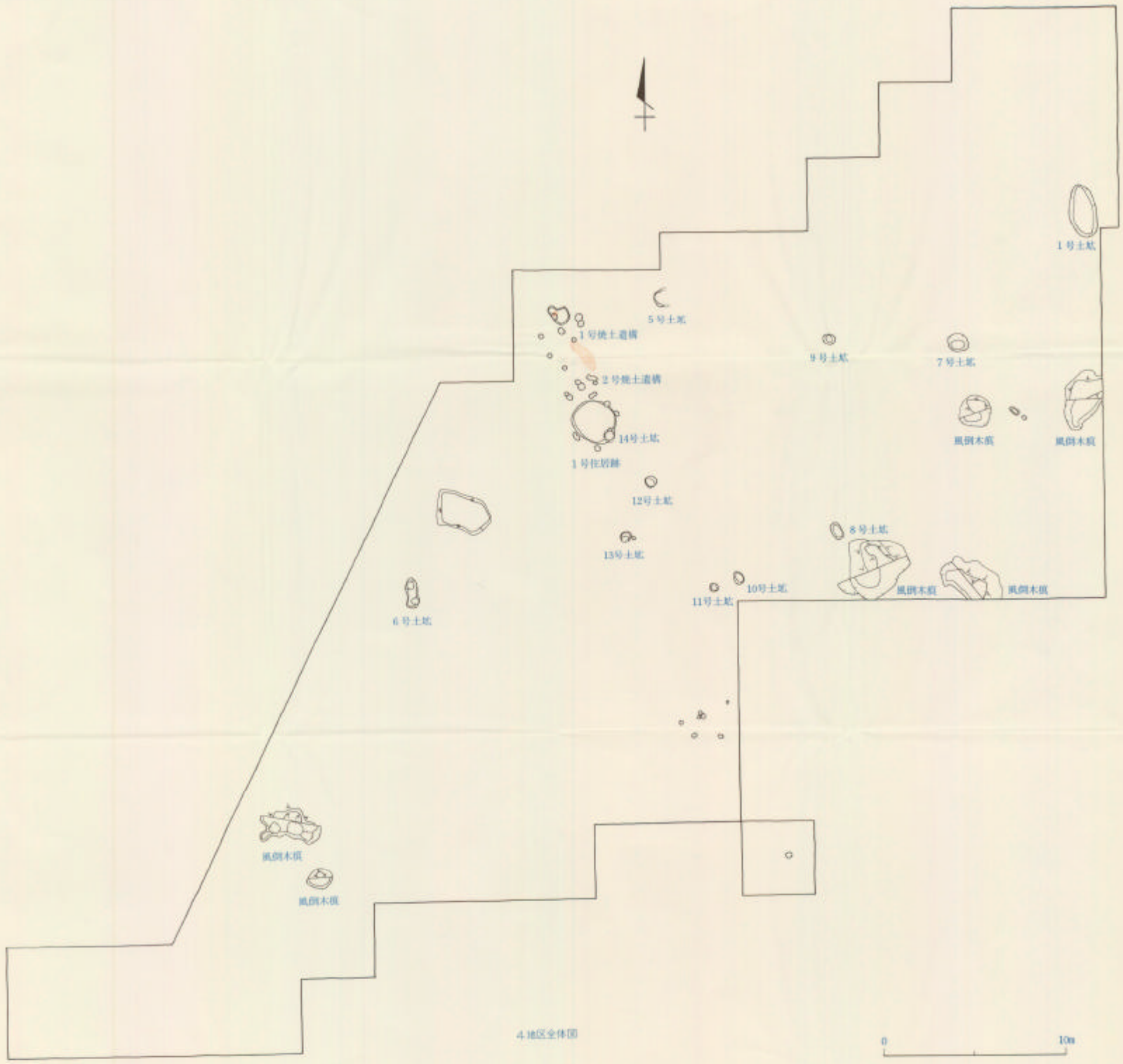
1地区全体図


41号土坑
54号土坑
25号土坑
26号土坑
28号土坑
21号土坑
24号土坑
17号土坑
19号土坑
22号土坑
27号土坑
16号土坑
23号土坑
20号土坑
33号土坑
4号土坑
30号土坑
2号土坑
6号竪穴遺構
8号竪穴遺構
13号土坑
58号土坑
60号土坑
松の木
53号土坑
29号土坑
14号土坑
10号土坑
11号土坑
8号土坑
3号竪穴遺構
2号竪穴遺構
9号土坑
7号土坑
1号竪穴遺構
39号土坑
42号土坑
4号竪穴遺構
12号土坑
風倒木痕
5号土坑
34号土坑
61号土坑
31号土坑
32号土坑
57号土坑
松の木
松の木
56号土坑
55号土坑
42号住居跡
50号土坑
35号土坑
59号土坑
3号土坑
6号土坑
36号土坑
48号土坑
47号土坑
43号土坑
51号土坑
10号土坑
49号土坑
37号土坑
1号土坑
風倒木痕
38号土坑
4号住居跡
46号土坑
45号土坑
52号土坑
1号溝状土坑
15号土坑
2号溝状土坑
0
30m

2地区全体図


2号溝状土坑
3号住居跡
8号土坑
地図木柱
地図木柱
9号土坑
7号土坑
1号住居跡
2号住居跡
3号土坑
6号土坑
4号土坑
5号土坑
1号土坑
地図木柱
0
10m


2号土坑
2号土坑
1号土坑
3号土坑
トレンチⅣ
トレンチⅤ
3地区トレンチ内検出土坑
4号土坑
4地区グリッド内検出土坑
0
10m


1号土坑
5号土坑
1号焼土遺構
2号焼土遺構
9号土坑
7号土坑
14号土坑
1号住居跡
風倒木痕
風倒木痕
12号土坑
8号土坑
13号土坑
10号土坑
11号土坑
風倒木痕
風倒木痕
6号土坑
風倒木痕
風倒木痕
4地区全体図
0
10m

秋田市
下堤D遺跡発掘調査報告書

昭和57年3月

発　行　　秋田市教育委員会

印　刷　　株式会社三戸印刷所